

元総社蒼海遺跡群

元総社小見内Ⅸ遺跡 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群

元 総 社 小 見 内 IX 遺 跡
総 社 閑 泉 明 神 北 V 遺 跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



1 元総社小見内区遺跡 遠景 (南から)



2 元総社小見内区遺跡 出土遺物



3 元総社小見内区遺跡A区 1号土器埋納土坑全景（南から）



4 総社閑泉明神北V遺跡B区 Hr-FA下水田跡（西から）

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。平成16年12月には粕川村、宮城村、大胡町と合併し、新たな歴史をスタートさせたところであります。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室4古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東4名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度調査を行いました元総社小見内Ⅸ遺跡は、前橋市西部の国分尼寺の南、国府推定域のわずか西側に、総社閑泉明神北Ⅴ遺跡は、同じく国府推定域の東側を流れる牛池川の近くにそれぞれ所在します。国府や国分尼寺に直接関連すると思われる構造物、道路、溝などの遺構は検出されませんでした。また、竪穴住居跡、溝跡、水田跡などが検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国府周辺の土地利用の状況を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、厳しい気候の中、調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

本報告書が市史究明の一助となることを祈念して序といたします。

平成17年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団 長 中 原 恵 治

例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整理事業に伴う元総社小見内区遺跡・総社閑泉明神北V遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。










調査場所	群馬県前橋市元総社町、総社町総社地内
発掘調査期間	平成16年5月25日～平成16年11月2日
整理・報告書作成期間	平成16年12月16日～平成17年3月24日
発掘・整理担当者	岩崎琢郎・高坂麻子（発掘調査係員）
4. 本書の原稿執筆・編集は岩崎・高坂が行った。
5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
石原義夫・岩木 操・大澤俊夫・大嶋洋平・岸フクエ・斉藤亀寿・佐鳥眞彦・白石 晃・須田博治
角田 愷・渡木秋子・中澤光江・平林しのぶ・湯浅たま江・湯浅道子
6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1. 挿図中に使用した北は、座標北である。
2. 挿図に建設省国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮、長野）、1/25,000地形図（前橋）、1/2,500前橋市現形図を使用した。
3. 遺跡の略称は、次のとおりである。・元総社小見内区遺跡：16A114・総社閑泉明神北V遺跡：16A106
4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳	・奈良・平安時代の竪穴住居跡	T…竪穴状遺構	W…溝跡	D…土坑
P…ピット	・貯蔵穴（住居内P ₅ を貯蔵穴とした。）	I…井戸跡		
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構	住居跡・竪穴状遺構・水田跡・溝跡・井戸跡・土坑・ピット…1/60	竈断面図…1/30	
	全体図…1/200		
遺物	土器・鉄製品…1/1、1/3、1/4	石器・石製品…1/1、1/3、2/3、1/4、1/5	瓦…1/5
	木製品…1/6		
6. 計測値については、（ ）は現存値、[]は復元値を表す。
7. セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。
◎ 非常に締まり・粘性あり、○ 締まり・粘性あり、△ 締まり・粘性ややあり、× 締まり・粘性なし
8. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図	焼 土… 	灰… 	
遺構断面図	構 築 面… 		
遺物実測図	須恵器断面… 	炭化物（煤付着など）… 	黒色処理… 
	灰釉・緑釉陶器断面… 	灰釉陶器内面… 	灰釉陶器内面… 
9. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B	（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP	（榛名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FPF1	（榛名ニッ岳第1軽石流堆積物：Hr-FAの噴火に伴う火砕流、6世紀初頭）
Hr-FA	（榛名ニッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As-C	（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）

*上記2回の榛名山噴火に伴う軽石を総称する場合、FSを用いる。

目 次

序	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	9
V 遺構と遺物	
1 元総社小見内Ⅸ遺跡A区	19
2 元総社小見内Ⅸ遺跡B区	21
3 元総社小見内Ⅸ遺跡C区	25
4 元総社小見内Ⅸ遺跡D区	25
5 元総社小見内Ⅸ遺跡E区	26
6 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡A区	39
7 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	39
VI 自然科学分析	42
VII ま と め	50

図 版

- 口絵 1 元総社小見内Ⅸ遺跡 遠景（南から）
 2 元総社小見内Ⅸ遺跡 出土遺物
 3 元総社小見内Ⅸ遺跡A区
 1号土器埋納土坑（南から）
 4 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区
 Hr-FA下水田（西から）
- P.L. 1 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 全景、H-1・2
 号住居跡
 2 A区 H-3～5号住居跡、W-1・2号溝
 跡、1号土器埋納土坑
 3 A区 1～2号土器埋納土坑、B区 全景、
 H-2号住居跡、H-3号住居跡遺物出土状
 況
 4 B区 H-3～7号住居跡
 5 B区 H-8～9・11号住居跡、I-1号井
 戸跡、C区 全景
 6 D区 全景、E区 全景、H-1号住居跡、
 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区 第1面自然河川、
 第2面Hr-FA下水田畦畔、第3面1号溝跡
 7 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 出土土器（1）
 8 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 出土土器（2）
 9 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 出土土器（3）、
 A区出土瓦・鉄製品・石製品、B区 出土土
 器（1）
 10 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 出土土器（2）
 11 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 出土土器（3）、
 B区出土瓦・古銭・石器・石製品、C・E区
 出土土器、総社閑泉明神北Ⅴ遺跡 出土土器・
 木製品
 12 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 1号土器埋納土坑
 出土土器、A・B区 出土鉄器・鉄製品
 写真 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡
 写真
- 挿 図
- Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図
 2 周辺遺跡図
 3 元総社蒼海遺跡群とグリッド設定図
- 4 元総社小見内Ⅵ遺跡A・B区 基本層序
 5 元総社小見内Ⅵ遺跡C～E区 基本層序
 6 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡A区 基本層序
 7 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区 西部～中央部北壁
 土層
 8 元総社小見内Ⅸ遺跡A・C・D・E区 全体図
 9 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 全体図
 10 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡A・B区 全体図
 11 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区 土層柱状図
 12 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区 植物珪酸体分析結
 果
 13 時期別の竪穴式住居配置図
 14 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 1号土器埋納土坑遺
 物検出状況
 15 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 H-1・2号住居跡
 16 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 H-3・4号住居跡
 17 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 H-5～7号住居跡、
 T-1竪穴状遺構、W-1溝跡
 18 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 W-2溝跡、D-1
 ～13号土坑、1号土器埋納土坑
 19 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 2号土器埋納土坑、
 B区H-1・2号住居跡
 20 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 H-3～5号住居跡
 21 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 H-6～8号住居跡
 22 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 H-9～11号住居跡
 23 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 H-12～14号住居跡、
 W-1・2号溝跡
 24 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 W-3号溝跡、D-1
 ～13号土坑、1号不明遺構
 25 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 I-1・2号井戸跡、
 C区 H-1号住居跡、W-1溝跡、D-1～
 3号土坑
 26 元総社小見内Ⅸ遺跡D区 W-1～3号溝、E
 区H-1号住居跡、W-1溝跡
 27 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡A区 H-1・2号住居
 跡、D-1・2土坑、B区 Hr-FA下水田、
 W-1溝跡
 28 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 出土土器（1）
 29 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 出土土器（2）
 30 元総社小見内Ⅸ遺跡A区 出土土器（3）

31	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土土器 (4)	表	
32	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土土器 (5)	15 元総社小見内Ⅸ遺跡D区	溝跡計測表
33	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土土器 (6)	16 元総社小見内Ⅸ遺跡E区	住居跡一覧表
34	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土土器 (7)	17 元総社小見内Ⅸ遺跡E区	溝跡計測表
35	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土土器 (8)	18 元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土土器観察表
36	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土土器 (9)、 B区出土土器 (1)	19 元総社小見内Ⅸ遺跡B区	出土土器観察表
37	元総社小見内Ⅸ遺跡B区	出土土器 (2)	20 元総社小見内Ⅸ遺跡C区	出土土器観察表
38	元総社小見内Ⅸ遺跡B区	出土土器 (3)	21 元総社小見内Ⅸ遺跡E区	出土土器観察表
39	元総社小見内Ⅸ遺跡C・E区、総社閑泉明神 北Ⅴ遺跡	出土土器、元総社小見内Ⅸ遺跡A 区	22 元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土瓦観察表
40	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土瓦 (2)	23 元総社小見内Ⅸ遺跡B区	出土瓦観察表
41	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土瓦 (3)、B 区出土瓦 (1)	24 元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土鉄器・鉄製品 観察表
42	元総社小見内Ⅸ遺跡B区	出土瓦 (2)、A・ B区出土鉄器・鉄製品・古銭	25 元総社小見内Ⅸ遺跡B区	出土鉄器・鉄製品・ 古銭観察表
43	元総社小見内Ⅸ遺跡A・B区、総社閑泉明神 北Ⅴ遺跡B区	出土石器・石製品	26 元総社小見内Ⅸ遺跡A区	出土石器・石製品 観察表
44	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	出土木製品	27 元総社小見内Ⅸ遺跡B区	出土石器・石製品 観察表
表				
Tab. 1	元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧			
2	調査経過表			
3	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	住居跡・竪穴状遺 構一覧表	28 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡A区	住居跡一覧表
4	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	竈跡一覧表	29 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡A区	土坑・ピット計 測表
5	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	溝跡計測表	30 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	水田計測表
6	元総社小見内Ⅸ遺跡A区	土坑・ピット計測 表	31 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	溝跡計測表
7	元総社小見内Ⅸ遺跡B区	住居跡一覧表	32 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	自然河川計測表
8	元総社小見内Ⅸ遺跡B区	竈跡一覧表	33 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡A区	出土土器観察表
9	元総社小見内Ⅸ遺跡B区	溝跡計測表	34 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	出土土器観察表
10	元総社小見内Ⅸ遺跡B区	土坑・井戸跡・ピッ ト計測表	35 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	石器観察表
11	元総社小見内Ⅸ遺跡C区	住居跡一覧表	36 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	木製品観察表
12	元総社小見内Ⅸ遺跡C区	竈跡一覧表	37 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	テフラ検出分析 結果
13	元総社小見内Ⅸ遺跡C区	溝跡計測表	38 総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区	植物珪酸体分析 結果
14	元総社小見内Ⅸ遺跡C区	土坑・ピット計測		

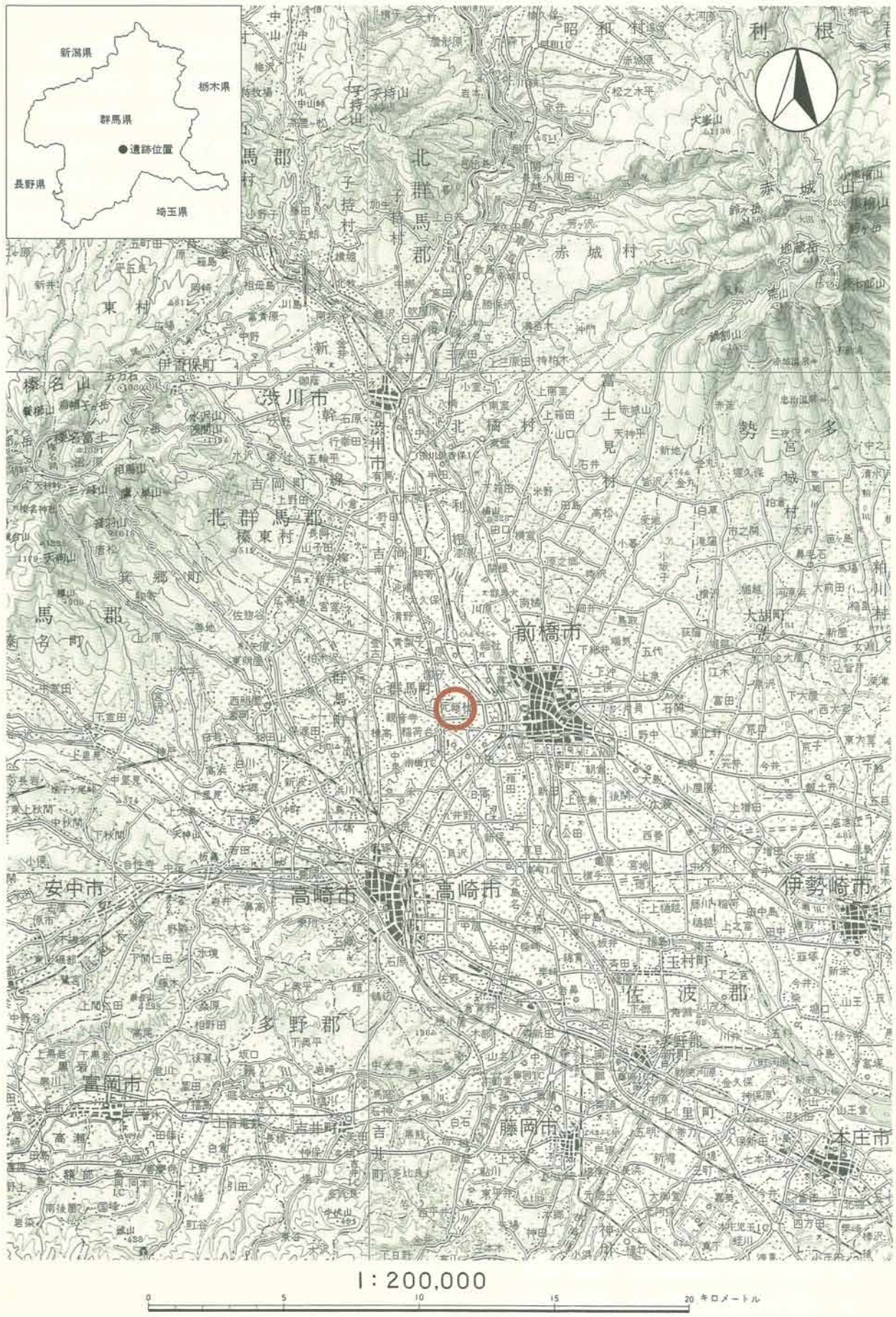


Fig 1. 元総社蒼海遺跡群位置図

I 調査に至る経緯

平成16年4月16日付けで、前橋市長 高木 政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 中原 恵治に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。

平成16年5月24日、調査依頼者である前橋市長 高木 政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 中原 恵治との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月25日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社小見内区遺跡」「総社閑泉明神北V遺跡」の「小見内」「閑泉明神北」は旧地籍の小字名を採用し、名称中のローマ数字は過年度に調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

元総社小見内区遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。また、総社閑泉明神北V遺跡はそれよりおよそ0.6km東の牛池川の東岸、総社町総社地内に所在している。元総社小見内区遺跡の西0.4kmには関越自動車道が南北に走り、総社閑泉明神北V遺跡の南約0.7kmには総社神社がある。さらに、元総社小見内区遺跡の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また総社閑泉明神北V遺跡の東側には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っており、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。

2 歴史的環境

遺跡名の後の()付数字は、Fig.2及びTab.1の遺跡番号と対応する。

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王麿寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東(16)・産業道路西遺跡(17)や上野国分僧寺・尼寺中間地域(21)が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少なく、当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡(19)、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域(21)や桜ヶ丘遺跡(34)、下東西遺跡(24)等に散見されるだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北側に位置する総社古墳群が挙げられる。古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳(13)、川原石を用いた積石塚である王山古墳(8)、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳(12)、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳(11)、県内の古墳の中でも最終末期のものと考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳(14)・蛇穴山古墳(9)がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺)(5)がある。この寺の塔心礎や石製鷗尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、山王廃寺を上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺、総社古墳群が「上毛野氏」一族の埋葬地と考えられ、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。また、水田跡は、総社閑泉明神北遺跡(55)や元総社明神遺跡(28)、総社北川遺跡(69)等、牛池川付近から検出されており、この時代の生産域を想定する資料となっている。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺(3)、国分尼寺(4)が建設されるなど、政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、本遺跡周辺に置かれたとされる。

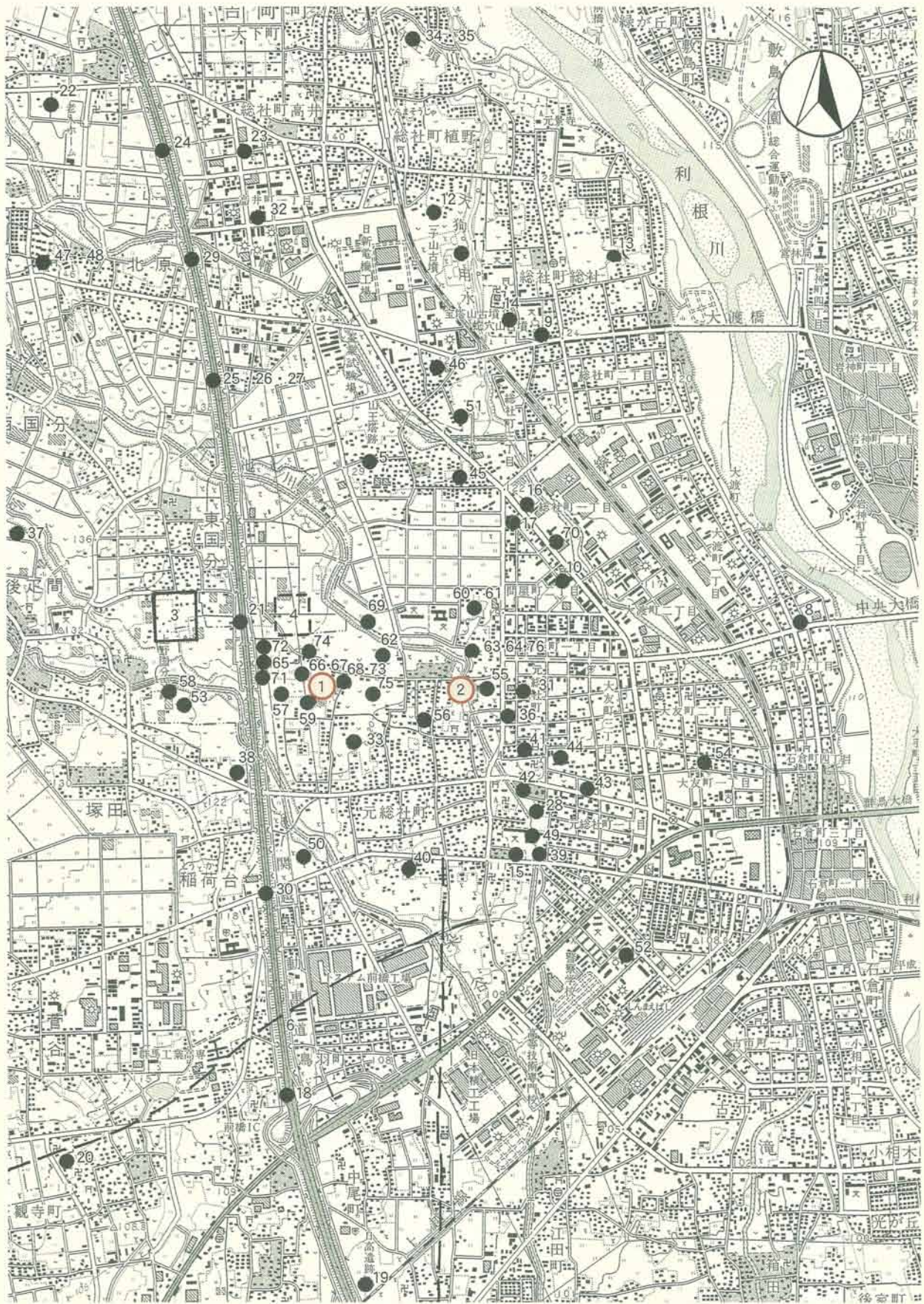
この国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡(15)や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡(49)、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡(56)がある。また、大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡(31)と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡(28)の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに、元総社小見内Ⅲ遺跡(62)及び元総社小見内Ⅳ遺跡(68)からは、国分尼寺の東南隅から国府に向かうと思われる溝跡が検出されている。一方、元総社小見内Ⅲ遺跡(62)からは官人の用いたと考えられる円面硯、巡方(腰帯具)も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分寺(3)は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺(4)は昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ、伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団が南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。さらに国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域(21)では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1km南の地点にN-64°-E方向の東山道(国府ルート)(6)があることが推定される。また、日高道(7)は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したルートを推定したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元(1429)年、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有する城として県内でも最古級に位置づけられ、さらに県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される本遺跡周辺の地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。この調査により、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。



1 : 25,000



Fig 2. 周辺遺跡図

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺 跡 名	調査年度	時 代:主な遺構・出土遺物
1	元総社小見内区遺跡	2004	本遺跡
2	総社閑泉明神北V遺跡		
3	上野国分寺跡(県教委)	1980~88	奈良:金堂基壇・塔基壇
4	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良:西南隅・東南隅築垣
5	山王廃寺跡	(1974)	古墳:塔心礎・根巻石
6	東山道(推定)		
7	日高道(推定)		
8	王山古墳	1972	古墳:前方後円墳(6C中)
9	蛇穴山古墳	1975	古墳:方墳(8C初)
10	稲荷山古墳	1988	古墳:円墳(6C後半)
11	愛宕山古墳	1996	古墳:円墳(7C初)
12	総社二子山古墳	未調査	古墳:前方後円墳(6C末~7C初)
13	遠見山古墳	未調査	古墳:前方後円墳(5C後半)
14	宝塔山古墳	未調査	古墳:方墳(7C末)
15	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安:掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
16	産業道路東遺跡	1966	縄文:住居跡
17	産業道路西遺跡		縄文:住居跡
18	中尾遺跡(事業団)	1976	奈良・平安:住居跡
19	日高遺跡(事業団)	1977	弥生:水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安:条里制水田跡
20	正観寺遺跡Ⅰ~Ⅳ(高崎市)	1979~81	弥生:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡
21	上野国分僧寺・尼寺中間地域(事業団)	1980~83	縄文:住居跡・配石遺構、弥生:住居跡・方形周溝墓、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
22	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文:ピット、奈良・平安:住居跡、溝跡
23	中島遺跡	1980	奈良・平安:住居跡
24	下東西遺跡(事業団)	1980~84	縄文:屋外埋甕、弥生:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世:住居跡溝跡
25	国分境遺跡(事業団)	1990	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
26	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
27	国分境Ⅲ遺跡(群馬町)	1991	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・畠跡、中世:土坑墓
28	元総社明神遺跡Ⅰ~ⅩⅢ	1982~96	古墳:住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安:住居跡・溝跡・大形人形、中世:住居跡・溝跡・天目茶碗
29	北原遺跡(群馬町)	1982	縄文:土坑・集石遺構、古墳:水田跡 奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡
30	鳥羽遺跡(事業団)	1978~83	古墳:住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡(神殿跡)
31	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安:溝跡(上幅6,5~7m、下幅3,24m、深さ2m)
32	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983, 88	奈良・平安:住居跡・溝跡
33	草作遺跡	1984	古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:井戸跡
34	桜ヶ丘遺跡		弥生:住居跡
35	総社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985, 87	奈良・平安:住居跡
36	閑泉樋南遺跡	1985	古墳:住居跡、奈良・平安:溝跡
37	後疋間遺跡Ⅰ~Ⅲ(群馬町)	1985~87	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:道路状遺構
38	塚田村東遺跡(群馬町)	1985	平安:住居跡
39	寺田遺跡	1986	平安:溝跡・木製品
40	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 88	奈良・平安:住居跡
41	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 95	古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:堀跡・石敷遺構
42	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳:住居跡、平安:住居跡・溝跡・地下式土坑
43	堰越遺跡	1987	奈良・平安:住居跡・溝跡

番号	遺 跡 名	調査年度	時 代:主な遺構・出土遺物
44	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安:住居跡
45	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安:住居跡
46	村東遺跡	1988	古墳:住居跡・溝跡、奈良・平安:住居跡、中世:堀跡
47	熊野谷遺跡	1988	縄文:住居跡、平安:住居跡・溝跡
48	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安:住居跡
49	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ(事業団)	1988～91	古墳:水田跡・溝跡、奈良・平安:住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世:溝跡
50	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989, 95	古墳:住居跡、平安:住居跡
51	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
52	元総社稲葉遺跡	1993	縄文:土坑、平安:住居跡・瓦塔
53	上野国分寺參道遺跡	1996	古墳:住居跡、平安:住居跡
54	大友宅地添遺跡	1998	平安:水田跡
55	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳:畠跡・水田跡・溝、中世:溝跡
56	元総社宅地遺跡1～23トノチ	2000	古墳:住居跡、平安:住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世:溝跡、近世:住居跡・五輪塔・椀
57	元総社小見遺跡	2000	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
58	元総社西川遺跡(事業団)	2000	古墳:住居跡・畠跡、奈良・平安:住居跡・溝跡
59	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳:住居跡・溝跡、平安:住居跡・溝跡
60	総社甲稻荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:畠跡、近世:溝跡
61	総社甲稻荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・溝跡、近世:溝跡
62	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳:住居跡・溝跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世:掘立柱建物跡、溝跡
63	総社甲稻荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・畠跡・溝跡
64	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
65	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:溝跡・道路状遺構
66	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:溝跡・道路状遺構
67	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡
68	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世:土坑墓・掘立柱建物跡・溝跡
69	元総社北川遺跡(事業団)	2002～04	古墳:水田跡、奈良・平安:住居跡・畠跡、中・近世:掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
70	稻荷塚道東遺跡(事業団)	2003	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・溝跡・電構築材採掘痕・井戸跡
71	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡
72	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:掘立柱建物跡
73	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:井戸跡
74	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:畠跡、溝跡
75	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:竪穴状遺構
76	総社甲稻荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳:畠跡、中世畠跡

*調査年度の欄の()は調査開始年度を表す。

*遺跡名の欄の(事業団)は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

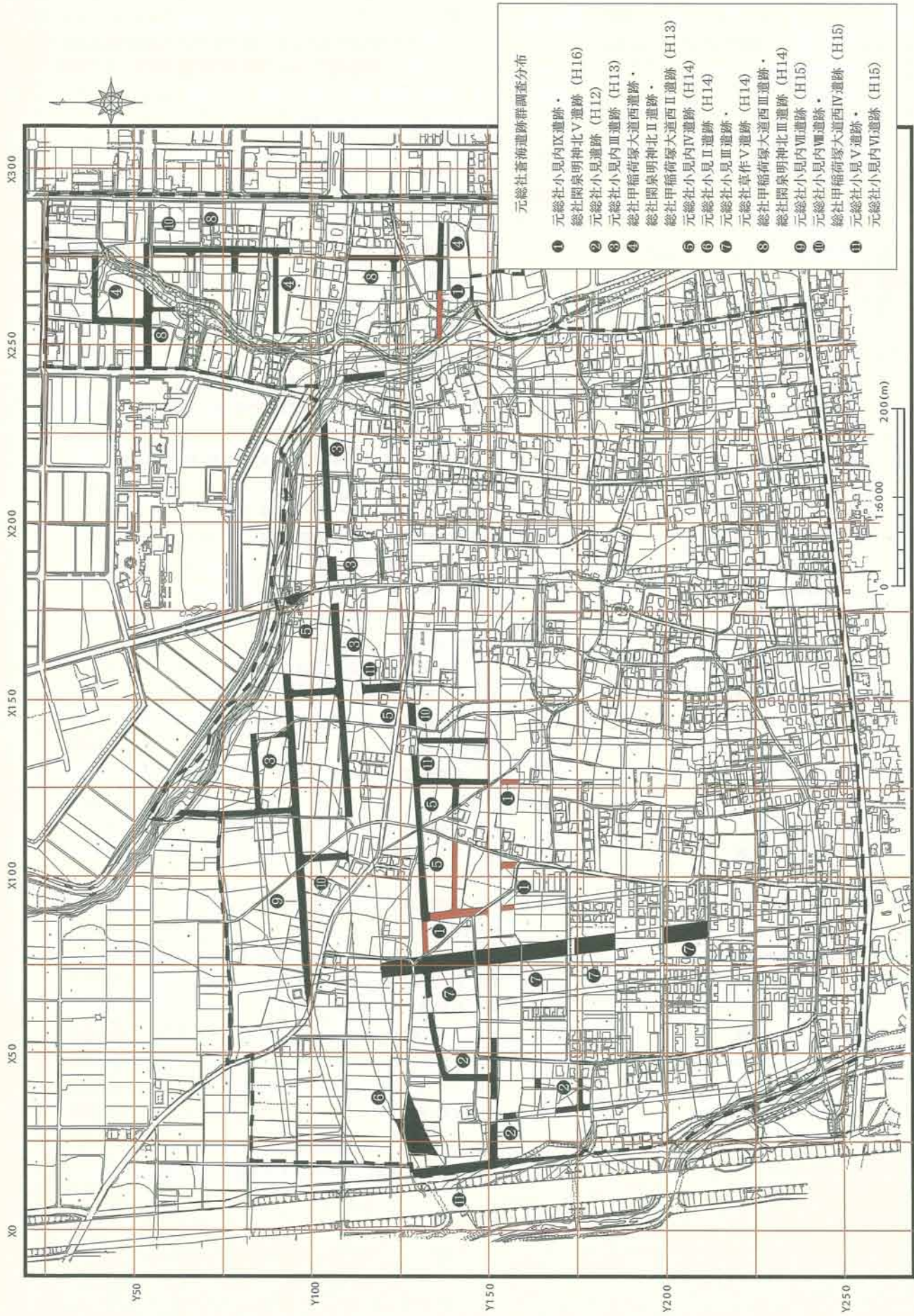


Fig 3.元総社蒼海遺跡群とグリッド設定図

Ⅲ 調査方針と経過

1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、元総社小見内Ⅸ遺跡が1,457㎡、総社閑泉明神北Ⅴ遺跡が293㎡の合計1,750㎡である。調査区は、元総社小見内Ⅸ遺跡ではA～E区の5箇所、また総社閑泉明神北Ⅴ遺跡では平地部のA区と低地部のB区の2箇所である。なお総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区では北半分が住宅と重複しているため、区画第二課と協議して調査区を3m南へ振り替えた。グリッド座標については、2000年の上野国分尼寺寺域確認調査から用いている4mピッチのものを継続して使用した。元総社小見内Ⅸ遺跡では西から東へX80、X81、X82…、北から南へY133、Y134、Y135…、総社閑泉明神北Ⅴ遺跡についても同様にX255、X256、X256…、136、Y137、Y138…となる。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

公共座標については、以下のとおりである。

・元総社小見内Ⅸ遺跡 測点 X95・Y145

世界測地系	X = +43774.908	Y = -72111.756	[新座標]
	X = +43420.000	Y = -71820.000	[旧座標]
緯度	36° 23' 30" . 6082	経度	139° 01' 46" . 1234
子午線収差角	28' 37" . 023	増大率	0.9999640

・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡

世界測地系	X = +43806.905	Y = -71451.765	[新座標]
	X = +43452.000	Y = -71160.000	[旧座標]
緯度	36° 23' 31" . 8237	経度	139° 02' 12" . 5961
子午線収差角	28' 21" . 328	増大率	0.9999628

検出が予想される主な遺構は奈良・平安期の集落であり、調査は①表土掘削（原則としてバックフォー0.4㎡使用）②遺構確認（主に鋤簾）③方眼杭等設置④遺構掘下⑤遺構精査⑥測量⑦全景写真撮影（小見内ⅨA、B区では高所作業車使用）の順で行うことにした。このうちの遺構確認については、基本的にFS（6世紀の榛名山の噴火に伴う軽石）とAs-B（浅間B軽石・1108年）が混入する土層を手がかりにした。

なお総社閑泉明神北Ⅴ遺跡B区では、複数の面から水田跡等の検出が予想された。テフラ層や洪水層に着目しそれらの下面からの遺構確認を試みるとともに、遺構の年代や水田耕作の可否を推定するため、テフラ分析、植物珪酸体（プラントオパール）分析等の自然科学分析を行うことにした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

両遺跡の発掘調査は、5月12日に委託契約を締結、5月25日より現地調査を開始した。道路工事の工程上、総社閑泉明神北Ⅴ遺跡から着手した。A区では住宅の基礎に壊されたためか遺構数は少なく、住居跡2軒等を確認したにとどまった。一方B区では、調査面が2mを越える深さになることが予想されたため、柵や排水ポンプの設置など安全対策には十分留意した。西部ではテフラ層や洪水層を手がかりに計4面での調査となり、小区画水

田跡等を検出した。中央部、東部では遺構は確認できなかった。6月22日をもって本遺跡の調査を終了、その後B区の埋め戻しを行った。なお、各調査面の詳細は土層の状況と併せて第IV章に記す。

元総社小見内IX遺跡は6月15日から調査を行った。地内の作物の栽培状況等を考慮してC・D区及びB区南端部、A区、B区、E区の順で着手した。C、D区には遺構は少なく、またB区南端では遺構は確認できなかった。次にA区には6月25日から着手し、住居跡7軒や土器埋納土坑2基等を検出した。B区は8月5日から調査を開始した。調査区の形状や規模を考え、表土掘削後にまず壁面や中央部に人力で連続したトレンチを設け、断面を観察しながら遺構の状況を把握した。精査した結果、住居跡14軒や大型の井戸等を検出した。最後のE区にはB区と並行して9月6日から着手し、住居跡1軒等を検出した。11月2日をもって本遺跡の調査を終了、その後埋め戻しと耕耘を行った。

両遺跡の整理、報告書作成作業は12月16日より文化財保護課で行い、3月24日までにすべての作業を終了した。

Tab.2 調査経過表

遺跡名	査区・調査面名	調査期間							
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
元総社小見内IX遺跡	A区			—————					
	B区		—		—————				
	C区		——						
	D区		——						
	E区					——			
総社閑泉明神北V遺跡	A区		——						
	B区	第1面		—	(土師面1・As-B~Hr-FPF1層準)				
		第2面		—	(土師面2・Hr-FA下)				
		第3面		—	(土師面3・Hr-FA~As-C層準)				
		第4面		—	(土師面4・As-CT)				

IV 基本層序

1 元総社小見内IX遺跡

本遺跡は北西から東西方向にA・B区、南北方向にB・C・D・E区と展開している。遺構確認面は現耕作土とAs-B混土下のFS・As-C混土で、地山はA区西半分及びE区では総社砂層、A区X80以東及びB～D区では黒褐色粘質土層となる。地形的にはA区西部及びE区がやや高く、B～D区は低地帯である。

A区

I	10YR3/3	暗褐色土	△×	表土 (現耕作土)
II	10YR4/2	灰黄褐色土	××	As-B多量に含む
III	10YR2/3	黒褐色土	△○	FS、As-C含む
IV	10YR2/3	黒褐色土	○○	軽石小粒含む
V	10YR2/3	黒褐色土	○○	IV層にVI層含む
VI	10YR6/3	にぶい黄橙色シルト	△△	黒褐色粘土ブロック含む
VII	10YR4/1	褐灰色シルト	××	
VIII	10YR5/3	灰黄褐色砂質土	××	

B区

I	10YR3/3	暗褐色土	○×	表土 (現耕作土)
II	10YR2/2	黒褐色土	○×	As-B多量に含む
III	10YR3/2	黒褐色土	△×	FS、As-C含む
IV	10YR2/1	黒褐色土	○△	As-C多量に含む
V	10YR3/1	黒褐色シルト	○○	
VI	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	○○	

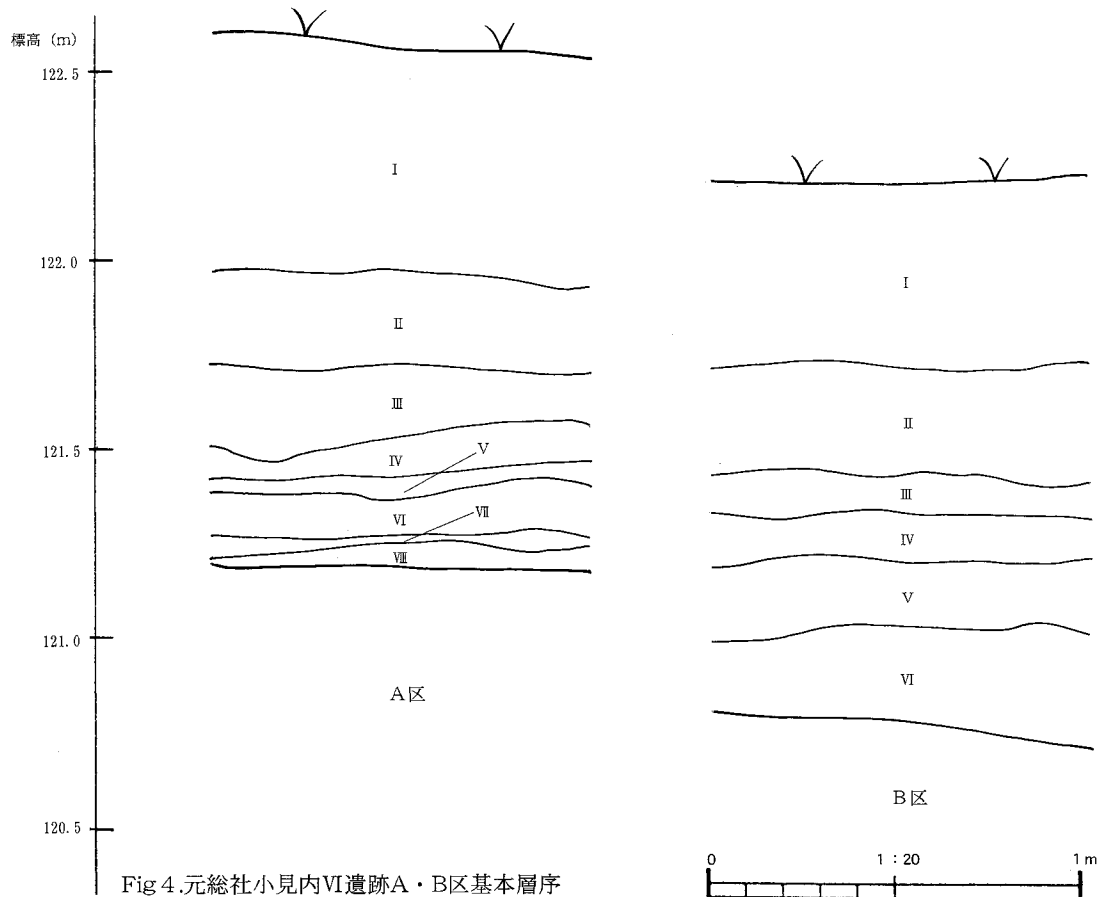


Fig 4.元総社小見内IX遺跡A・B区基本層序

C区

- | | |
|------------------|---------------|
| I 10YR4/2 灰黄褐色土 | ○× 表土 (現耕作土) |
| II 10YR2/2 暗褐色土 | ○△ As-B含む |
| III 10YR2/3 黒褐色土 | △○ FS, As-C含む |
| IV 10YR2/2 黒褐色土 | △○ As-C多量に含む |
| V 10YR3/2 黒褐色シルト | △◎ As-Cごく少量含む |

D区

- | | |
|--------------------|---------------|
| I 10YR4/2 灰黄褐色土 | ×× 表土 (現耕作土) |
| II 10YR2/2 黒褐色土 | △× As-B含む |
| III 10YR2/2 黒褐色土 | △× As-B多量に含む |
| IV As-B | ×× 二次堆積 |
| V 10YR5/6 にぶい黄褐色土 | △△ FS, As-C含む |
| VI 10YR2/1 黒色土 | △○ As-C多量に含む |
| VII 10YR2/1 暗褐色シルト | ○○ |

E区

- | | |
|------------------|-------------------------|
| I 10YR3/3 暗褐色土 | △× 表土 (現耕作土) |
| II 10YR2/3 黒褐色土 | △× As-B多量に含む |
| III 10YR3/2 黒褐色土 | △× As-B, FS, As-Cごく少量含む |
| IV 10YR2/2 黒褐色土 | ×△ FS, As-C含む |
| V 10YR3/4 暗褐色砂質土 | △× VI層の漸移層 |
| VI 10YR4/6 褐色砂質土 | ○× |

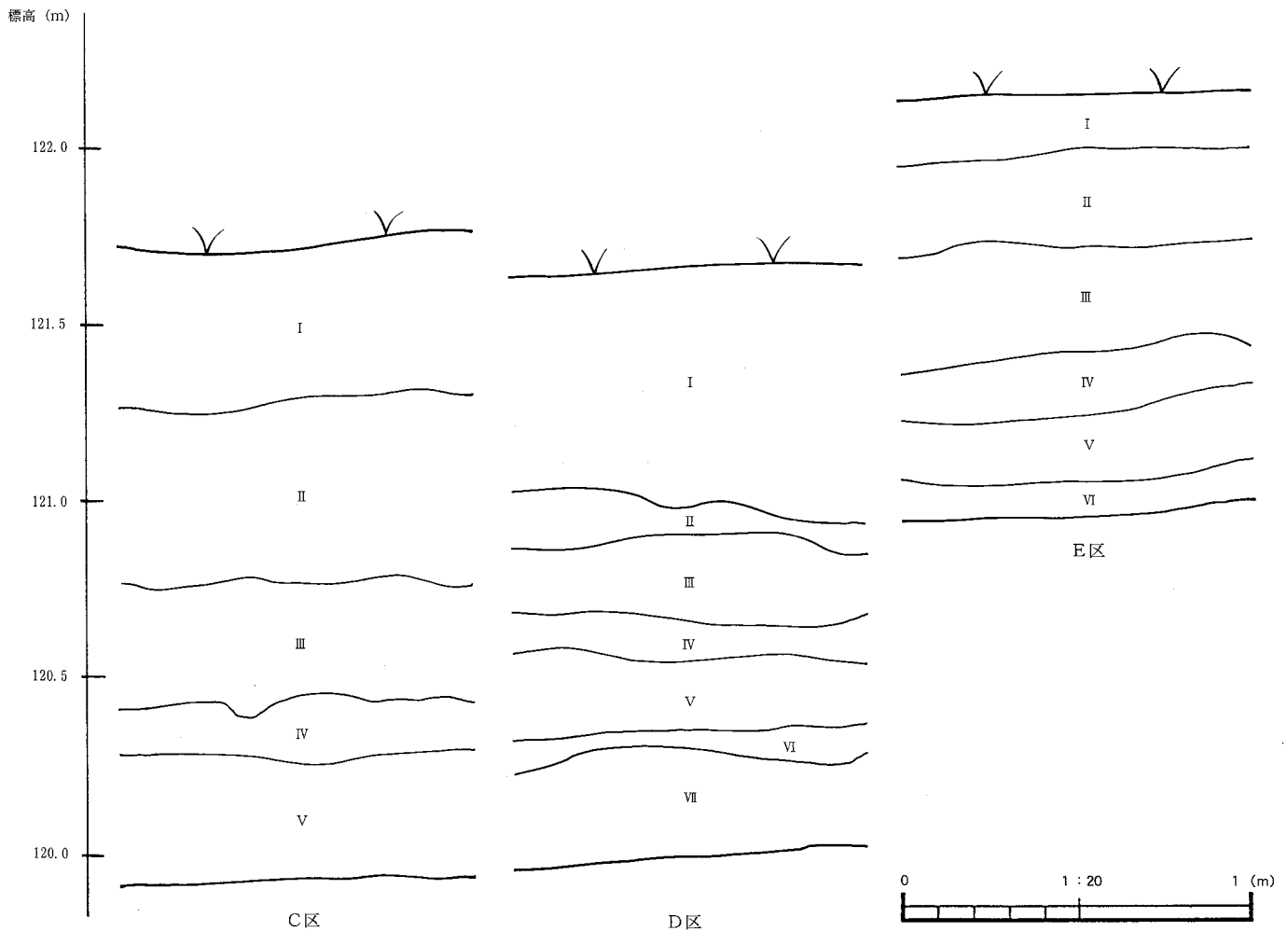


Fig 5.元総社小見内VI遺跡C～E区基本層序

2 総社閑泉明神北V遺跡

本遺跡は住宅地となっていた高地部（東側）をA区、牛池川旧流路部に当たる低地部（西側）をB区と呼び分けた。

このうちのA区は、As-B混土やその下のFS・As-C混土の堆積が見られないため、にぶい黄褐色土（A区IV層）の上面での遺構確認となった。

一方のB区では、土層を観察したところ、西部には埋没した谷地、中央部から東部には台地の存在が確認された。このうち西部から中央部の土層の状況を調査区北壁で観察したものをFig.7に示す。

本調査区の遺構は西部の谷地において、谷を埋めるテフラ層や洪水層を手がかりにした合計4面から検出された。以下に各調査面の概要を記す。

①第1面（土師面1・As-B～Hr-FPF1層準）

Hr-FPF1（榛名二ッ岳第1軽石流堆積物・6世紀初頭）の堆積からAs-B（浅間Bテフラ・1108年）の堆積の時期に相当すると考えられる層を重機で平面掘削した面。

②第2面（土師面2・Hr-FA下）

Hr-FPF1及びHr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ・6世紀初頭）を除去した面。6世紀初頭の榛名山噴火時の地表面。

③第3面（土師面3・Hr-FA～As-C層準）

第2面の確認面の土層を除去した面。Hr-FAから4世紀前半～中葉の浅間山噴火に伴うAs-C（浅間C軽石・4世紀前半～中葉）の時期に相当する。次に示す第4面検出中に一部で確認。

④第4面（土師面4・As-C下）

As-Cを除去した面。4世紀前半～中葉の浅間山噴火当時の地表面。

A区

I	10YR4/2	灰黄色土	○×	表土
II	10YR3/3	暗褐色土	○×	
III	10YR2/2	暗褐色土	○×	
IV	10YR5/4	にぶい黄褐色土	○×	
V	10YR6/6	にぶい橙色土	△×	軽石、層状の明褐灰色砂含む
VI	10YR6/6	明褐灰色砂質土	○×	小礫、軽石含む

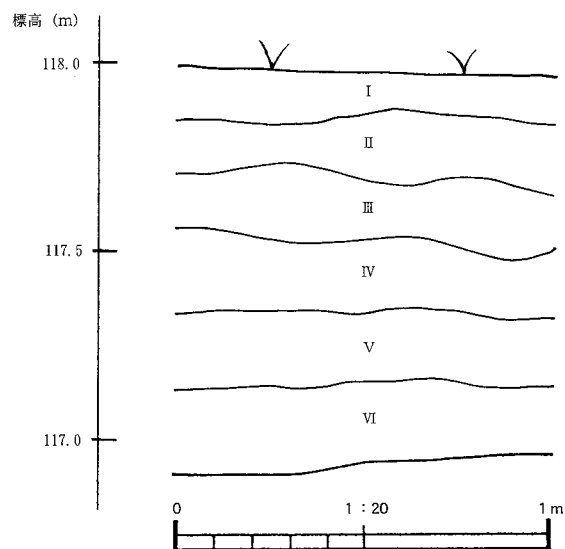
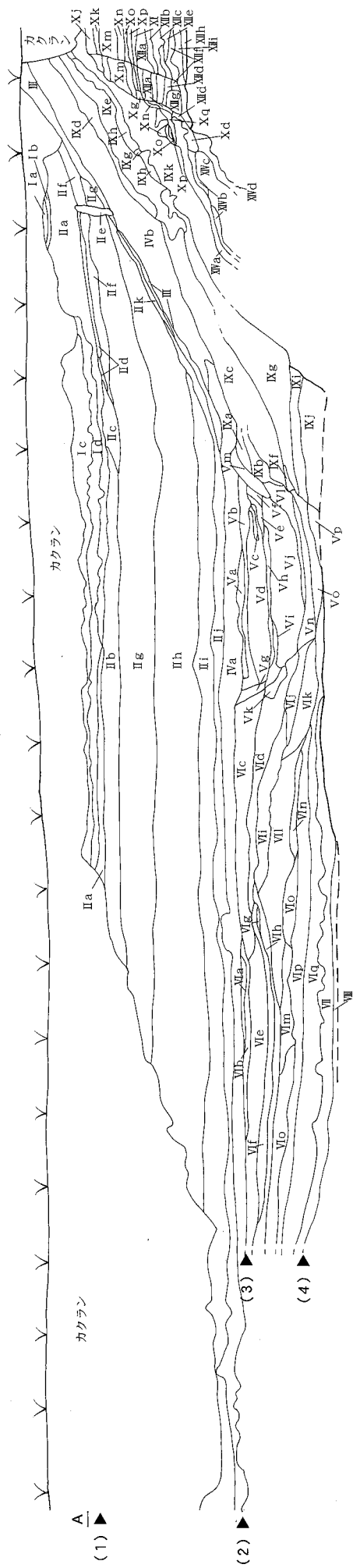


Fig 6.総社閑泉明神北V遺跡A区基本層序



調査面

- (1) 第1面 (土師面 1・As-B~Hr-FPF1層準)
- (2) 第2面 (土師面 2・Hr-FA下)
- (3) 第3面 (土師面 3・Hr-FA~As-C層準)
- (4) 第4面 (土師面 4・As-C下)

* セクションポイントA-A'は、Fig.10 総社閑泉明神北V遺跡A・B区全体図のB区(西部~中央部)の図に対応する。

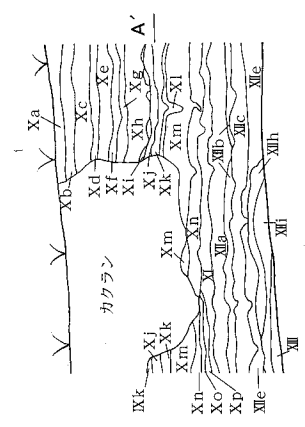


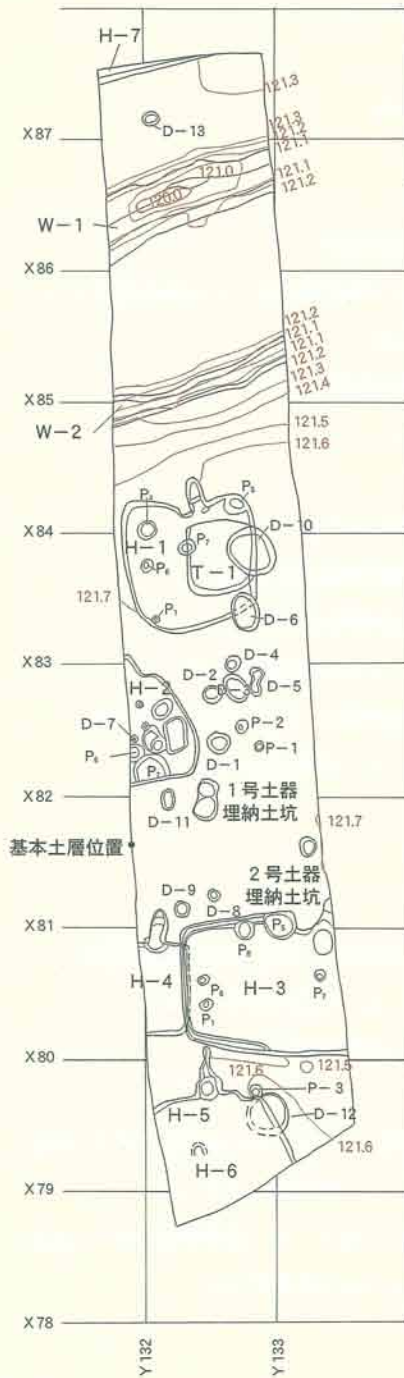
Fig. 7 総社閑泉明神北V遺跡B区西部~中央部北壁土層

B区 (Fig.7)

- I : a…灰白色シルト ○× b…褐灰色土 ○× c…にぶい褐色砂質土 ○△ d…にぶい褐色砂質土 ○×
- II : Hr-FPF1 (Hr-FAの噴火に伴う火砕流) Hr-FA軽石含む
a…灰白色砂 ×× b…明褐灰色砂質土 ○× c…明褐灰色砂 ×× d…明褐灰色砂 ○×
e…にぶい橙色砂 ×× f…灰褐色砂質土 ×× g…にぶい橙色砂質土 ○× h…にぶい橙色砂質土 ○×
i…にぶい橙色砂質土 ○× j…浅黄橙色シルト △× k…黄橙色シルト △×
- III : Hr-FA火山灰 (6世紀初頭) 浅黄橙色 ××
- IV : a…灰褐色土 △△ Hr-FA 下水田 (第2面) の耕作土 b…黒褐色土 △△
- V : W-1溝 (第3面) ・As-C軽石多量に含む
a…灰白色砂 ×× 一部が酸化 b…黒褐色土 △○ c…黒褐色土 ××
d…灰白色～明褐灰色砂 △○ 層状に酸化 e…黒褐色土 ×× 明褐灰色砂含む
f…黒褐色砂質土 ×× 明褐灰色砂多量に含む g…黒褐色土 △△ にぶい橙色砂含む h…灰白色砂 ××
i…黒褐色土 △△ 明褐灰色砂層状に含む j…灰褐色砂 ×× 層状に酸化
k…黒褐色土 ×△ にぶい橙色砂少量含む l…黒褐色土 ×× 明褐灰色砂斑状に含む
m…黒褐色土 ×△ 明褐灰色砂多量に含む n…灰褐色砂 △△ 粒子粗い
o…灰褐色砂 ×△ nより粒子粗い p…灰褐色砂 ××
- VI : a…黒褐色土 ×△ 明褐灰色砂層状に含む b…黒褐色土 △△ 黒色土層状に含む
c…にぶい橙色砂+黒褐色砂 △× 互層堆積 d…黒褐色砂 ×× にぶい橙色砂層状に含む
e…黒褐色土 ×△ 明褐灰色層砂状に含む f…黒褐色土 ×△ 明褐灰色砂層状に含む
g…褐灰色砂質土 ×× h…黒褐色土 ×× 明褐灰色層砂状に含む i…にぶい橙色砂 ××
j…黒褐色土 ×△ k…黒褐色土 ×△ l…褐灰色砂 ×× m…黒褐色砂質土 ×× 灰白色砂を含む
o…褐灰色砂質土 ×△ p…黒褐色土 △△ 黒色土ブロック班状に含む q…黒褐色土 △△
r…黒色土 △○ 植物遺存体混入
- VII : As-C軽石 (4世紀初頭～中葉) ××
- VIII : 黒色粘土 ○◎ (第4面確認面)
- IX : a…黒褐色土 △△ 明褐灰色砂層状に含む b…明褐灰色土 ×△ c…黒褐色土 △△ As-C多量に含む
d…明褐灰色シルト △△ e…灰白色シルト ○△ f…灰褐色砂 ×× g…明褐灰色砂 ××
h…褐灰色粘土 ○○ i…灰白色粘土 ○○ j…黒褐色粘土 ○○ k…灰白色粘土 ○○
- X : 総社砂層 (縄文期)
a…灰白色土 ○× b…明褐灰色土 ○× c…黒色土 ○○ d…浅黄橙色土 △△ e…褐灰色シルト △△
f…褐灰色砂 △× g…褐灰色シルト △△ h…明褐灰色シルト △△ i…灰白色シルト △△
j…褐灰色シルト △△ k…浅黄橙色シルト △△ l…浅黄橙色シルト △× m…浅黄橙色シルト △△
o…黒褐色粘土 ○○ p…浅黄橙色シルト △△ q…黒褐色シルト △△ As-Sj多量に含む
r…p層+q層 △△
- XI : As-Sj ・浅間総社軽石 (約1万年前) △×
- XII : a…黒褐色粘土 ○○ b… a層+c層 △△ c…灰白色シルト △△ d…明褐灰色シルト △△
e…明褐灰色砂 ×× f…明褐灰色シルト ×× g…灰白色シルト ○○ h…明褐灰色シルト △△
i…明褐灰色シルト △△
- XIII : As-YP ・浅間板鼻黄色軽石 (約1.3～1.4万年) △△
- XIV : a…黒色土 ○△ b…黒色土 ○△ 明褐灰色シルト含む c…黒色粘土 ○○ d…灰白色シルト ○○



元総社小見内区遺跡A区



元総社小見内区遺跡E区



元総社小見内区遺跡D区



元総社小見内区遺跡C区

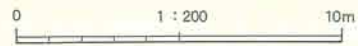
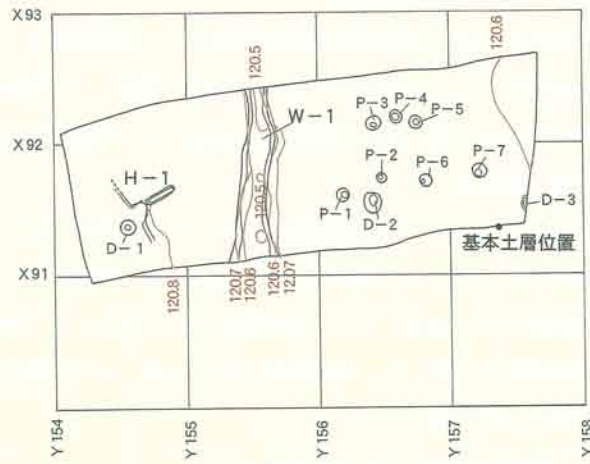
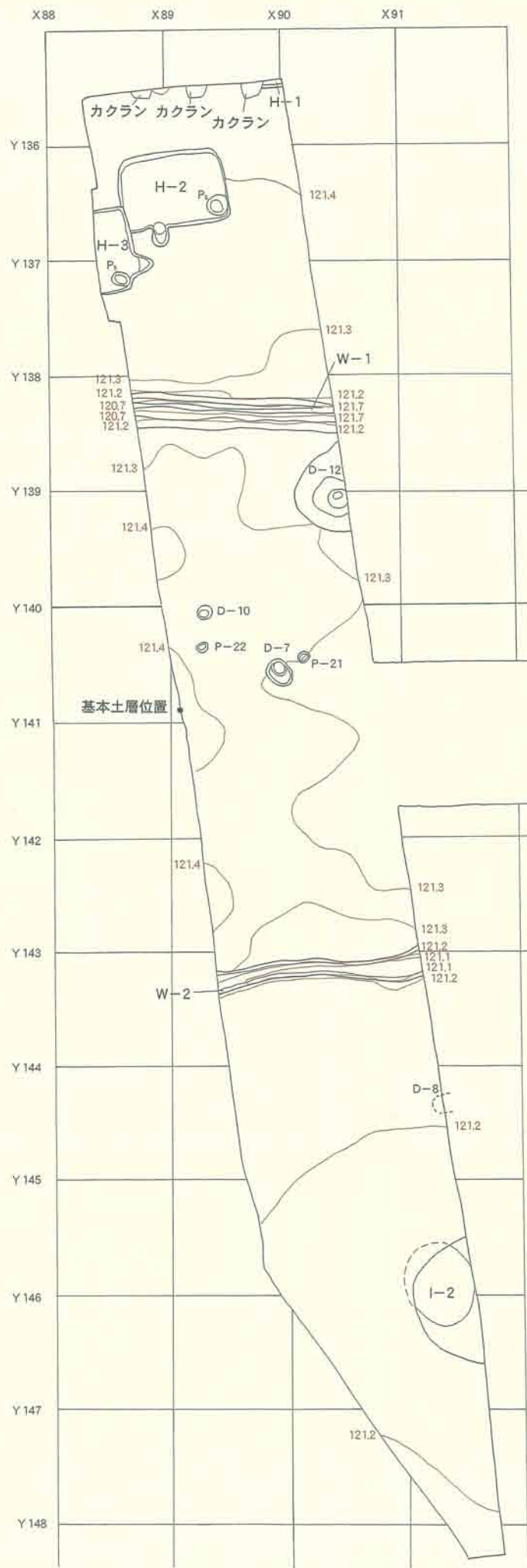


Fig.8 元総社小見内区遺跡A・C・D・E区全体図



元総社小見内区遺跡 B区

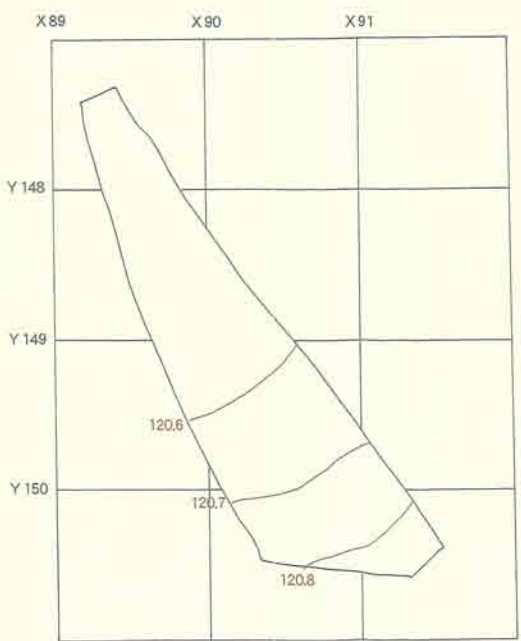
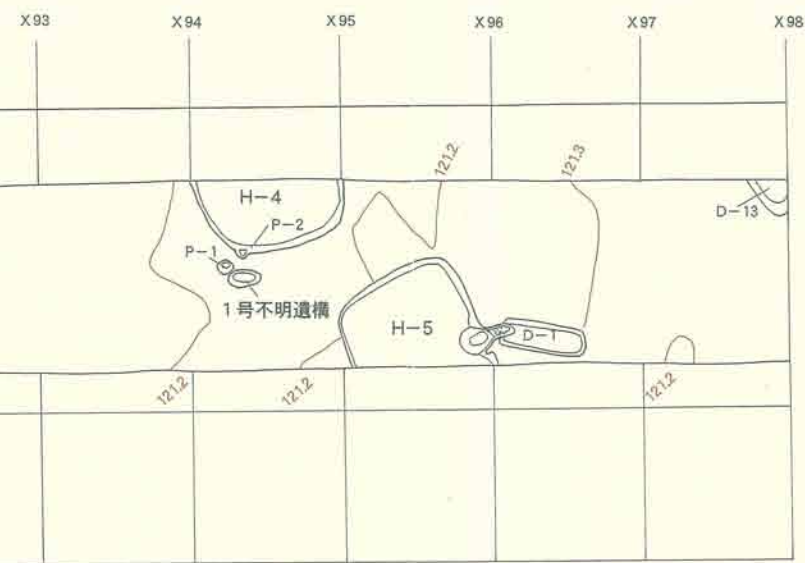
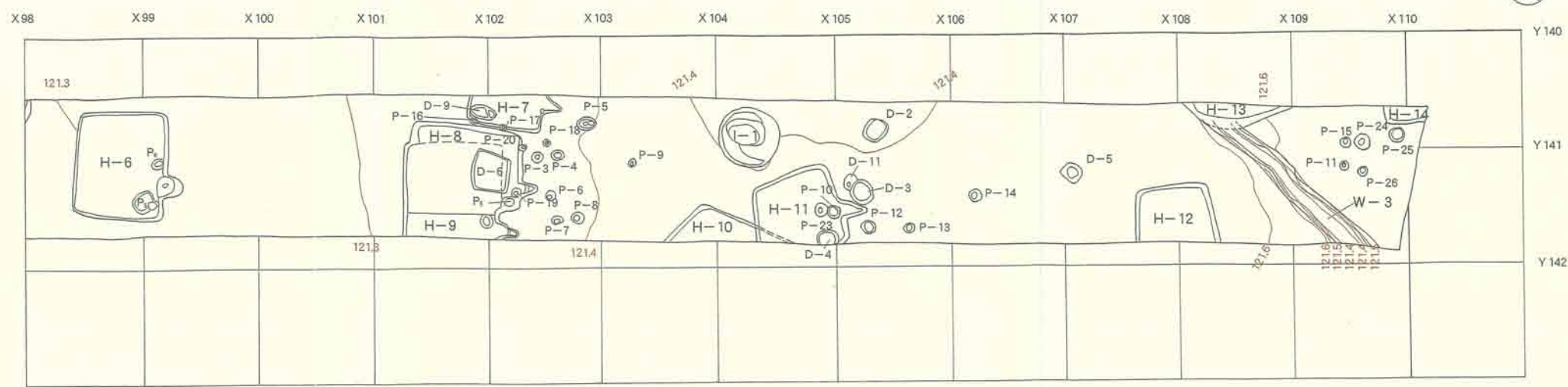
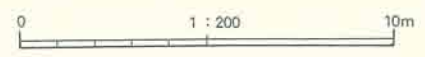
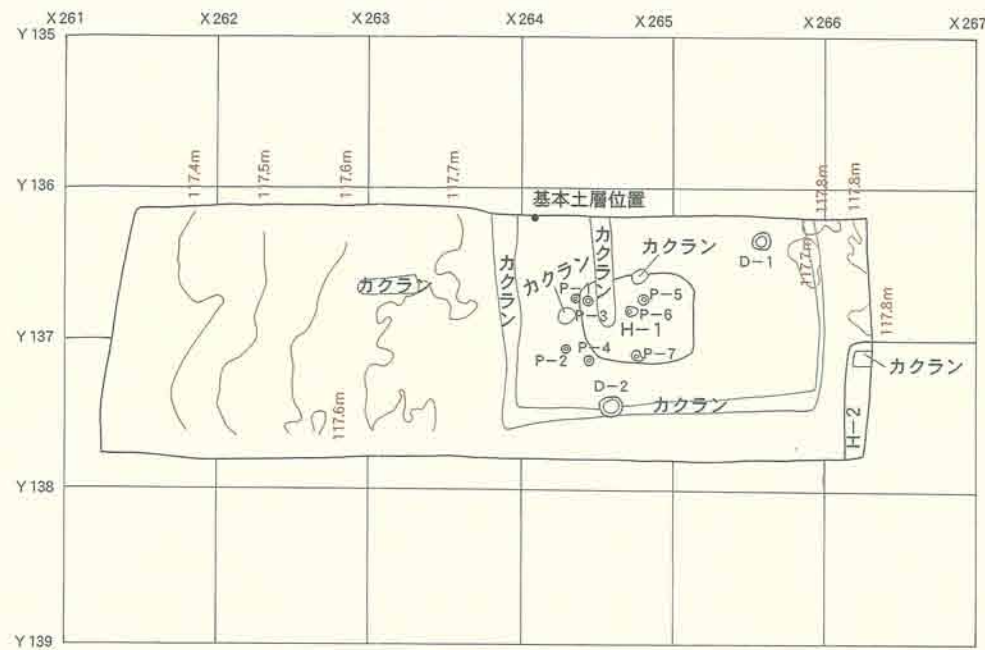


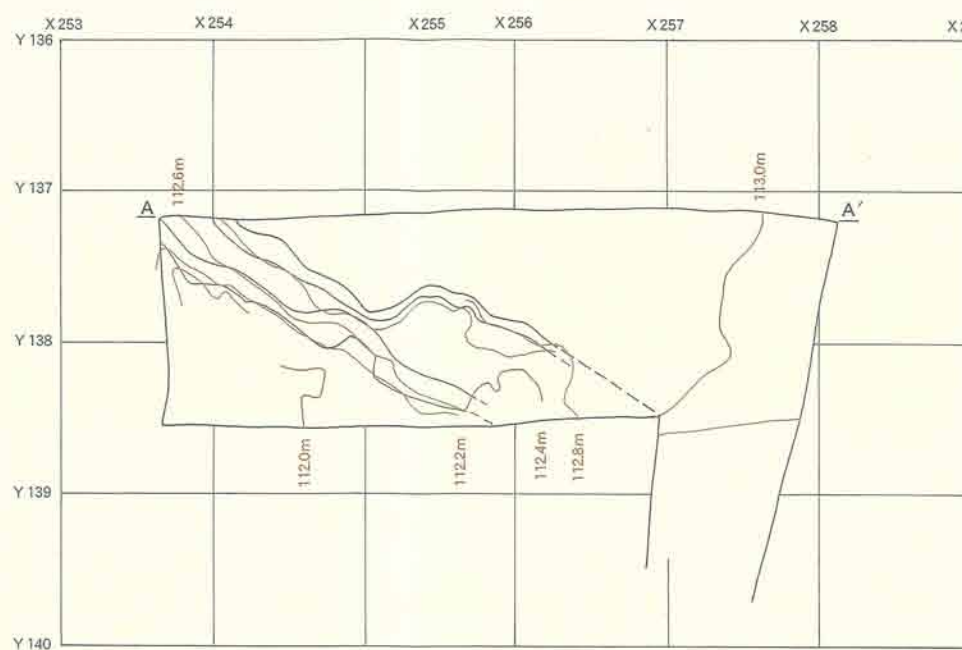
Fig.9 元総社小見内区遺跡 B区 全体図



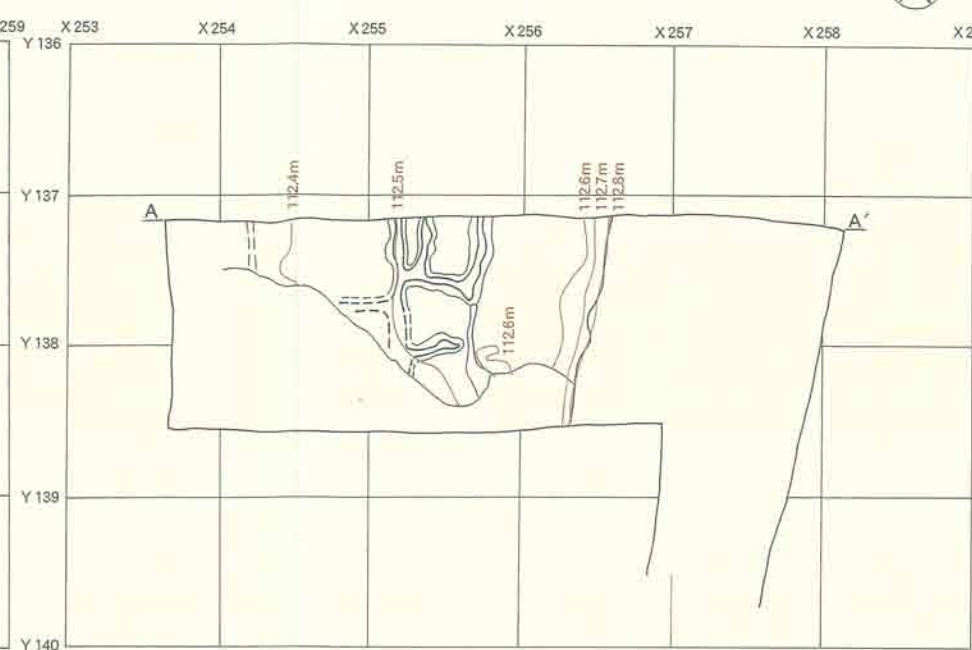
総社閑泉明神北V遺跡A区



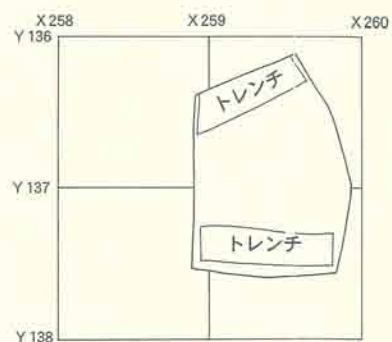
総社閑泉明神北V遺跡B区 (西部~中央部)
第1面 [土師面1・As-B~Hr-FPF1層準]



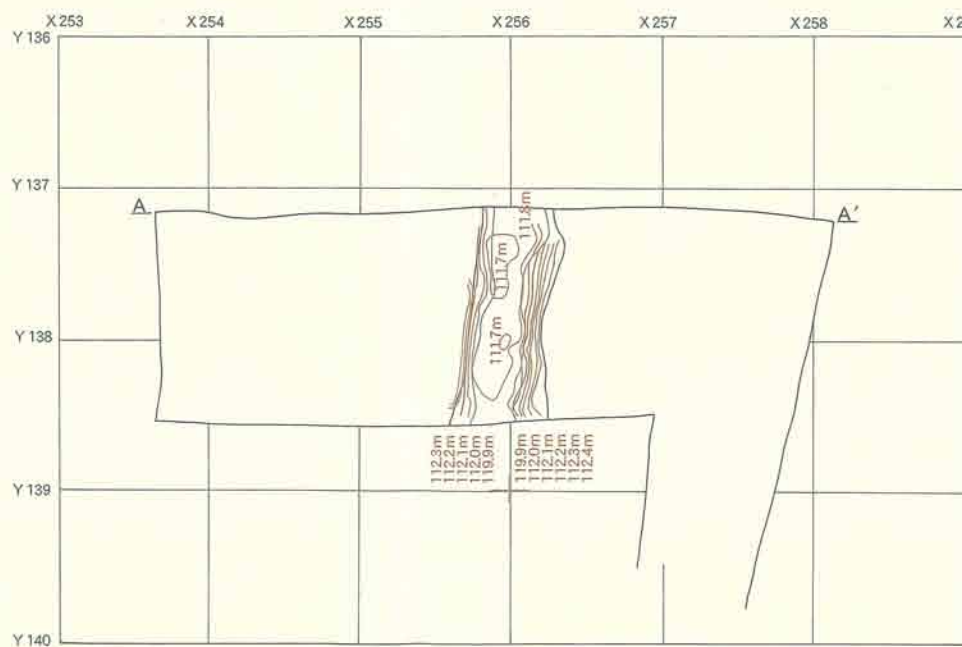
総社閑泉明神北V遺跡B区 (西部~中央部)
第2面 [土師面2・Hr-FA下]



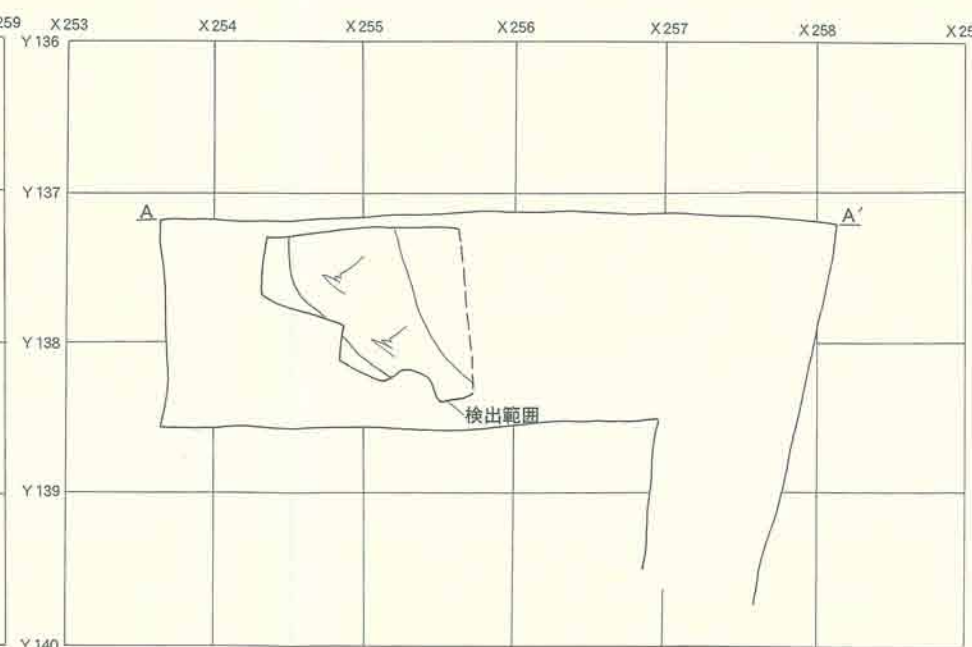
総社閑泉明神北V遺跡B区 (東部)



総社閑泉明神北V遺跡B区 (西部~中央部)
第3面 [土師面3・Hr-FA~As-C層準]



総社閑泉明神北V遺跡B区 (西部~中央部)
第4面 [土師面4・As-C下]



*総社閑泉明神北V遺跡B区 (西部~中央部) 各面のセクションポイント (A-A') は
第IV章Fig.7 総社閑泉明神北V遺跡B区西部~中央部北壁土層 に対応する。

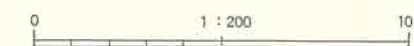


Fig.10 総社閑泉明神北V遺跡A・B区全体図

V 遺構と遺物

(住居跡の遺物については、重複関係により帰属させられないものは、図示しなかった。また、所属する住居跡が特定でき本報告書で図示した遺物のみの記述とした。さらに、住居跡の時期については層序から6世紀前半から12世紀初頭の範囲内と考えられる。より詳細な時期が判明したもののみ具体的時期を記述した。)

1 元総社小見内区遺跡 A区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.15・28・29・39・42、PL.7・9・12)

位置 X83・84、Y131・132グリッド **主軸方向** N-87°-E **面積** 14.35㎡ **形状等** 方形。東西4.05m、南北4.05m、壁現高は27cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。竈前に堅緻面を確認。P₁(長軸×短軸×深さ、形状：20×18×17.5cm、円形)、P₄(長軸×短軸×深さ、形状：54×54×27cm、円形)、P₆(長軸×短軸×深さ、形状：34×26×41cm、円形)、P₇(長軸×短軸×深さ、形状：56×42×25.5cm、円形)の4基を検出。

竈 東壁中央やや南寄りより検出され、主軸方向N-80°-Eであり、全長118cm、最大幅58cm、焚口部幅28cmを測る。壁の構築材(補強材)として凝灰岩を、天井石として丸瓦を、支柱石に川原石を使用。竈袖石には截石を使用し、竈の前より壁の補強として使用されたと思われる凝灰岩ブロックを落ちた状態で検出。 **貯蔵穴**

P₅(長軸×短軸×深さ、形状：75×60×27.5cm、楕円形)1基を検出。 **重複** なし。 **時期** 出土遺物や重複関係から10世紀後半～末と考えられる。 **遺物** 総数1,419点。そのうち須恵坏9点、高台椀6点、灰釉高台椀1点、須恵壺1点、羽釜2点、須恵大甕1点、軒平瓦2点、丸瓦1点、鋸1点を図示。

H-2号住居跡 (Fig.15・29・30・39・42・42、PL.1・7・9・12)

位置 X82・83、Y131・132グリッド **主軸方向** (N-76°-E) **面積** 6.09㎡ **形状等** 北側半分が調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西(3.4)m、南北2.4m、壁現高24cmを測る。

床面 全体的に平坦な床面。竈前に堅緻面を確認。P₄(長軸×短軸×深さ、形状：24×20×10cm、円形)、P₆(長軸×短軸×深さ、形状：60×50×17cm、円形)P₇(長軸×短軸×深さ、形状：110×98×50.5cm、楕円形)、P₈(長軸×短軸×深さ、形状：78×70×23.5cm、楕円形)、P₉(長軸×短軸×深さ、形状：98×64×26.5cm、楕円形)、P₁₀(長軸×短軸×深さ、形状：26×22×13.5cm、円形)、P₁₁(長軸×短軸×深さ、形状：62×48×15cm、円形)の7基を検出。 **竈** (東壁南寄り)から検出され、主軸方向(N-72°-E)であり、全長76cm、最大幅(51)cm、焚口部幅(34)cmを測る。袖石や構築材は検出されなかったが、比較的よく焼ける。竈前より多量の灰を検出。

貯蔵穴 P₅(長軸×短軸×深さ、形状：76×50×25cm、楕円形)1基を検出。 **重複** なし。

時期 埋土や出土遺物から10世紀第後半と考えられる。 **遺物** 総数814点。そのうち須恵坏4点、高台皿1点、高台椀2点、土師甕2点、羽釜1点、平瓦2点、鋸1点、釘1点、砥石1点を図示。

H-3号住居跡 (Fig.16・30・40・42、PL.2・8)

位置 X80・81、Y132・133グリッド **主軸方向** (N-86°-E) **面積** 18.94㎡ **形状等** 南部分が調査区外のため全容は不明であるが、竈を南端とする方形と推定される。東西4.48m、南北(4.91)m、壁現高48.5cmを測る。 **床面** 全体的に堅緻な貼床面。住居の東壁から西壁にかけて周溝有り。P₁(長軸×短軸×深さ、形

状：38×28×27cm、楕円形）、P₆（長軸×短軸×深さ、形状：40×35×35.5cm、円形）、P₇（長軸×短軸×深さ、形状：32×32×14cm、円形）P₈（長軸×短軸×深さ、形状：60×58×32.5cm、円形）、P₉（長軸×短軸×深さ、形状：30×26×11cm、円形）5基を検出。また、竈の西に間仕切りとみられる溝を検出。竈（東壁南寄り）から検出され、主軸方向(N-86°-E)であり、全長(120)cm、最大幅(122)cm、焚口部幅(49)cmを測る。右袖石を残す。壁の補強材として凝灰岩を使用。左袖は地山を粘土で固め袖とする。貯蔵穴 P₆（長軸×短軸×深さ、形状：100×87×51cm、円形）1基を検出。重複 H-4と重複し、新旧関係はH-4→本遺構の順。時期 埋土や出土遺物から10世紀後半～末と考えられる。遺物 総数1,189点。そのうち高台皿1点、高台椀1点、緑釉高台椀1点、足高椀1点、平瓦1点、釘1点を図示。

H-4号住居跡 (Fig.16・30・42・43、PL.2・9・12)

位置 X80・81、Y131・132グリッド 主軸方向 (N-87°-E) 面積 (4.61) m² 形状等 北側が調査区外のため全容は不明であるが、方形と推測される。東西2.93m、南北(1.60)m、壁現高27cmを測る。床面 全体的に平坦な貼床面。西辺に周溝有り。P₆（長軸×短軸×深さ、形状：44×44×32cm、円形）P₇（長軸×短軸×深さ、形状：58×38×31cm、楕円形）2基を検出した。竈（東壁）より検出され、主軸方向N-89°-Eであり、全長108cm、最大幅60cm、焚口部幅47cmを測る。重複 H-3と重複し、新旧関係は本遺構→H-3の順。時期 重複関係から10世紀後半～末と考えられる。遺物 総数319点。そのうち高台椀2点、灰釉高台椀1点、土師甕1点、羽釜1点、帯金具1点、釘1点、刀子1点、白玉1点、紡錘車1点を図示。

H-5号住居跡 (Fig.17・31・40・42、PL.2・8・12)

位置 X78～80、Y132・133グリッド 主軸方向 (N-77°-E) 面積 (12.54) m² 形状等 東部分は調査区外のため全容は不明であるが、方形と推定される。東西[3.57]m、南北[4.09]m、壁現高37cmを測る。床面 全体的に平坦な貼床面。竈の前は特に堅緻で灰を大量に検出。竈（東壁南寄り）から検出され、主軸方向N-81°-Eであり、全長150cm、最大幅(85)cm、焚口部幅52cmを測る。壁の補強材として凝灰岩を使用。焚き口から煙道にかけて階段状に上昇する形状。天井部に焼土の固まりがアーチ状に残る。重複 H-6と重複し、新旧関係はH-6→本遺構。時期 埋土や出土遺物から10世紀末～11世紀初頭と考えられる。遺物 総数902点。そのうち須恵坏1点、高台椀2点、灰釉高台椀1点、平瓦3点、刀子1点を図示。

H-6号住居跡 (Fig.17、PL.-)

位置 X79、Y132グリッド 主軸方向 竈のみの検出のため不明。面積 (0.11) m² 形状等 竈のみの検出のため不明。床面 殆どを削平され不明。竈 東壁と推定。竈下部のみの検出のため全容は不明だが、主軸方向(N-79°-E)であり、全長[42]cm、最大幅[40]cm、焚口部幅[28]cmを測る。重複 H-5と重複し、新旧関係は本遺構→H-5の順。時期 重複関係から10世紀末以前と考えられるが詳細は不明。遺物 なし。

H-7号住居跡 (Fig.17・41、PL.9)

位置 X87、Y131・132グリッド 主軸方向 (N-169°-E) 面積 (0.73) m² 形状等 大部分を調査区外とするため不明。東西(0.40)m、南北[3.8]m、壁現高13cmを測る。床面 大部分を調査区外とするため不明。竈 調査区外のため未検出。重複 なし。時期 不明。遺物 総数9点。そのうち平瓦1点を図示。

(2) 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig.17、PL.-)

位置 X83・84、Y132グリッド **主軸方向** N-90° -E **面積** (3.57) m² **形状等** 隅丸方形。東西(2.20)m、南北(1.98)m、壁現高31cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **重複** H-1と重複し、新旧関係は本遺構→H-1の順。 **時期** 埋土や重複関係から10世紀末以前と考えられる。 **遺物** 総数2点。

(3) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.17、PL.2)

位置 X86、Y131・132グリッド **主軸方向** N-157° -E **形状等** 調査区を南北に走り、W-2とほぼ並行。 **重複** なし。 **時期** 不明。 **遺物** 総数48点。

W-2号溝跡 (Fig.18、PL.2)

位置 X84・85、Y131~133グリッド **主軸方向** N-156° -E **形状等** 調査区を南北方向に走り、W-1とほぼ並行。 **重複** なし。 **時期** 不明。 **遺物** 総数12点。

(4) 土器埋納土坑

1号土器埋納土坑 (Fig.18・31~34、PL.2・3・8・12)

位置 X81・82、Y132グリッド **形状等** 左円部は長軸76cm、短軸74cm、深さ12cm、右円部は長軸64cm、短軸53cm、深さ11.5cm。 **重複** なし。 **時期** 出土遺物や埋土から10世紀末と考えられる。 **遺物** 総数858点。そのうち、須恵坏35点、高台椀15点を図示。 **備考** 遺物には5重に重ねられるものがある。須恵坏は数タイプに分類でき、一括して埋納したと考えられる。

2号土器埋納土坑 (Fig.19・35、PL.3・8)

位置 X81、Y133グリッド **形状等** 長軸51cm、短軸46cm、深さ19cmの円形。 **重複** なし。 **時期** 出土遺物や埋土から10世紀後半~末と考えられる。 **遺物** 総数133点。そのうち、須恵坏11点、高台椀2点を図示。 **備考** 須恵坏は数タイプに分類でき、一括して埋納したと考えられる。1号土器埋納土坑との時代差はほとんどないが、わずかに本遺構が先行すると考えられる。

(5) 土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.6 土坑・ピット計測表 (P.28) を参照のこと。

(6) グリッド等出土遺物

総数902点を検出。そのうち須恵蓋1点、高台椀1点、短径壺1点、砥石1点を図示。

2 元総社小見内Ⅸ遺跡 B区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.19・36・41、PL.-)

位置 X89、Y135グリッド **主軸方向** (N-89°-E) **面積** (0.41)m² **形状等** (方形)。東西(1.36)m、南北(0.38)m、壁現高は(5)cmを測る。**床面** 一部のみの検出のため、詳細は不明。**竈** 調査区外のため未検出。**重複** なし。**時期** 出土遺物が少なく詳細は不明だが、土層から10世紀末と考えられる。**遺物** 総数20点。そのうち高台椀1点、丸瓦1点を図示。

H-2号住居跡 (Fig.19・36・42、PL.3・9・12)

位置 X88・89、Y136グリッド **主軸方向** N-173°-E **面積** 9.57m² **形状等** 東西に長軸を持つ隅丸長方形。東西3.82m、南北2.68m、壁現高44cmを測る。**床面** 全体的に平坦な貼床面。竈の前は特に堅緻で灰を大量に検出。**竈** 南壁中央やや西寄りから検出され、主軸方向N-171°-Eであり、全長80cm、最大幅60cm、焚口部幅39cmを測る。袖石に川原石・瓦を使用。焚き口から煙道にかけて階段状に上昇する形状。天井部に焼土の固まりがアーチ状に残る。**貯蔵穴** 南東隅よりP₅(長軸×短軸×深さ、形状：74×66×54.5cm、円形)1基を検出。**重複** H-3と重複し、新旧関係はH-3→本遺構の順。**時期** 埋土や出土遺物から10世紀末と考えられる。**遺物** 総数455点。そのうち須恵坏1点、高台皿1点、高台椀2点、紡錘車1点を図示。

H-3号住居跡 (Fig.20・36・37・42、PL.4・10・11・12)

位置 X88、Y136・137グリッド **主軸方向** (N-80°-E) **面積** (3.85) m² **形状等** 西半分を調査区外とするため不明。東西(1.42)m、南北2.95m、壁現高30.5cmを測る。**床面** 大部分を調査区外とするため不明だが、竈前は堅緻。**竈** 東壁南寄りから検出し、支柱石を残す。竈の前に灰を多く散らす。主軸方向N-89°-Eであり、全長77cm、最大幅72cm、焚口部幅53cmを測る。**貯蔵穴** P₅(長軸×短軸×深さ、形状：64×43×31.5cm、楕円形)1基を検出。**重複** H-2と重複し、新旧関係は切り合いから、本遺構→H-2の順。**時期** 埋土や出土遺物から10世紀後半～末と考えられる。**遺物** 総数634点。そのうち須恵坏4点、高台椀2点、足高椀1点、羽釜2点、丸瓦1点、鉄鏝1点を図示。

H-4号住居跡 (Fig.20・37、PL.10・12)

位置 X94・95、Y140グリッド **主軸方向** (N-70°-E) **面積** (5.91) m² **形状等** 北側半分が調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西(3.75)m、南北(2.57)m、壁現高47cmを測る。**床面** 全体的に平坦な貼床面。**竈** 調査区外のため未検出。**重複** なし。**時期** 埋土や出土遺物から8世紀末と考えられる。**遺物** 総数160点。そのうち土師坏2点、須恵蓋2点、土師甕1点を図示。

H-5号住居跡 (Fig.20・37・42・43、PL.4・10・12)

位置 X94~96、Y141グリッド **主軸方向** (N-66°-E) **面積** (9.30)m² **形状等** 南部分が調査区外のため全容は不明だが、方形と推定される。東西3.64m、南北(3.60)m、壁現高50cmを測る。**床面** 全体的に堅緻な貼床面。**竈** 東壁より検出され、主軸方向N-62°-Eであり、全長108cm、最大幅96cm、焚口部幅54cmを測る。天井部に焼土の固まりがアーチ状に残る。**重複** なし。**時期** 埋土や出土遺物から8世紀後半～末と考えられる。**遺物** 総数259点。そのうち土師坏3点、須恵蓋1点、釘1点、打製石斧1点を図示。

H-6号住居跡 (Fig.21・37・43、PL.4・10・11)

位置 X98・99、Y140・141グリッド **主軸方向** N-95° - E **面積** 11.81m² **形状等** 四隅に丸みを帯びる方形を呈する。東西3.22m、南北3.77m、壁現高44cmを測る。 **床面** 殆どを削平され不明。P₃(長軸×短軸×深さ、形状：46×40×19.5cm、楕円形) 1基検出。 **竈** 東壁中央南寄りから検出され、竈下部のみの検出のため全容は不明だが、主軸方向N-101° - Eであり、全長70cm、最大幅80cm、焚口部幅58cmを測る。 **貯蔵穴** P₃(長軸×短軸×深さ、形状：102×40×32.5cm、楕円形) 1基を検出。 **重複** なし。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀後半～末と考えられる。 **遺物** 総数653点。そのうち須恵坏1点、高台椀3点、羽釜2点、石鏃1点、打製石斧1点を図示。

H-7号住居跡 (Fig.21・38・42、PL.4・10・11)

位置 X101・102、Y140グリッド **主軸方向** (N-98° - E) **面積** (2.49) m² **形状等** 北半分を調査区外とするため不明だが、方形と推測される。東西2.63m、南北(1.19)m、壁現高25.5cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 東壁より検出され、支柱石を残す。煙道の先端を細くする。主軸方向(N-105° - E)であり、全長75cm、最大幅52cm、焚口部幅38cmを測る。 **重複** なし。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀後半～末と考えられる。 **遺物** 総数101点。そのうち高台椀1点、羽釜1点、平瓦1点を図示。

H-8号住居跡 (Fig.21・38・41、PL.5)

位置 X101・102、Y140・141グリッド **主軸方向** N-92° - E **面積** (11.44) m² **形状等** 東西に長軸を持つ方形と推定される。東西3.97m、南北3.00m、壁現高33cmを測る。 **床面** 全体に平坦な床面。一部に堅緻面を確認。 **竈** 東壁南寄りから検出。主軸方向N-91° - Eであり、全長70cm、最大幅55cm、焚口部幅42cmを測る。 **貯蔵穴** P₃(長軸×短軸×深さ、形状：60×50×34.5cm、楕円形) 1基を検出。 **重複** H-9と重複し、新旧関係は切り合いから、H-9→本遺構の順。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀末～11世紀初頭と考えられる。 **遺物** 総数159点。そのうち高台椀1点、羽釜2点、平瓦1点を図示。

H-9号住居跡 (Fig.22・38、PL.5・10)

位置 X101・102、Y140・141グリッド **主軸方向** (N-92° - E) **面積** (11.48) m² **形状等** 方形と推測される。東西(3.46)m、南北(3.46)m、壁現高28cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な床面で、竈前は堅緻面を確認。 **竈** 東壁より検出。主軸方向(N-99° - E)であり、全長88cm、最大幅73cm、焚口部幅47cmを測る。 **重複** H-8と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H-8の順。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀後半～末と考えられる。 **遺物** 総数289点。そのうち須恵坏1点、羽釜1点、須恵大甕1点を図示。

H-10号住居跡 (Fig.22・38、PL.10)

位置 X103・104、Y141グリッド **主軸方向** (N-116° - E) **面積** (2.66) m² **形状等** 南半分を調査区外とするため詳細は不明だが、方形と推測される。東西[3.37]m、南北[1.98]m、壁現高52.5cmを測る。 **床面** 全体的に平坦な貼床面。 **竈** 調査区外のため未検出。 **重複** H-11と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H-11の順。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀後半～末と考えられる。 **遺物** 総数61点。そのうち須恵盤1点を図示。

H-11号住居跡 (Fig.22・38、PL.5)

位置 X104・105、Y141グリッド **主軸方向** (N-78° - E) **面積** (7.78) m² **形状等** 方形と推測さ

れる。東西3.17m、南北(2.95)m、壁現高46cmを測る。床面 全体的に平坦な貼床面。竈 東壁中央やや南寄りから検出され、煙道はやや南に寄る。主軸方向N-88°-Eであり、全長86cm、最大幅60cm、焚口部幅44cmを測る。重複 H-10と重複し、新旧関係は切り合いからH-10→本遺構の順。時期 埋土や出土遺物から10世紀後半～末と考えられる。遺物 総数145点。そのうち高台椀1点を図示。

H-12号住居跡 (Fig.23・43、PL.11)

位置 X107・108、Y141グリッド 主軸方向 (N-87°-E) 面積 (5.17) m² 形状等 方形と推測。東西2.85m、南北(2.10)m、壁現高39.5cmを測る。床面 全体的に平坦な床面。竈 調査区外のため未検出。重複 なし。時期 不明。遺物 総数36点。そのうち紡錘車1点(流れ込みか)を図示。

H-13号住居跡 (Fig.23・38、PL.11)

位置 X108、Y140グリッド 主軸方向 (N-65°-E) 面積 (1.57) m² 形状等 大部分を調査区外とするため不明だが、方形と推測される。東西[3.32]m、南北[1.57]m、壁現高58cmを測る。床面 全体的に平坦な床面。竈 調査区外のため未検出。重複 W-3と重複し、新旧関係は本遺構→W-3の順。時期 埋土や出土遺物から8世紀後半～末と考えられる。遺物 総数42点。そのうち土師坏1点を図示。

H-14号住居跡 (Fig.23、PL.-)

位置 X109・110、Y140グリッド 主軸方向 (N-86°-E) 面積 (0.78) m² 形状等 大部分を調査区外とするため不明。東西(1.40)m、南北(0.62)m、壁現高50cmを測る。床面 大部分を調査区外とするため不明。竈 調査区外のため未検出。重複 なし。時期 不明。遺物 総数9点。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.23、PL.-)

位置 X88~90、Y138グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 調査区を南北に走る逆台形。重複 なし。時期 不明。遺物 総数26点。

W-2号溝跡 (Fig.23、PL.-)

位置 X89~91、Y142・143グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 調査区を南北方向に走る逆台形。重複 なし。時期 不明。遺物 総数2点。

W-3号溝跡 (Fig.24・38、PL.-)

位置 X108・109、Y140・141グリッド 主軸方向 N-133°-E 形状等 調査区を南北に走り、W-2とほぼ並行。逆台形。重複 なし。時期 不明。遺物 総数50点。そのうち土師甕1点を図示。

(3) 土坑・ピット・井戸跡

土坑・ピット・井戸跡については、Tab.10土坑・ピット・井戸跡計測表(P.30)を参照のこと。

(4) 不明遺構

1号不明遺構 (Fig.24、PL-)

位置 X81、Y133グリッド 形状等 長軸84cm短軸42cm深さ13cmの楕円形。重複 なし。時期 不明。
遺物 総数4点。備考 多量の焼土と鉄滓を検出したことから、鍛冶に関する遺構の可能性有り。

(5) グリッド等出土遺物

総数2,600点を検出した。そのうち平瓦1点、古銭2点、金具1点、石鏃2点を図示。

3 元総社小見内IX遺跡 C区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.25、PL-)

位置 X91、Y154グリッド 面積 (0.7)㎡ 形状等 竈のみの検出のため全容は不明。床面 竈のみの検出のため不明。竈 南壁より検出され、主軸方向N-144° - Eであり、全長148cm、最大幅62cm、焚口部幅45cmを測る。重複 なし。時期 不明。遺物 総数1点。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.25、PL-)

位置 X91・92、Y155グリッド 主軸方向 N-91° - E 形状等 調査区を東西に走り、断面形は逆台形。重複 なし。時期 不明。遺物 総数9点。

(3) 土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.14土坑・ピット計測表 (P.31) を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物

総数206点を検出した。そのうちカワラケ1点を図示。

4 元総社小見内IX遺跡 D区

(1) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.26、PL-)

位置 X103・104、Y153~157グリッド 主軸方向 N-191° - E 形状等 調査区を南北に走り、W-2・3とほぼ直交。重複 W-2と重複し、新旧関係はW-2→本遺構の順。時期 埋土にAs-B軽石(浅間

B1108年)を含むことや出土遺物及び重複関係から6世紀半ば～12世紀初頭以前と考えられる。 **遺物** 総数23点。 **備考** 層序より硬化面を確認、道として使用された可能性有り。

W-2号溝跡 (Fig.26、PL.-)

位置 X103・104、Y157グリッド **主軸方向** N-87° -W **形状等** 調査区を東西に走り、W-1とほぼ直交し、W-3とほぼ並行。 **重複** W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1の順。 **時期** 埋土にAs-B軽石(浅間B1108年)を含むことや出土遺物及び重複関係から6世紀半ば～12世紀初頭以前と考えられる。 **遺物** 総数1点。

W-3号溝跡 (Fig.26、PL.-)

位置 X103・104、Y157・158グリッド **主軸方向** N-89° -W **形状等** 調査区を東西に走り、W-2とほぼ並行。 **重複** なし。 **時期** 埋土や出土遺物及び重複関係から6世紀半ば～12世紀初頭以前と考えられる。 **遺物** 総数2点。

(2) グリッド等出土遺物

総数83点を検出。

5 元総社小見内区遺跡 E区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.26・39、PL.6・11)

位置 X126・127、Y157・158グリッド **主軸方向** N-88° -E **面積** (10.19) m² **形状等** (方形)。東西2.94m、南北4.00m、壁現高は50cmを測る。 **床面** 全体的に堅緻な床面。竈の前は特に堅緻である。 **竈** 東壁より検出され、袖を地山で構築。 **重複** W-1と重複し、新旧関係は本遺構→W-1の順である。 **時期** 出土遺物や重複関係から8世紀後半～末と考えられる。 **遺物** 総数114点。そのうち土師坏2点を図示。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.26、PL.-)

位置 X126・127、Y154～157グリッド **主軸方向** N-165° -E **形状等** 調査区を南北に走り、断面形はU字形。 **重複** H-1と重複し、新旧関係はH-1→本遺構の順。 **時期** 埋土にAs-B軽石(浅間B1108年)を含むことや出土遺物及び重複関係から8世紀後半～12世紀初頭以前と考えられる。 **遺物** 総数4点。

(3) グリッド等出土遺物

総数44点を検出した。そのうち高台椀1点を図示。

Tab.3 元総社小見内IX遺跡A区 住居跡・竪穴状遺構 一覧表

遺構名	位 置	主軸方向	壁現高		面 積	竈	主な出土遺物		
			東西×南北	(cm)			(m)	土 師 器	須 恵 器
H-1	X83・84 Y131・132	N- 87° -E	4.05 × 4.05	27.0	14.35	東壁中央や南寄り		坏・高台椀	
H-2	X82・83 Y131・132	(N- 76° -E)	(3.40) × 2.40	24.0	6.09	(東壁南寄り)	甕	坏・高台椀	
H-3	X80・81 Y132・133	(N- 86° -E)	4.48 × (4.91)	48.5	18.94	(東壁南寄り)		高台皿・足高椀	
H-4	X80・81 Y131・132	(N- 87° -E)	2.93 × (1.60)	27.0	(4.61)	(東壁)	甕	高台椀・羽釜	帯金具
H-5	X78~80 Y132・133	(N- 77° -E)	[3.57] × [4.09]	37.0	(12.54)	(東壁南寄り)		坏・高台椀	
H-6	X79 Y132	N- -° -E	-	-	(0.11)	東壁(推定)			
H-7	X87 Y131・132	(N- 169° -E)	(0.40) × [3.80]	13.0	(0.73)				
T-1	X83・84 Y132	N- 90° -E	(2.20) × (1.98)	31.0	(3.57)				

Tab.4 元総社小見内IX遺跡A区 竈跡一覧表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	構築材
H-1	N- 80° -E	118	58	28	凝灰岩・瓦・石
H-2	(N- 72° -E)	76	(51)	(34)	
H-3	(N- 86° -E)	(120)	(122)	(49)	凝灰岩
H-4	N- 89° -E	108	60	47	
H-5	N- 81° -E	150	(85)	52	凝灰岩
H-6	(N- 79° -E)	[42]	[40]	[28]	
H-7	N- -° -E	13.0 -	(0.73) -		

Tab.5 元総社小見内IX遺跡A区 溝跡計測表

遺構名	位 置	主軸方向	長 さ	最大幅 (m)		深 さ	断面形
				上 幅	下 幅		
W-1	X86 Y131・132	N- 157° -E	5.50	1.70	0.76	46.0	逆台形
W-2	X84・85 Y131~133	N- 156° -E	5.94	0.76	0.48	18.5	逆台形

Tab.6 元総社小見内IX遺跡A区 土坑・ピット計測表

遺構名	位 置	規 模 (cm)			形 状	遺物総数	出土遺物	備考
		長 軸	短 軸	深 さ				
D-1	X82 Y132	64	60	28.0	円形	16		
D-2	X82 Y132	50	50	24.5	円形	14		
D-3	X82 Y132	90	68	12.0	楕円形	2		
D-4	X82 Y132	48	40	26.0	円形	10		
D-5	X82・83 Y132	84	28	23.0	楕円形	18		
D-6	X83 Y132	122	78	27.0	楕円形	62	高台椀	
D-7	X82 Y131・132	(60)	46	19.5	楕円形	2		
D-8	X81 Y132	36	36	12.5	円形			
D-9	X81 Y132	50	43	11.0	円形			
D-10	X83・84 Y132	160	(126)	23.5	円形	29		
D-11	X81・82 Y132	70	(42)	14.5	楕円形	2		
D-12	X79 Y132・133	132	(120)	26.5	円形	84	高台椀	
D-13	X87 Y131・132	48	38	14.5	円形			
1号埋納	X81・82 Y132	76	74	12.0	円形	858	須恵坏・高台椀	西部
		64	53	11.5	円形			東部
2号埋納	X81 Y133	51	46	19.0	円形	133	須恵坏・高台椀	
P-1	X82 Y132	28	26	21.5	円形			
P-2	X82 Y132	32	30	37.0	円形	4		
P-3	X79 Y132	40	37	10.0	円形	14		

Tab.7 元総社小見内区遺跡B区 住居跡一覧表

遺構名	位置		主軸方向	規模 (m) 東西×南北	壁現高 (cm)	面積 (㎡)	竈 位置	主な出土遺物	
								土師器	須恵器
H-1	X89	Y135	(N-89°-E)	(1.36)×(0.38)	5.0	(0.41)	-	高台椀	
H-2	X88・89	Y136	N-173°-E	3.82×2.68	44.0	9.57	南壁中央 やや西寄り		環・高台椀
H-3	X88	Y136・137	(N-80°-E)	(1.42)×2.95	30.5	(3.85)	東壁南寄り		環・高台椀・羽釜
H-4	X94・95	Y140	(N-70°-E)	(3.75)×(2.57)	47.0	(5.91)	-	環・甕	蓋
H-5	X94~96	Y141	(N-66°-E)	3.64×(3.60)	50.0	(9.30)	東壁	環	蓋
H-6	X98・99	Y140・141	N-95°-E	3.22×3.77	44.0	11.81	東壁中央 南寄り		環・高台椀・羽釜
H-7	X101・102	Y140	(N-98°-E)	2.63×(1.19)	25.5	(2.49)	東壁		高台椀・羽釜
H-8	X101・102	Y140・141	N-92°-E	3.97×3.00	33.0	(11.44)	東壁南寄り		高台椀・羽釜
H-9	X101・102	Y140・141	(N-92°-E)	(3.46)×(3.46)	28.0	(11.48)	東壁		環・羽釜
H-10	X103・104	Y141	(N-116°-E)	[3.37]×[1.98]	52.5	(2.66)	-		盤
H-11	X104・105	Y141	(N-78°-E)	3.17×(2.95)	46.0	(7.78)	東壁中央 やや南寄り		高台椀
H-12	X107・108	Y141	(N-87°-E)	2.85×(2.10)	39.5	(5.17)	-		
H-13	X108	Y140	(N-65°-E)	[3.32]×[1.57]	58.0	(1.57)	-	環	
H-14	X109・110	Y140	(N-86°-E)	(1.40)×(0.62)	50.0	(0.78)	-		

Tab.8 元総社小見内区遺跡B区 竈跡一覧表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	構築材	備考
H-2	N-171°-E	80	60	39	瓦・石	
H-3	N-89°-E	77	72	53	石	
H-5	N-62°-E	108	96	54		
H-6	N-101°-E	70	80	58		
H-7	(N-105°-E)	75	52	38		
H-8	N-91°-E	70	55	42		
H-9	(N-99°-E)	88	73	47		
H-11	N-88°-E	86	60	44		

Tab.9 元総社小見内区遺跡B区 溝跡計測表

遺構名	位置		主軸方向	長さ (m)	最大幅 (m)		深さ (cm)	断面形
					上幅	下幅		
W-1	X88~90	Y138	N-92°-E	7.08	1.13	0.37	68.0	逆台形
W-2	X89~91	Y142・143	N-84°-E	7.14	0.98	0.73	21.5	逆台形
W-3	X108・109	Y140・141	N-133°-E	7.30	0.87	0.65	32.5	逆台形

Tab. 10 元総社小見内Ⅸ遺跡B区 土坑・井戸跡・ピット計測表

遺構名	位置		規模 (c m)		深 さ	形 状	遺物総数	出土遺物
			長 軸	短 軸				
D-1	X96	Y141	232	74	25.5	楕円形		
D-2	X105	Y140	86	76	25.5	円形	6	
D-3	X105	Y141	148	128	20.0	円形	5	
D-4	X104・105	Y141	72	46	34.5	半円形	1	
D-5	X106・107	Y141	72	60	35.0	楕円形		
D-6	X101・102	Y140・141	136	134	20.0	方形	19	
D-7	X89・90	Y140	100	74	33.0	楕円形	5	
D-8	X91	Y144	82	-	35.0	-	4	
D-9	X101・102	Y140	84	50	28.0	楕円形	3	
D-10	X89	Y140	50	46	28.5	円形		
D-11	X105	Y141	52	34	25.0	円形		
D-12	X90	Y138・139	328	190	129.0	(円形)	32	
D-13	X97・98	Y140	140	98	41.5	半円形	2	
I-1	X104	Y140・141	206	194	272.5	円形	55	
I-2	X90・91	Y145・146	428	210	272.0	半円形	55	高台椀・羽釜
P-1	X94	Y141	37	30	29.0	円形		
P-2	X94	Y140・141	40	28	14.0	半円形		
P-3	X102	Y140・141	40	38	30.5	円形		
P-4	X102	Y140・141	40	34	17.0	円形		
P-5	X102	Y140	66	54	26.5	楕円形	2	
P-6	X102	Y141	34	30	19.0	円形		
P-7	X102	Y141	30	26	26.0	円形	1	
P-8	X102	Y141	42	40	36.0	円形	4	
P-9	X103	Y141	25	22	18.0	円形		
P-10	X104・105	Y141	52	46	37.0	円形	6	
P-11	X109	Y141	32	30	26.5	円形		
P-12	X105	Y141	45	40	24.5	円形		
P-13	X105	Y141	35	32	34.5	円形		
P-14	X106	Y141	38	36	28.5	円形		
P-15	X109	Y140	32	28	29.0	円形		
P-16	X101	Y140	24	22	27.0	円形		
P-17	X102	Y141	23	22	13.5	円形		
P-18	X102	Y140	28	27	12.0	円形		
P-19	X102	Y141	38	34	24.0	楕円形		
P-20	X102	Y140	34	26	15.0	楕円形	4	
P-21	X90	Y140	40	32	39.0	円形	1	
P-22	X89	Y140	40	36	24.5	円形		
P-23	X104	Y141	47	40	59.0	円形	5	
P-24	X109	Y140・141	52	44	31.0	円形	5	
P-25	X109	Y140	52	48	22.5	円形		
P-26	X109	Y141	34	30	27.5	円形	1	

Tab.11 元総社小見内区遺跡C区 住居跡一覧表

遺構名	位置		主軸方向	壁現高	壁現高	面積	竈
				東西×南北	(cm)		
H-1	X91	Y154	N- 0° -E	—	—	(0.70)	(南)

Tab.12 元総社小見内区遺跡C区 竈一覧表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	構築材	備考
H-1	N- 141° -E	148	62	45		

Tab.13 元総社小見内区遺跡C区 溝跡計測表

遺構名	位置		主軸方向	長さ	最大幅(m)		深さ	断面形
					上幅	下幅		
W-1	X91・92	Y144・145	N- 91° -E	5.12	1.26	0.94	28.0	逆台形

Tab.14 元総社小見内区遺跡C区 土坑・ピット計測表

遺構名	位置		規模(cm)			形状	遺物総数	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ	深さ			
D-1	X91	Y154	43	43	20.5	円形	3		
D-2	X91	Y156	64	47	63.5	楕円形	4	鍋	
D-3	X91	Y157	(50)	(10)	10.5	半円形	2		
P-1	X91	Y156	40	32	25.5	円形			
P-2	X91	Y156	29	28	27.5	円形			
P-3	X92	Y156	41	40	18.5	円形			
P-4	X92	Y156	36	32	18.5	円形			
P-5	X92	Y156	40	36	26.5	円形			
P-6	X91	Y156	34	32	41.5	円形			
P-7	X91	Y157	42	40	30.0	円形	1		

Tab.15 元総社小見内区遺跡D区 溝跡計測表

遺構名	位置		主軸方向	長さ	最大幅(m)		深さ	断面形
					上幅	下幅		
W-1	X103・104	Y153~157	N-191° -E	13.5	1.56	0.70	42	逆台形
W-2	X103・104	Y157	N- 87° -W	4.9	2.04	0.90	33	U字形
W-3	X103・104	Y157・158	N- 89° -W	3.1	(0.60)	(0.15)	54	—

Tab.16 元総社小見内区遺跡E区 住居跡一覧表

遺構名	位置		主軸方向	規模(m)	壁現高	面積	竈	主な出土遺物
				東西×南北	(cm)	(㎡)	位置	
H-1	X126・127	Y157・158	N- 88° -E	2.94 × 4.00	50.0	(10.19)	—	土師坏

Tab.17 元総社小見内区遺跡E区 溝跡計測表

遺構名	位置		主軸方向	長さ	最大幅(m)		深さ	断面形
					上幅	下幅		
W-1	X126・127	Y154~157	N-165° -E	12.66	130	54	43	U字形

Tab.18 元総社小見区遺跡A区 出土土器観察表

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H-1 床直	坏 須恵器	① 9.5 ② 3.6	①中粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：板目切り未調整。	カワラケ
2	H-1 埋土	坏 須恵器	① 9.7 ② 3.2	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
3	H-1 床直	坏 須恵器	① 10.0 ② 2.3	①中粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内面轆轤撫で、外面撫で。外面及び内面口縁部にかけて赤色塗彩。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
4	H-1 床直	坏 須恵器	① 10.0 ② 3.3	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 煤付着
5	H-1 床直	坏 須恵器	① 10.1 ② 3.1	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：板目切り未調整。	酸化焰焼成 雑
6	H-1 床直	坏 須恵器	① 10.3 ② 3.0	①中粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに内彎。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
7	H-1 床直	坏 須恵器	① 11.0 ② 3.1	①中粒②良好 ③灰黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
8	H-1 床直	坏 須恵器	① 11.5 ② 3.0	①中粒②良好 ③橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。外面から内面口縁部にかけて赤色塗彩。底部：内面中央部やや突出。回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
9	H-1 床直	坏 須恵器	① 11.6 ② 3.2	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 雑
10	H-1 床直	高台椀 須恵器	① 10.4 ② 4.8	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。底部：内部中央わずかに突出。回転糸切り付け高台。高台部：外傾。	酸化焰焼成 雑
11	H-1 床直、竈	高台椀 須恵器	① 12.4 ② 5.1	①粗粒②不良③にぶい褐色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部薄い。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：やや外反。接地部角状。	酸化焰焼成
12	H-1 床直	高台椀 須恵器	① [13.0] ② 4.6	①中粒②良好 ③明黄褐色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反、肥厚。内面轆轤撫で。外面撫で。底部：内面中央僅かに突出。外面回転糸切付け高台。高台部：短く僅かに外傾。	酸化焰焼成
13	H-1 床直	高台椀 須恵器	① 14.0 ② 5.7	①中粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：長く外反。	酸化焰焼成
14	H-1 埋土	高台椀 須恵器	① [14.0] ② 5.1	①粗粒②不良 ③浅黄橙色④1/3	轆轤成形。口縁部・体部：外傾した体部から口縁部に至る。体部肥厚。口縁端部薄く、やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	酸化焰焼成
15	H-1 床直	高足椀 須恵器	① [15.4] ② 5.9	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部薄く、僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：長く外傾。	酸化焰焼成
16	H-1 埋土	高台椀 灰 釉	① 16.6 ② 5.1	①中粒②極良 ③灰白色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：彎曲から外傾し口縁部に至る。口縁端部薄く、やや外反。内外面轆轤撫で。底部：欠損。	つけがけ
17	H-1 埋土	壺 灰 釉	① - ② (25.6)	①細粒②極良 ③灰色④1/2	口縁部：口唇部欠損。口頸部直立し、内部に蓋を受けるためと思われる窪み有り。胴部：上位に張りを持つ。外面釉薬刷毛塗り。内面に輪積み痕有り。底部：内面指頭痕。外面回転糸切り再調整後付け高台。高台部：短く僅かに外傾。	
18	H-1 床直、竈	羽釜 須恵器	① 22.6 ② 26.4	①粗粒②良好 ③にぶい赤褐色④2/3	口縁部：僅かに内傾。横位の撫で。口縁端部外反。鋳部三角状、やや上向きに張り出す。鋳部器最大径。胴部：外傾して立ち上がり、上位で張りをもち、緩やかに内彎。底部：内面轆轤撫で、外面篋削り。	T-1か
19	H-1 床直	羽釜 須恵器	① [24.0] ② (18.0)	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：僅かに内傾。横位の撫で。鋳部は三角状、水平に張り出す。頸貼付。胴部：上位内彎。中位から底部：欠損。	
20	H-1 床直	大甕 須恵器	① - ② (43.3)	①中粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤成形。口縁部：欠損。頸部：外反。内外面轆轤撫で。胴部：外面平行叩き目紋。内面青海波状紋。中位から底部：欠損。	
21	H-2 床直	坏 須恵器	① 12.4 ② 4.4	①中粒②良好	轆轤成形。口縁部・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
22	H-2 床直	坏 須恵器	① 13.0 ② 4.2	①中粒②良好 ③灰黄褐色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：内部中央突出。外部回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 雑
23	H-2 床直	坏 須恵器	① [13.4] ② 4.2	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
24	H-2 埋土	坏 須恵器	① [13.6] ② 4.1	①粗粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外反した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
25	H-2 床直、竈	高台皿 須恵器	① [13.0] ② 3.4	①中粒②良好 ③褐灰色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く僅かに外傾。	
26	H-2 埋土	高台椀 須恵器	① [13.2] ② 5.6	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	酸化焰焼成 雑
27	H-2 床直	高台椀 須恵器	① [13.2] ② 5.8	①粗粒②良好 ③灰黄色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反、やや肥厚。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	酸化焰焼成
28	H-2 床直、竈	甕	① [12.0] ② (12.0)	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/3	口縁部：外反。体部：中位器最大径。外面上位横方向、下位上下方向篋削り。内面撫で。胴部下位から底部：欠損。	

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
29	H-2 床直、竈	甕 土師器	① [19.0] ② (7.5)	①中粒②良好 ③にぶい褐色④1/10	口縁部：外反。口縁端部に稜有り。頸部はほぼ直立、内外面撫で。胴部：上部以下欠損。外面横位篋削り。内面撫で。	
30	H-2 埋土	羽釜 須恵器	① [19.0] ② (9.3)	①中粒②良好 ③灰色④1/16	口縁部：僅かに内傾。横位の撫で。鈔部は三角状、水平に張り出す。鈔貼付。胴部：薄く、内外面轆轤撫で。中位から底部：欠損。	
31	H-3 埋土	高台皿 灰 釉	① [12.0] ② 2.7	①細粒②極良 ③灰白色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁部ほぼ直立、口縁端部外反。口縁部施釉。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外反。	
32	H-3 床直	高台椀 緑 釉	① — ② (1.9)	①細粒②極良 ③緑灰色④1/10	口縁部：欠損。体部：欠損。底部：内外面施釉。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く僅かに外傾。	
33	H-3 床直	高台椀 須恵器	① 12.4 ② 5.2	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：僅かに外傾。	
34	H-3 床直	足高椀 須恵器	① — ② (6.5)	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：口縁部欠損。体部外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：長く外反。	
35	H-4 床直	高台椀 灰 釉	① — ② (1.8)	①細粒②良好 ③灰白色④底部のみ	轆轤成形。口縁・体部：欠損。下部にわずかに釉有り。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く僅かに外傾。	
36	H-4 埋土	高台椀 須恵器	① — ② (2.0)	①中粒②良好③にぶい ④橙色④底部のみ	轆轤成形。口縁・体部：欠損。底部：回転糸切り付け高台。高台部：極短く僅かに外傾。	酸化焰焼成
37	H-4 埋土	高台椀 須恵器	① — ② (7.5)	①中粒②良好 ③灰色④1/10	轆轤成形。口縁部欠損。体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：欠損。高台部：短く外傾。	
38	H-4 埋土	甕 土師器	① [20.0] ② (8.7)	①粗粒②良好 ③橙色④1/16	口縁部：外反。口縁端部の稜は僅か。頸部は僅かに内傾し、内外面撫で。胴部：上位篋削り。胴部中位から底部：欠損。	
39	H-4 埋土、竈	羽釜 須恵器	① [19.0] ② (13.9)	①粗粒②良好 ③にぶい褐色④1/8	口縁部：内傾。肥厚。鈔部は三角状、水平に張り出す。鈔部器最大径。胴部：内外面轆轤撫で。下部から底部欠損。	
40	H-5 床直	坏 須恵器	① 11.0 ② 3.3	①中粒②良好 ③橙色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：外反した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに肥厚。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
41	H-5 埋土	高台椀 須恵器	① [14.0] ② 6.2	①中粒②良好 ③黒褐色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り付け高台。高台部：肥厚、わずかに外傾。	酸化焰焼成 雑
42	H-5 床直	高台椀 須恵器	① [15.6] ② 5.3	①中粒②良好 ③橙色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：やや内彎した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	酸化焰焼成
43	H-5 床直	高台椀 灰 釉	① [17.0] ② 5.0	①細粒②極良 ③灰白色④1/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：欠損。短く外傾。	漬けがけ
44	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① [9.8] ② 2.9	①中粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部肥厚、外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 東部
45	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① 10.3 ② 3.4	①中粒②良好 ③浅黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 東部
46	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① 10.4 ② 3.4	①中粒②良好 ③灰白色④3/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 東部 雑
47	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① 10.4 ② 3.7	①中粒②良好 ③にぶい橙色④5/6	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。底部：回転糸切り篋削り調整。	酸化焰焼成 東部 雑
48	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① 10.6 ② 4.1	①中粒②良好 ③浅黄橙色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：厚い。回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 東部 雑
49	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① 11.0 ② 3.3	①粗粒②良好③にぶい ④橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部肥厚、外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 東部 雑
50	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① 11.0 ② 3.9	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 東部
51	1号土器埋納 土坑 埋土	高台椀 須恵器	① 10.4 ② 4.6	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	酸化焰焼成 東部
52	1号土器埋納 土坑 埋土	高台椀 須恵器	① 11.5 ② (4.3)	①中粒②良好 ③灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外反した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：欠損。	酸化焰焼成 東部 雑
53	1号土器埋納 土坑 埋土	高台椀 須恵器	① 11.5 ② 4.5	①粗粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや肥厚。内外面轆轤撫で。底部：内面中央やや突出。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く僅かに外傾。	酸化焰焼成 東部
54	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① 9.5 ② 3.2	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 西部 雑
55	1号土器埋納 土坑 床直	坏 須恵器	① 9.8 ② 3.3	①中粒②良好③にぶい ④黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部肥厚、外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 西部
56	1号土器埋納 土坑 床直	坏 須恵器	① 10.0 ② 3.2	①中粒②良好③にぶい ④橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 西部
57	1号土器埋納 土坑 床直	坏 須恵器	① 10.0 ② 3.1	①粗粒②良好 ③オリーブ灰色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：僅かに丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部：僅かに外反。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 西部
58	1号土器埋納 土坑 床直	坏 須恵器	① 10.0 ② 3.7	①中粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部肥厚、外反。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 西部 雑
59	1号土器埋納 土坑 埋土	坏 須恵器	① 10.3 ② 3.8	①中粒②良好 ③浅黄橙色④3/5	轆轤成形。口縁・体部：僅かに丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 西部

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
60	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.4 ② 3.2	①中粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
61	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.4 ② 3.3	①粗粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
62	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.4 ② 3.3	①粗粒②良好 ③褐灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 雑
63	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.4 ② 3.1	①粗粒②良好 ③浅黄橙色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
64	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.4 ② 3.4	①中粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
65	1号土器埋納土坑 埋土	坏須恵器	① 10.5 ② 3.3	①中粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
66	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.5 ② 3.3	①中粒②良好 ③浅黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：薄手。外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 雑
67	1号土器埋納土坑 埋土	坏須恵器	① 10.5 ② 3.3	①中粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
68	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.5 ② 3.3	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④5/6	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 雑
69	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.5 ② 3.4	①中粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
70	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.5 ② 3.8	①粗粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
71	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.6 ② 3.0	①粗粒②良好 ③灰黄色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
72	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.6 ② 3.3	①中粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
73	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.7 ② 3.2	①中粒②良好 ③浅黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 煤付着
74	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.7 ② 3.3	①中粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
75	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.8 ② 3.1	①粗粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
76	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.8 ② 3.2	①中粒②良好③にぶい黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
77	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.8 ② 3.3	①粗粒②良好 ③淡黄色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
78	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.8 ② 3.4	①中粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
79	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.0 ② 3.0	①中粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
80	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.0 ② 3.6	①中粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 煤付着
81	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.0 ② 3.6	①粗粒②不良 ③にぶい黄褐色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 雑
82	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.0 ② 3.9	①粗粒②良好 ③灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 雑
83	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.0 ② 4.0	①粗粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや肥厚、外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
84	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.0 ② 3.2	①粗粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：丸みを帯びた体下部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 雑
85	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.1 ② 3.6	①中粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
86	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.2 ② 3.5	①中粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 雑 煤付着
87	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.3 ② 3.3	①中粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部 煤付着
88	1号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① (11.4) ② 3.8	①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部極度に外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成西部
89	1号土器埋納土坑 床直	高台椀須恵器	① 10.7 ② 4.8	①中粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	酸化焰焼成西部
90	1号土器埋納土坑 床直	高台椀須恵器	① 10.7 ② 5.2	①粗粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外反。	酸化焰焼成西部

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
91	1号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 11.1 ② 5.3	①粗粒②良好 ③浅黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外反。	酸化焰焼成西部
92	1号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 11.2 ② 5.4	①粗粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外反。	酸化焰焼成西部
93	1号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 11.4 ② 5.4	①粗粒②不良 ③浅黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外反。	酸化焰焼成西部 雑
94	1号土器埋納土坑 床直	高台碗土師器	① 11.5 ② 5.2	①粗粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り付け高台。高台部：外反。	酸化焰焼成西部
95	1号土器埋納土坑 床直	高台碗土師器	① 11.5 ② 4.7	①中粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：やや外反。	酸化焰焼成西部 雑
96	1号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 11.6 ② 5.1	①粗粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から緩やかに口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：やや外傾。	酸化焰焼成西部
97	1号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 11.6 ② 5.2	①粗粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：僅かに外反。	酸化焰焼成西部
98	1号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 11.6 ② 5.3	①中粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。外面中央に篋書き開有り。記号が高台部：外反。	酸化焰焼成西部
99	1号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 11.6 ② 5.4	①粗粒②良好 ③明赤褐色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾。	酸化焰焼成西部
100	1号土器埋納土坑 埋土	高台碗須恵器	① 12.0 ② 5.5	①粗粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾。	酸化焰焼成西部 雑
101	2号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 9.8 ② 3.6	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成雑
102	2号土器埋納土坑 埋土	坏須恵器	① 10.1 ② 4.0	①中粒②良好 ③褐灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
103	2号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.2 ② 2.8	①中粒②良好 ③灰白色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
104	2号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.6 ② 3.1	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④3/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
105	2号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 10.8 ② 3.3	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
106	2号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.0 ② 3.2	①中粒②良好 ③灰黄色④3/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成雑 煤付着
107	2号土器埋納土坑 埋土	坏須恵器	① 11.0 ② 3.9	①中粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成雑
108	2号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.2 ② 3.6	①中粒②良好 ③灰白色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成雑
109	2号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 11.2 ② 3.6	①粗粒②良好 ③明黄褐色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。肥厚。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
110	2号土器埋納土坑 床直	坏土師器	① 11.3 ② 3.6	①粗粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
111	2号土器埋納土坑 床直	坏須恵器	① 12.1 ② 3.3	①中粒②良好 ③橙色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
112	2号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 12.0 ② 5.4	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短くやや外反。	酸化焰焼成
113	2号土器埋納土坑 床直	高台碗須恵器	① 12.6 ② 4.1	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短くわずかに外傾。	酸化焰焼成
114	D-6	高台碗須恵器	① 13.0 ② 5.8	①中粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾。	酸化焰焼成
116	P-3 床直	羽釜須恵器	① [20.0] ② (16.3)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④4/5	口縁部：僅かに内傾。横撫で。鈿部は三角状、水平に張り出す。胴部：上位器最大径。内外面轆轤撫で。胴部中位部から底部欠損。	
117	X80Y132 埋土	短形壺灰釉	① - ② (10.5)	①中粒②良好③明オリーブ灰色④4/5	轆轤成形。口縁部から頸部上部欠損。頸部下部：ほぼ直立。体部：中位器最大径。外面轆轤撫で後施釉。底部：回転糸切り未調整。	つげかけ
118	X81Y132 埋土	坏須恵器	① [10.4] ② 4.5	①中粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短くやや外反。	酸化焰焼成
119	表採埋土	蓋須恵器	① [18.0] ② 3.4	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。天井部：僅かに脹らむ。内外面轆轤撫で。摘み：ボタン状摘み。口縁部：外反。かえり：内傾。	

Tab.19 元総社小見Ⅹ遺跡B区 出土土器観察表

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H-1 埋土	高台椀 須恵器	① [12.0] ② (4.5)	①中粒②良好 ③灰黄褐色④1/6	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。底部：回転糸切り付け高台。高台部：極短く僅かに外傾。	酸化焰焼成
2	H-2 埋土	坏 須恵器	① - ② (1.3)	①粗粒②良好 ③灰黄色④1/4	轆轤成形。口縁・体部欠損。底部：回転糸切り未調整	酸化焰焼成
3	H-2 床直	高台皿 灰 釉	① [11.8] ② 2.8	①粗粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。内面に重ね焼き痕。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く僅かに外反。	つけがけ
4	H-2 埋土	高台椀 須恵器	① [10.4] ② 4.9	①中粒②良好 ③橙色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾	酸化焰焼成
5	H-2 床直	高台椀 須恵器	① 12.4 ② 4.3	①中粒②良好 ③浅黄色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り付け高台。高台部：外反。	酸化焰焼成
6	H-3 床直	坏 須恵器	① 9.2 ② 3.3	①中粒②良好③にぶ い橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
7	H-3 埋土	坏 須恵器	① 10.0 ② 3.4	①中粒②良好 ③浅黄橙色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部僅かに肥厚。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 煤付着
8	H-3 埋土、竈	坏 須恵器	① 10.2 ② 4.1	①中粒②良好 ③浅黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。体部中に穿孔。底部：孔を開けようとした痕跡あり。内面轆轤痕。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
9	H-3 埋土	坏 須恵器	① [11.0] ② 3.2	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り未調整。	酸化焰焼成 雑
10	H-3 埋土	高台椀 須恵器	① [11.8] ② 4.2	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外反。	酸化焰焼成 煤付着
11	H-3 埋土	高台椀 須恵器	① [13.0] ② (4.9)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/7	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：平高台。	酸化焰焼成
12	H-3 埋土	足高椀 須恵器	① - ② (5.0)	①中粒②良好 ③灰黄色④1/3	轆轤成形。口縁欠損。体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：長く外傾、接地部肥厚。	酸化焰焼成
13	H-3 床直	羽釜 須恵器	① [21.0] ② (21.5)	①粗粒②不良 ③灰白色④1/3	口縁部：内傾。内外面横撫で。銜部は三角状で、やや上方向に張り出す。胴部：上位器最大径、外面轆轤撫で、中位縦方向に篋削り。胴部中位から底部：欠損。	
14	H-3 埋土	羽釜 須恵器	① [23.0] ② (26.0)	①粗粒②良好③にぶ い黄褐色	口縁部：内傾。横撫で。銜部は三角状で、やや上方向張り出す。胴部：内外面轆轤撫で。外面下部不定方向篋削り。底部欠損。	
15	H-4 埋土	坏 土師器	① [10.6] ② (3.1)	①中粒②良好 ③橙色④1/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で直立。口縁部は内外面横撫で。体部外面は横位の篋削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	
16	H-4 床直	坏 土師器	① [14.0] ② (3.3)	①中粒②良好 ③橙色④1/6	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で短く直立。口縁部は内外面撫で。体部は外面斜位の篋削り。内面撫で。底部：浅い丸底	
17	H-4 埋土	蓋 須恵器	① 15.7 ② 2.9	①粗粒②良好 ③灰色④完形	轆轤成形。天井部：緩やかに膨らむ。回転糸切り痕。内外面轆轤撫で。口縁端部：やや外反。摘み：ボタン状摘み。かえり：やや内傾。	
18	H-4 埋土	蓋 灰 釉	① 17.5 ② 1.4	①中粒②不良 ③灰白色④1/2	轆轤成形。天井部：平坦。内外面轆轤撫で。口縁部：やや外傾。	
19	H-4 埋土	甕 土師器	① [14.4] ② (13.0)	①中粒②良好 ③橙色④1/10	口縁部：やや外反。頸部：ほぼ直立。内外面不安定方向の撫で。胴部：内外面篋調整。胴部下位から底部：欠損。	
20	H-5 埋土	坏 土師器	① [10.3] ② (3.3)	①中粒②良好 ③にぶい褐色④2/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で内傾。口縁部内外面撫で。体部は外面不定方向の篋削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	
21	H-5 床直	坏 土師器	① 10.3 ② (3.7)	①中粒②良好 ③明赤褐色④4/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で内傾。口縁端部内彎。体部は外面不定方向の篋削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	
22	H-5 床直	坏 土師器	① [10.4] ② 3.3	①中粒②良好 ③にぶい橙色④3/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で短く直立。口縁端部やや内傾。体部は外面不定方向の篋削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	
23	H-5 埋土	蓋 須恵器	① [11.2] ② (1.7)	①中粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤成形。天井部：緩やかに膨らむ。内外面轆轤撫で。口縁端部外傾。かえり：内傾。摘み：欠損。	
24	H-6 床直	坏 須恵器	① [12.1] ② 3.5	①粗粒②良好 ③浅黄橙色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁に至る。口縁端部僅かに外反。内外面篋調整。底部：回転糸切り未調整。中央穿孔。	酸化焰焼成
25	H-6 埋土	高台椀 須恵器	① [13.4] ② 4.5	①中粒②良好 ③灰黄色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部肥厚、外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	酸化焰焼成 雑
26	H-6 床直	高台椀 須恵器	① 13.8 ② 4.7	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部肥厚、外反。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く僅かに外傾。	酸化焰焼成
27	H-6 床直	高台椀 須恵器	① 13.8 ② 5.7	①中粒②良好 ③灰黄色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部肥厚、僅かに外反。外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：外傾。	酸化焰焼成
28	H-6 床直、竈	羽釜 須恵器	① [21.0] ② (4.8)	①中粒②良好③にぶ い褐色④口縁部1/6	口縁部：僅かに内傾。内外面横撫で。口縁端部肥厚、外反。銜部は三角状、水平に張り出す。胴部から底部：欠損。	

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
29	H-6 床直	羽釜 須恵器	① [21.6] ② (11.5)	①中粒②良好③にぶ い黄橙色④1/15	口縁部：内傾。内外面横撫で。口縁端部肥厚、外反。鈿部は三角状、やや下向きに張り出す。胴部：上位内外面轆轤撫で。中位から底部：欠損。	
30	H-7 床直、竈	高台椀 須恵器	① - ② (1.9)	①中粒②良好 ③淡黄色④底部のみ	轆轤成形。口縁・体部：欠損。底部：内面中央突出。外面回転糸切り付け高台。	酸化焰焼成
31	H-7 床直、竈	羽釜 須恵器	① [22.0] ② (19.0)	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	口縁部：内傾。内外面横撫で。口縁端部やや肥厚。鈿部は三角状、水平に張り出す。鈿貼付。胴部：上位器最大径。内外面轆轤撫で。外面中位篋削り。下位から底部：欠損。	
32	H-8 埋土	足高椀 須恵器	① - ② (4.5)	①中粒②良好 ③浅黄橙色④1/8	口縁・体部：欠損。底部：回転糸切り付け高台。高台部：長く外傾。内外面轆轤撫で。	酸化焰焼成
33	H-8 埋土	羽釜 須恵器	① [11.0] ② (8.3)	①中粒②良好③にぶ い黄橙色④1/16	口縁部：内傾。内外面横撫で。鈿部は三角状、水平に張り出す。鈿貼付。胴部：上位内外面轆轤撫で。中位から底部：欠損。	
34	H-8 床直、竈	羽釜 須恵器	① [19.0] ② (5.4)	①中粒②良好 ③灰色④口縁部1/12	口縁部：内傾。薄い。内外面横撫で。口縁端部肥厚。鈿部薄く、下方に張り出す。胴部：上位内外面轆轤撫で。中位から底部：欠損。	
35	H-9 床直	坏 須恵器	① 10.0 ② 3.2	①中粒②良好 ③灰色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焰焼成
36	H-9 床直	羽釜 須恵器	① [18.0] ② (5.3)	①中粒②良好 ③橙色④口縁部1/8	口縁部：僅かに内傾。内外面横撫で。鈿部は三角状、やや上方向に張り出す。体部から底部：欠損。	
37	H-9 床直	甕 須恵器	① 20.2 ② (4.8)	①粗粒②良好③にぶ い黄橙色④口縁部1/2	口縁部：外反。体部から底部：欠損。	酸化焰焼成
38	H-10 床直	盤 須恵器	① [22.6] ② (3.7)	①細粒②極良 ③灰白色④1/12	口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部やや外傾。底部：放射状篋削り。	
39	H-11 床直、竈	高台椀 須恵器	① - ② (1.9)	①粗粒②良好 ③灰色④1/4	口縁・体部：欠損。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾。	
40	H-13 床直	坏 土師器	① [12.2] ② 3.8	①粗粒②良好 ③明赤褐色④1/3	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部でほぼ直立。体部外面は斜位の篋削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	
41	W-3 床直	甕 土師器	① [23.0] ② (4.7)	①中粒②良好 ③橙色④口縁1/8	口縁部：口縁端部外反。体部から底部：欠損。	流れ込み
42	I-2 埋土	高台椀 灰 釉	① - ② (2.0)	①粗粒②良好 ③灰白色④1/6	口縁・体部：欠損。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短く垂下。	中世か 流れ込み
43	I-2 床直	羽釜 須恵器	① [16.4] ② (3.8)	①中粒②良好 ③黄灰色④-	口縁部：僅かに内傾。内外面横撫で。鈿部は三角状、水平に張り出す。胴部から底部：欠損。	
44	I-2 埋土	鍋 須恵器	① [27.0] ② (14.0)	①粗粒②良好 ③にぶい黄褐色④1/6	轆轤成形。口縁部：口縁端部僅かに外反。体部：外面上位・内面轆轤撫で。外面中位不安定方向篋削り。	中世 流れ込み

Tab.20 元総社小見区遺跡C区 出土土器観察表

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	D-2 埋土	鍋 須恵器	① [29.0] ② (16.0)	①中粒②良好 ③黒褐色④1/5	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾し直立した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。体部中位篋削り。底部：篋削り。	中世 流れ込み
2	X91Y155	坏 須恵器	① 9.3 ② 2.3	①中粒②良好③にぶ い黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	カワラケ

Tab.21 元総社小見区遺跡E区 出土土器観察表

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H-1 埋土	坏 土師器	① [12.0]	①中粒②良好 ③橙色④1/8	口縁・体部：緩やかに外傾した体部から口縁部に至る。口縁端部外反。体部篋削り。底部：不安定方向の篋削り。	
2	H-1 埋土	坏 土師器	① 17.0 ② (3.9)	①中粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で外傾。口縁端部外反。口縁部内外面横撫で。体部は斜位の篋削り。	
3	X128Y157	高台椀 須恵器	① 13.0 ② 6.8	①中粒②良好③浅黄 橙色④ほぼ完形	口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。外面回転糸切り付け高台。高台部：外傾。	流れ込み

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。

②長さ、厚さの単位はcmである。現存値を()、復元値を[]で示した。

③胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)によった。

Tab.22 元総社小見内区遺跡A区 出土瓦観察表

番号	遺構/層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・技術等の特徴	備考
1	H-1 床直	軒平瓦	(16.3)	(13.6)	5.3	①粗粒②良好 ③灰色④1/6	凹面：布目(粗)。模骨痕。凸面：段顎。撫で。側部 面取り2面。瓦当：左偏向唐草文。国分寺瓦。	還元焰焼成
2	H-1 床直	軒平瓦	(14.7)	(24.7)	6.3	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	一枚作り。凹面：布目(密)。凸面：段顎。撫で。側 端面取り1面。瓦当：右偏向唐草文。国分寺瓦。 (笠懸)	還元焰焼成
3	H-1 床直、竈	丸瓦	(26.2)	15.3	1.4	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	行基書式か。凹面：布目。凸面：縦位の撫で。広端部 面取り1面。二次被熱。	酸化焰焼成
4	H-2 床直	平瓦	(6.2)	(10.2)	2.3	①中粒②良好 ③橙色④1/15	凹面：布目(粗)。凸面：撫で。篋書き瓦(凸面文字 瓦)	酸化焰焼成
5	H-2 床直	平瓦	(9.4)	(3.5)	2.6	①中粒②良好 ③灰色④1/15	凹面：布目擦り消し。凸面：撫で整形後斜格子叩き。	還元焰焼成
6	H-3 埋土	平瓦	(16.6)	(15.0)	2.6	①中粒②良好③にぶ い黄橙色④1/6	一枚作り。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。 広端面取り2面。二次被熱。	酸化焰焼成
7	H-5 埋土	平瓦	(5.6)	(14.3)	2.0	①中粒②良好 ③灰色④1/14	一枚作り。凹面：布目(密)。凸面：縄叩き(鮮明)。 側部面取り2面。	還元焰焼成
8	H-5 埋土	平瓦	(7.5)	(14.2)	1.8	①中粒②良好③にぶ い黄橙色④1/12	凹面：布目擦り消し。凸面：撫で整形後斜格子叩き。	酸化焰焼成
9	H-5 埋土	平瓦	(10.0)	(7.0)	1.5	①中粒②良好 ③黄灰色④1/15	凹面：布目(粗)。凸面：撫で整形後斜格子叩き。	還元焰焼成
10	H-7 埋土	平瓦	(17.9)	(12.2)	2.4	①中粒②良好 ③黄灰色④1/5	凹面：布目擦り消し。凸面：撫で整形後斜格子叩き。 側部面取り2面。広端面取り2面。	酸化焰焼成
11	D-12 床直	平瓦	(16.6)	(15.9)	2.3	①中粒②良好 ③灰色④1/5	一枚作り。凹面：布目(密)。凸面：縄叩き。側部面 取り2面。狭端面取り1面。	還元焰焼成
12	D-12 床直	平瓦	(18.2)	(13.3)	2.5	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	一枚作り。凹面：布目擦り消し。凸面：縦位の撫で。 側部面取り2面。広端面取り2面。	酸化焰焼成

Tab.23 元総社小見内区遺跡B区 出土瓦観察表

番号	遺構/層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・技術等の特徴	備考
1	H-1 床直	丸瓦	(15.9)	(7.7)	2.0	①中粒②良好③にぶ い橙色④1/5	凹面：布目(粗)。凸面：縦位の撫で。側部面取り2 面。	酸化焰焼成
2	H-3 埋土	丸瓦	(8.0)	(18.8)	2.3	①粗粒②良好 ③灰色④1/4	凹面：布目(密)。凸面：撫で。側部面取り3面。篋 書き文字瓦「織刀磨」(凸面)	還元焰焼成 文字瓦
3	H-7 埋土	平瓦	(9.7)	(10.5)	2.8	①粗粒②良好 ③明赤褐色④1/12	凹面：布目。凸面：縦位の撫で。広端面取り1面。 篋書き文字瓦「長」	酸化焰焼成 文字瓦
4	H-8 埋土	平瓦	25.7	(14.1)	2.0	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	四枚作りか。凹面：布目。模骨痕。凸面：撫で整形後 縄叩き(不鮮明)。側部面取り2面。広端面取り3 面。	酸化焰焼成
5	覆土	平瓦	(7.0)	(8.5)	2.0	①中粒②良好③にぶ い黄橙色④1/28	凹面：布目擦り消し。凸面：撫で整形後斜格子叩き。	酸化焰焼成

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出
については「竈」と記載した。

②長さ、厚さの単位はcmである。現存値を()、復元値を[]で示した。

③胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)によった。

Tab.24 元総社小見内区遺跡A区 出土鉄器・鉄製品・古銭観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備考
1	H-1・床直	鋸	(7.7)	(3.9)	0.8	21.0	2/3	断面方形上を呈し、片方の端部側欠損。錆化著しい。
2	H-2・埋土	鋸	(5.2)	(0.7)	(0.7)	12.0	1/2	断面方形状を呈し、両方の端部側欠損。
3	H-3・埋土	釘	(12.3)	(1.0)	1.2	42.6	2/3	断面方形状を呈し、上・下端部欠損。
4	H-4・床直	釘	9.9	0.8	0.5	14.6	ほぼ完形	断面は方形状を呈し、下端部はやや彎曲し先細りする。
5	H-4・床直	帯金具	(2.2)	(2.2)	0.2	4.8	1/3	金銅製。裏面に2点の突起を持つ。本体との接続部か。
6	H-4・床直	釘	5.0	0.6	0.5	5.1	完形	断面は方形状を呈し、下端部は先細りする。
7	H-5・埋土	刀子	(7.6)	(2.3)	0.4	14.0	1/2	錆化著しい。
8	H-5・床直	釘	(5.4)	(0.7)	(0.7)	9.6	1/2	断面は方形状を呈し、下端部欠損は先細りする。錆化著しい。
9	D-6・埋土	鋸	(5.0)	(4.8)	0.9	27.0	3/4	片方の端部欠損。

Tab.25 元総社小見内IX遺跡B区 出土鉄器・鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備考
1	H-2・埋土	紡錘車	[14.5]	4.4	0.5	36.6	ほぼ完形	軸部両端欠損。紡輪部はやや内側にくぼむ。錆化している。
2	H-3・床直	鉄 鎌	(9.6)	1.8	0.6	15.6	5/6	刃先端、基下端部欠損。錆化著しい。
3	H-5・埋土	釘	(10.5)	1.1	1.1	30.8	5/6	上端部欠損。断面は方形状を呈し、下端部は彎曲し、先細りする。
4	D-6・床直	釘	(7.5)	0.9	0.7	12.8	2/3	上・下端部欠損。断面は方形状を呈す
5	X108Y141	古 銭	2.4	2.4	0.1	2.8	完形	「景德元寶」。銅製。1004年初鋳。渡来銭。
6	覆土	古 銭	2.4	2.4	0.2	3.0	完形	「天聖元寶」。(真)銅製。1023年初鋳。渡来銭。
7	覆土	環状鉄製品	3.0	2.3	0.6	7.9	完形	断面方形状を呈し、環状を呈する。錆化著しい。

Tab.26 元総社小見内IX遺跡A区 出土石器・石製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石 材	遺存度	備考	
1	H-2・床直	砥 石	7.5	3.8	1.5	52.5	凝灰岩	完形	平面撥形。側面中央部摩耗。長軸方向に弱い擦痕有。4面使用。上部中央に孔を穿ち、下端部を魚鱗状に刻み細工。携帯用か。	
2	H-2・埋土	砥 石	(8.0)	(4.0)	(2.3)	95.0	凝灰岩	2/3	撥形。上部欠損。長軸方向に弱い擦痕有。3面使用。裏面一部に自然面を残す。	
3	H-4・床直	白 玉	径 1.3	孔径 0.2	0.3	0.1	滑 石	1/3		
4	H-4・埋土	紡錘車	上底径 (2.9)	下底径 (2.9)	軸孔径 -	高さ (1.3)	12.4	凝灰岩	1/4	

Tab.27 元総社小見内IX遺跡B区 出土石器・石製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石 材	遺存度	備考	
1	H-5・埋土	打製石斧	(3.8)	(4.8)	1.0	25.6	頁 岩	1/3	舌形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。表面一部に自然面を残す。	
2	H-6・埋土	石 鎌	2.4	1.5	0.4	0.7	頁 岩	完形	凹基無茎鎌。先端部僅かに欠損。基部の湾入が鈍角状でやや深い。	
3	H-6・埋土	打製石斧	(6.1)	4.0	1.2	51.0	頁 岩	1/2	短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。裏面一部に自然面を残す。	
4	H-12・埋土	紡錘車	上底径 1.9	下底径 4.2	軸孔径 0.8	高さ 1.9	45.2	滑 石	ほぼ 完形	截頭円錐形。放射状に加工痕有。研磨されている。
5	I-1・床直	砥 石	(22.1)	8.5	7.9	2,220.0	凝灰岩	2/3	据え砥。平面長方形、断面六角形状をなす。長軸方向に擦痕有。8面使用。	
6	I-1・埋土	石 鎌	(2.2)	(1.4)	0.3	1.2	チャート	2/3	凹基無茎鎌。刃先端及び片縁、両側の脇扶欠損。基部の湾入が丸く浅い。	
7	X108Y141	石 鎌	(2.1)	1.4	0.3	1.0	チャート	4/5	凹基無茎鎌。刃先欠損。基部の湾入が極めて浅く丸い。	

注) 大きさの単位はcmであり、重さ単位はgである。現存値を () で示した。

6 総社閑泉明神北V遺跡 A区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.27、PL-)

位置 X264・265、Y136・137グリッド **主軸方向** (N-90°-E) **面積** 25.51㎡ **形状等** 硬化した床面が残存、方形と推測されるが、大部分が削平され全容は不明。 **床面** 全体的に平らな床面。 **竈** 焼土の残存部分が確認されたが、竈と断定するにはいたらない。 **重複** なし。 **時期** 不明である。 **遺物** 総数3点。

H-2号住居跡 (Fig.27、PL-)

位置 X266、Y137グリッド **主軸方向** (N-3°-E) **面積** 5.01㎡ **形状等** 大部分が調査区外にかかるため、全容は不明。 **床面** 全体的に平坦な床面。 **竈** 調査区外のため検出されず。 **重複** なし。

時期 不明である。埋土や出土遺物から10世紀代か。 **遺物** 総数5点。

(2) 土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.29土坑・ピット計測表 (P.41) を参照のこと。なお、ピットのうちP-3～7まではH-1号住居跡内部に位置する。しかし、この住居跡に伴うものか判断はできず、本項で記載する。

(3) グリッド出土遺物

総数2点を検出した。そのうちカワラケ1点を図示した。

7 総社閑泉明神北V遺跡 B区

本調査区の遺構確認面は合計4面である。上位から第1面 (土師面1・As-B~Hr-FPF1層準)、第2面 (土師面2・Hr-FA下)、第3面 (土師面3・Hr-FA~As-C層準)、第4面 (土師面4・As-C下) である (第IV章参照)。詳しくは第VIII章で考察する。

(1) 水田跡

Hr-FA下水田 (Fig.27、PL.6)

位置 第2面 (土師面2) X254・255、Y137・138グリッド **時期・形状等** 谷地部が洪水などで埋没していく過程で造成され、6世紀初頭のHr-FA (榛名ニッ岳渋川テフラ) とHr-FPF1 (榛名ニッ岳第1軽石流堆積物) により廃絶した水田面と考えられる。「小区画水田」の形態であり、東西-南北方向に区画され、推定7区画を数える (Tab.20 Hr-FA下水田計測表)。水田耕土は灰褐色土 (第IV章B区IV a層・Fig.7)。畦畔高は水田面からの比高で2cm前後を測るが1~3号区画は極めて不明瞭であり、また主に2号区画に人の足跡が残存する。さらに東側の斜面と接する部分には区画を設けていない。この水田に伴う用水路は未検出。 **遺物** 極めて状態の悪い板材片2点を確認した。使用目的不明。畦畔の心材の可能性は低い。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.27、PL.6)

位置 第3面 (土師面3) X255・256、Y137・138グリッド **主軸方向** N-5°-E **形状等** U字形。調査区を南北に走る。 **重複** なし。 **時期** 埋土および層序から4世紀前半～中葉以降6世紀初頭以前と考えられる。 **遺物** なし。 **備考** Hr-FA下水田耕土の直下で検出。

(3) 河 川 跡 他

1号河川跡 (Fig.39・43、PL.一)

位置 第1面 (土師面1) X253～256、Y137・138グリッド **主軸方向** N-123°-E **形状等** 調査区を北西から南東へと走行するが、南半が調査区外にかかる。断面は逆台形か。牛池川の旧河道と推測される。 **時期** 埋土や層序から6世紀初頭以降から近現代までのものか。 **遺物** 総数92点。そのうち須恵器坏1点、打製石斧1点を図示した。その他、古代の須恵器、土師器小片多数、近現代の護岸用と思われる木杭などが出土。

窪み状地形 (Fig.44、PL.11)

位置 第4面 (土師面4) X254・255、Y137・138グリッド **時期・形状等** 4世紀初頭のAs-Cで被覆されており、緩やかな皿状に窪む。水田跡の可能性も考え調査したが、自然地形と思われる。 **遺物** 加工材1点を図示した。その他、柱材の可能性もある径60cmの木材1点や自然木多数を検出。

Tab.28 総社閑泉明神北V遺跡A区 住居跡一覧表

遺構名	位 置	主軸方向	規模 (m)	壁現高	面 積	竈	主な出土遺物	
			東西×南北	(cm)	(㎡)	位 置	土 師 器	須 恵 器
H-1	X264・265 Y136・137	N- 90° -E	(3.08)×(2.45)	-	25.51	-		
H-2	X266 Y137	N- 3° -E	(3.08)×(0.50)	-	5.01	-	坏	

Tab.29 総社閑泉明神北V遺跡A区 土坑・ピット計測表

遺構名	位 置	規 模 (cm)			形 状	遺物総数	出土遺物	備考
		長 軸	短 軸	深 さ	深 さ			
D-1	X265 Y136	47	46	31.5	円形	3	須恵器甕	
D-2	X264 Y137	60	50	50.5	円形			
P-1	X91 Y156	34	33	25.5	円形			
P-2	X91 Y156	30	28	27.5	円形			
P-3	X92 Y156	42	40	18.5	円形			
P-4	X92 Y156	37	33	18.5	円形			
P-5	X92 Y156	40	37	26.5	円形			
P-6	X91 Y156	33	33	41.5	円形			
P-7	X91 Y157	43	38	30.0	円形			

Tab.30 総社閑泉明神北V遺跡B区 水田跡計測表

遺構名	位置		面積 (㎡)	軸 (m)		備考
				東西	南北	
1号区画	X254	Y137	—	—	—	不明瞭
2号区画	X254・255	Y137	—	3.68	(2.18)	不明瞭
3号区画	X254・255	Y137・138	—	(1.54)	(1.32)	不明瞭
4号区画	X255	Y137	—	0.44	(1.30)	
5号区画	X255	Y137	—	1.16	(1.55)	水口2箇所か・ヒト足跡残存
6号区画	X255	Y137	2.16	1.84	1.64	水口1箇所か・ヒト足跡残存
7号区画	X255	Y138	—	1.76	(1.66)	

Tab.31 総社閑泉明神北V遺跡B区 溝跡計測表

遺構名	位置		主軸方向	長さ (m)	最大幅 (m)		深さ (cm)	断面形
					上幅	下幅		
W-1	X255・256	Y137・138	N-5°-E	5.70	2.50	1.50	86	U字形

Tab. 32 総社閑泉明神北V遺跡B区 自然河川計測表

遺構名	位置		主軸方向	長さ (m)	最大幅 (m)		深さ (cm)	断面形
					上幅	下幅		
1号河川	X253~256	Y137・138	N-123°-E	9.80	(3.55)	—	62	逆台形か

Tab.33 総社閑泉明神北V遺跡A区 出土土器観察表

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高 ③長さ④厚さ	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	X265Y137	カワラケ須恵器	① 8.6 ② 1.8	①中粒②良好③にぶい ④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：内面中央突出。一部高台状に体部との段差を有する。回転糸切り未調整。不安定。	

Tab.34 総社閑泉明神北V遺跡B区 出土土器観察表

番号	遺構/層位	器種	①口径②器高 ③長さ④厚さ	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	第1面・1号河川埋土	坏須恵器	②(0.8)	①中粒②良好③灰白色 ④1/6	轆轤成形。底部：肥厚。内面轆轤撫で。回転糸切り未調整。摩耗。流水によるものか。	

Tab.35 総社閑泉明神北V遺跡B区 出土石器観察表

番号	遺構・層位	種類	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	備考
1	第1面・1号河川埋土	打製石斧	10.4	9.3	2.5	380	頁岩	完形	短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。片面に自然面を多く残す。

Tab.36 総社閑泉明神北V遺跡B区 出土木製品観察表

番号	遺構・層位	種類	長さ	最大幅	最大厚	遺存度	備考
1	第4面・窪み状地形埋土	加工材	(116.3)	(9.4)	(5.4)	不明	残存状態は不良。中央部及び端部に加工痕が複数残存。用途不明。

注) ①口径、器高の単位はcmであり、重さ単位はgである。現存値を()、復元値を[]で示した。
 ②胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
 ③焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
 ④色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳(小山・竹原1976)によった。
 ⑤大きさの単位はcmである。現存値を()で示した。

VI 自然科学分析

総社閑泉明神北V遺跡B区の西部では、テフラ層等の下面計4面から遺構が検出された。これらの遺構の年代を確定するために、テフラ・土層分析を行った。また、第2面の遺構は水田跡であるが、実際に耕作が営まれていたのか不明な箇所も見られる。また面的な調査はできなかったが他にも水田耕作が存在した可能性、さらには本遺跡内での開田の時期を推定する目的で、植物珪酸体（プラントオパール）分析を行った。各分析は、専門業者に外部委託した。その結果報告を以下に掲載する。またこの結果を含め、本遺跡の水田跡に関する考察は第七章で行う。

<資料採取地点の概要>

採取地点名	概要
「B区東壁」	調査区（中央部から西部）の東壁。台地部を形成する土層を分析。
「B区北壁トレンチ（東部・西部）」	同じく北壁（第IV章、Fig.7）。埋没谷部の土層を分析。「東部」は埋没谷の斜面部。「西部」は埋没谷の底部。
「B区北壁セクション南（西壁）」	第4面で検出された窪み状地形の西側の傾斜部分（西壁）。埋没谷の下位部分の土層を分析。

前橋市、総社閑泉明神北V遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 土層とテフラ

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになってきている。

そこで、層位や年代が不明な土層や遺構が検出された総社閑泉明神北V遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、B区東壁、B区北壁トレンチ東部、B区北壁セクション南（西壁）、B区北壁トレンチ西部の4地点である。

2. 土層層序

(1) B区東壁

台地部に位置するB区東壁では、下位より桃灰色シルト層

（層厚20cm以上）、灰色シルト層（層厚9cm）、成層したテフラ層（層厚26cm）、黄色砂層（層厚9cm）、灰褐色砂質土（層厚11cm）、黒灰褐色泥層（層厚7cm）、灰白色軽石層（層厚5cm、軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径2mm）、黒褐色泥層（層厚2cm）、灰色シルト層（層厚1cm）、暗灰褐色泥層（層厚0.3cm）、灰白色砂層（層厚1cm）、暗褐色泥層（層厚6cm）、黒褐色泥層（層厚2cm）、灰色シルト層（層厚16cm）、黒泥層（層厚0.8cm）、平行層理が発達した灰色砂泥互層（層厚6cm）、白色シルト層（層厚0.7cm）、黒泥層（層厚0.4cm）、平行層理が発達した灰色砂層（層厚7cm）、黄白色シルト層（層厚0.6cm）、平行層理が発達した灰色砂層（層厚2cm）、灰色砂質土（層厚1cm）、平行層理が発達した灰色砂層（層厚12cm）、灰色砂質土（層厚7cm）、黄白色砂質シルト層（層厚2cm）、黒灰色泥層（層厚13cm）、黄灰色シルト層（層厚8cm）、灰色砂層（層厚8cm以上）が認められる（Fig.11①）。

これらの土層のうち、成層したテフラ層は、下位より黄白色軽石層（層厚19cm、軽石の最大径18mm、石質岩片の最大径3mm）、成層した黄桃色粗粒火山灰層（層厚3cm）、黄色砂質細粒火山灰層（層厚2cm）、桃色粗粒火山灰層（層厚2cm）である。このテフラ層は、その層相から約1.3~1.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP、新井、

1962, 町田・新井, 1992) に同定される。またその上位の灰白色軽石層は、層相から約1.1万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間総社軽石 (As-Sj, 早田, 1990, 1996) に同定される。なおAs-Sjの上位に黒褐色泥層を挟んで堆積する厚い砂質堆積物については、総社砂層 (早田, 1990) に相当する。

(2) B区北壁トレンチ東部

埋没谷の斜面部に位置するB区北壁トレンチ東部では、下位より灰色土 (層厚10cm以上)、暗灰色土 (層厚10cm)、黄灰色軽石層 (層厚6cm, 軽石の最大径6mm, 石質岩片の最大径2mm)、灰白色軽石や砂を含む黒灰色土 (層厚36cm, 軽石の最大径8mm)、成層したテフラ層 (層厚10.6cm)、白色軽石混じり灰色砂質泥流堆積物 (層厚52cm, 軽石の最大径72mm)、桃灰色シルト層 (層厚2cm)、灰色石質岩片が目立つ灰色砂質泥流堆積物 (層厚29cm, 石質岩片の最大径27mm)、層理が発達した灰色砂層 (層厚43cm)、黒灰色土 (層厚2cm)、灰白色砂層 (層厚4cm)、わずかに灰色がかかった褐色土 (層厚25cm) が認められる (Fig.11②)。

これらのうち黄灰色軽石層は、層相から4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石 (As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000) に同定される。また成層したテフラ層は、下位より灰色がかかった桃色の細粒火山灰層 (層厚2cm)、灰色砂質細粒火山灰層 (層厚2cm)、白色軽石混じり灰色粗粒火山灰層 (層厚0.6cm, 軽石の最大径5mm)、成層した黄灰色砂質細粒火山灰層 (層厚2cm)、淘汰の良い灰色粗粒火山灰層 (層厚4cm) からなる。このテフラ層は、層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ (Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992) に同定される。谷底部では、このHr-FAの直下から小区画水田遺構が検出されている。また、Hr-FAより上位に認められる泥流堆積物については、層相や層位などからHr-FAの噴火に伴って発生した火山泥流堆積物 (早田, 1989) と考えられる。

(3) B区北壁セクション南 (西壁)

埋没谷の谷底部の中でも微高地に位置するB区北壁セクション南 (西壁) では、下位より暗灰色砂質土 (層厚4cm以上)、黒灰色砂質土 (層厚1cm)、黄白色軽石層 (層厚8cm, 軽石の最大径7mm, 石質岩片の最大径2mm)、黒灰色泥層 (層厚8cm)、黒泥層 (層厚0.8cm)、白色粗粒火山灰編年学を多く含む黒灰色泥層 (層厚0.8cm)、黒泥層 (層厚1cm)、灰色泥層 (層厚10cm)、暗灰色泥層 (層厚8cm)、白色砂の薄層を多

く挟む暗灰色泥層 (層厚18cm)、Hr-FAの連続が認められる (Fig.11③)。

(4) B区北壁トレンチ西部

埋没谷の谷底部に位置するB区北壁トレンチ西部では、下位より黒灰色泥層 (層厚5cm以上)、白色粗粒火山灰層 (層厚0.4cm)、黒泥層 (層厚0.8cm)、灰色泥層 (層厚5cm以上) が認められた (Fig.11④)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

B区北壁セクション南 (西壁) およびB区北壁トレンチ西部において認められたテフラ層や土層から採取された4試料を対象として、テフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果をTab.37に示す。B区北壁トレンチ西部の試料3の軽石層には、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石 (最大径6.8mm) がとくに多く含まれている。軽石の斑晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。火山ガラスとしては、この軽石の細粒物である軽石型ガラスが認められる。試料2には、スポンジ状に発泡した細粒の白色軽石 (最大径1.0mm) が含まれている。斑晶には角閃石が認められる。火山ガラスについても、この軽石に由来するものが多い。試料1には、軽石や火山ガラスは認められなかった。

B区北壁トレンチ西部の試料1の火山灰層には、スポンジ状に発泡した細粒の白色軽石 (最大径1.0mm) が含まれている。斑晶には角閃石が認められる。火山ガラスについても、この軽石に由来するものが多い。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

B区北壁トレンチ西部の白色粗粒火山灰層 (試料1) に含まれる角閃石について、温度変化型屈折率測定装置 (RIMS) により、屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

角閃石の屈折率 (n_g) は、1.676-1.683である。

5. 考察

B区北壁トレンチ西部の試料3の軽石層は、層相や含まれる軽石の特徴などからAs-Cに同定される。また試料1に含まれるテフラ粒子については、層位やテフラ粒子の特徴から、B区北壁トレンチ西部の試料1の火山灰層に由来すると考えられる。このテフラ層については、層位、層相、さらに角閃石が含まれることから、5世紀に榛名火山から噴出したと考えられている榛名有馬火山灰(Hr-AA, 町田ほか, 1984)に同定される。なお、角閃石の屈折率については、従来記載されているHr-AAに含まれる角閃石の屈折率(n_s : 1.671-1.677)と比較すると若干高めにしている。角閃石について、従来テフラの特徴記載の基準の一つとされてきた故新井房夫群馬大学名誉教授により開発された温度一定型屈折率測定法と、今回行った温度変化型屈折率測定法で、厳密にみると屈折率が系統的に若干ずれるという指摘もある(町田 洋東京都立大学名誉教授談話)。この理由の解明については、火山灰編年学編年学の今後の課題の一つとなる。

6. 小結

総社閑泉明神北V遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前*)、浅間総社軽石(As-Sj, 約1.1万年前*)、浅間C軽石(4世紀初頭)、榛名有馬火山灰(Hr-AA, 5世紀)、榛名ニツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)などの指標テフラ層、さらに総社砂層やHr-FAの噴火に伴う火山泥流堆積物などを検出することができた。本遺跡において検出された小区画水田については、Hr-FA直下に層位があると考えられる。

*1 放射性炭素(^{14}C)年代。

文献

新井房夫(1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p. 1-79.

新井房夫(1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no. 157, p. 41-52.

荒牧重雄(1968) 浅間火山の地質. 地団研専報, no. 45, 65 p.

町田 洋・新井房夫(1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276 p.

町田 洋・新井房夫(2003) 新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336 p.

町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ—. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p. 865-928.

坂口 一(1986) 榛名ニツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p. 103-119.

早田 勉(1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p. 297-312.

早田 勉(1990) 群馬県の自然と風土. 群馬県史通史編, 1, p. 37-129.

早田 勉(1996) 関東地方~東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p. 256-267.

友廣哲也(1988) 古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p. 325-336.

若狭 徹(2000) 群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p. 41-43.

Tab.37 総社閑泉明神北V遺跡B区テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
B区北壁セクション南(西壁)	1	-	-	-	-	-	-
	2	++	白	1.0	++	pm	白
	3	+++	灰白	6.8	++	pm	灰白
B区北壁トレンチ西部	1	++	白	1.0	++	pm	白

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm. bw: バブル型, pm: 軽石型.

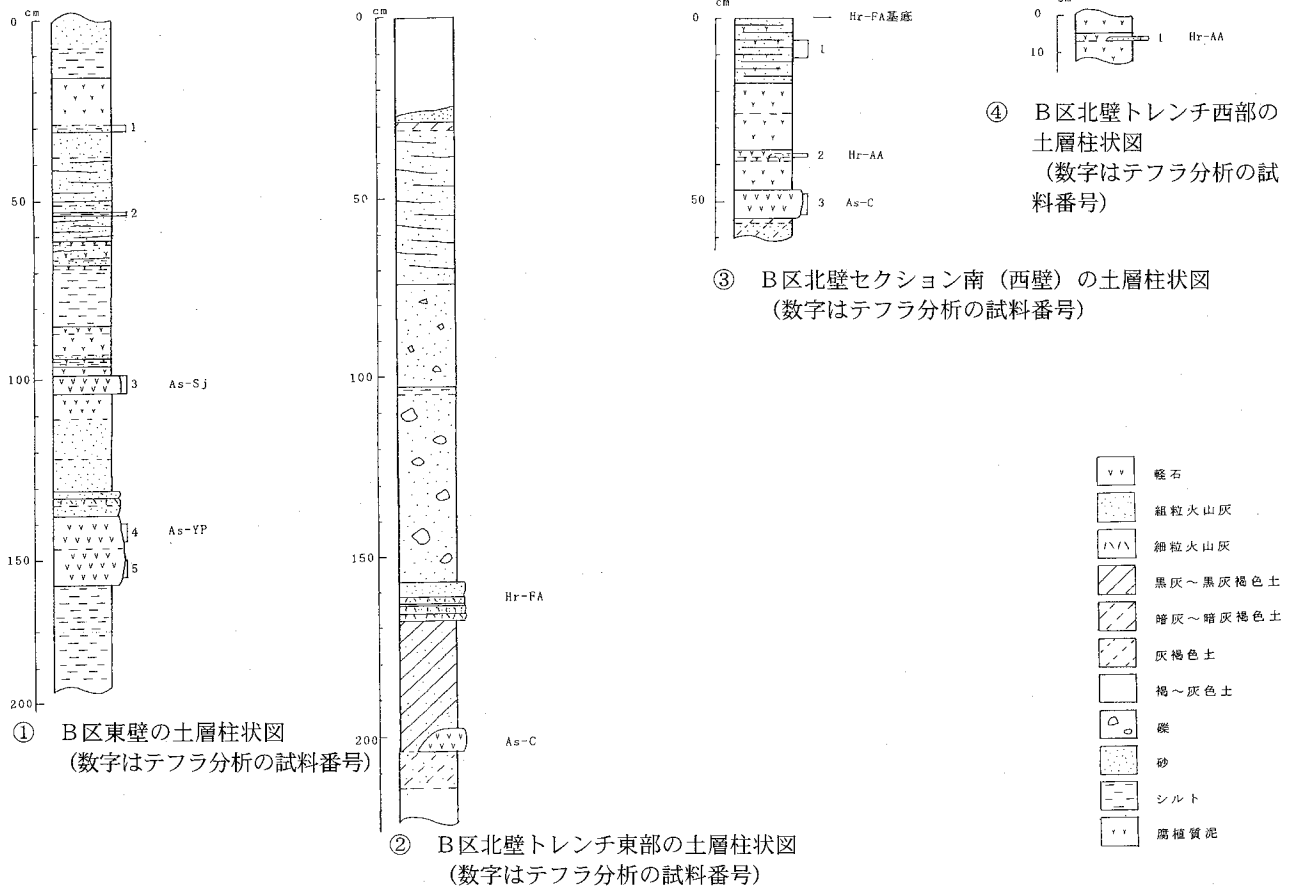


Fig.11 総社閑泉明神北V遺跡B区土層柱状図

II. 植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO₂) が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山, 1984)。

2. 試料

分析試料は、B区北壁トレンチ東部、B区北壁セクション南 (西壁)、B区北壁トレンチ西部の3地点から採取された計13点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g

添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)

- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10⁻⁵g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、メダケ節は

1. 16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果をTab.38およびFig.12に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（クマザサ属チシマザサ節・チマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（クマザサ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、地下茎部起源、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、はめ絵パズル状（ブナ科ブナ属など）、多角形板状（ブナ科コナラ属など）、その他

5. 考察

(1) 稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) B区北壁トレンチ東部 (Fig.12①)

Hr-FA直下層（試料1～3）について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。密度は1,500～2,200個/gと比較的低い値であるが、同層は直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、および採取地点が畦畔など耕作面以外であったことなどが考えられる。

2) B区北壁セクション南 (Fig.12②)

Hr-FAの下層（試料1）からAs-Cの下層（試料7）までの層準について分析を行った。その結果、Hr-AAの直上層（試料3）と直下層（試料4）からイネが検出された。密度は4,800個/gおよび4,400個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

3) B区北壁トレンチ西部 (Fig.12③)

Hr-AAの上層（試料1）からHr-AA直下層（試料3）までの層準について分析を行った。その結果、Hr-AA直上層（試料2）とHr-AA直下層（試料3）からイネが検出された。このうち、Hr-AA直下層（試料3）では密度が3,000個/gと比較的高い値である。したがって、同層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Hr-AA直上層（試料2）では、密度が2,200個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものも含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

(3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

Hr-FA直下層では、上記の分類群以外にもヨシ属が多く検出され、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型、およびブナ属やコナラ属などの樹木起源も検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある（杉山，1999）。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく、落葉

樹では形成されないものも多い。おもな分類群の推定生産量によると、ヨシ属が優勢となっていることが分かる。Hr-AAの上下層でもおおむね同様の結果である。

これらのことから、Hr-FA直下層およびHr-AAの上下層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、水田雑草としてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたことなども想定される。当時の調査区周辺ではススキ属やチガヤ属、ネザサ節などが生育する草原的なところも見られ、遺跡周辺にはブナ属やコナラ属などの樹木（落葉広葉樹）が分布していたと推定される。

6. まとめ

植物珪酸体（プラント・オパール）分析の結果、水田遺構が検出された榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）直下層からはイネが検出され、同遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、榛名有馬火山灰（Hr-AA、5世紀）の上下層でも、稲作が行われていた可能性が認められた。

各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環

境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺ではススキ属やチガヤ属、ネザサ節などが生育する草原的なところも見られ、遺跡周辺にはブナ属やコナラ属などの樹木（落葉広葉樹）が分布していたと推定される。

文 献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体、富士竹類植物園報告、第31号、p.70-83.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—、考古学と自然科学、20、p.81-92.

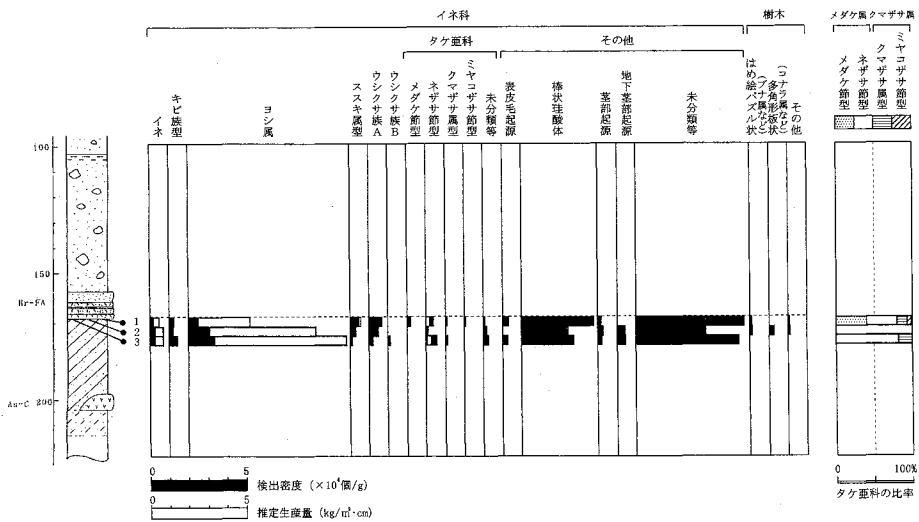
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9、p.15-29.

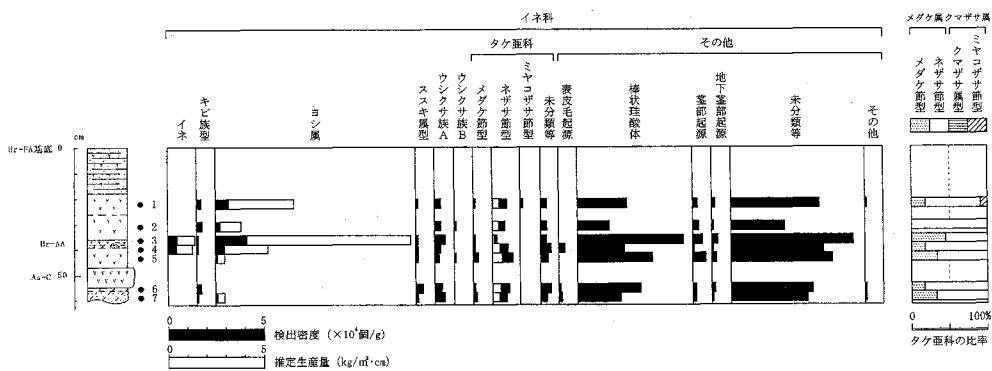
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—、考古学と自然科学、17、p.73-85.

Tab.38 総社閑泉明神北V遺跡B区植物珪酸体分析結果

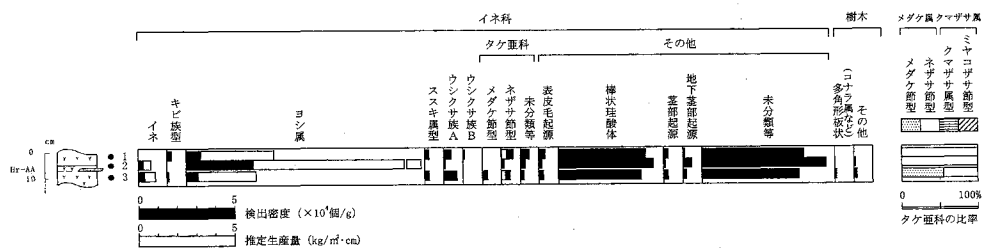
検出密度 (単位: ×100個/g)		地点・試料												
分類群	学名	B区北壁トレンザ東部			B区北壁セクション南 (西壁)				B区北壁トレンザ西部					
		1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3
イネ科														
	Gramineae (Grasses)													
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	15	22	22			48	44					22	30
モヒ族型	Panicaceae type	22	14	37	22	29	7	7	22	7			22	7
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	52	108	134	66	21	165	44	7			7	74	355
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	44	22	7	7	7	7	7	29	7			15	15
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	66	43	15	29	29	55	29	22	36	52	37	7	67
ウシクサ族B	Andropogoneae B type			7			7		7					7
タケ亜科														
	Bambusoideae (Bamboo)													
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>	15			7		7	7	22	7	15			22
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	37	7	52	73	64	21	81	105	87	74	59	14	44
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakoasasa</i>)	7		7										
ミヤコザサ属型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakoasasa</i>	7					15							
未分類等	Others	7	14	22	29	29	28	52	37	51	30	44	22	15
その他のイネ科														
	Others													
表皮毛起源	Husk hair origin	29		22			29		7	15		30	14	22
棒状珪酸体	Rod-shaped	376	238	268	256	164	551	243	389	326	223	452	493	429
茎部起源	Stem origin	15	22	15	22	29	48	7	67	15	15	22	7	22
地下茎部起源	Underground stem origin	36	37	15	7	28	7	22	15	7	7	7	43	15
未分類等	Others	567	361	536	461	279	640	486	531	428	402	533	652	510
樹木起源														
	Arboreal													
はめ紋パズル状(ブナ属など)	Jigsaw puzzle shaped (<i>Fagus</i> etc.)	7	7											7
多角形板状(コナラ属など)	Polygonal plate shaped (<i>Quercus</i>)			22										15
その他	Others	7	7		7					7	7			15
植物珪酸体総数	Total	1274	924	1183	1011	668	1605	1047	1219	1030	864	1304	1638	1279
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² -cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出														
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.43	0.64	0.66			1.42	1.30					0.64	0.87
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	3.26	6.84	8.45	4.16	1.35	10.43	2.79	0.47	0.09	0.09	0.36	0.09	3.73
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.55	0.27	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.18	0.18	0.18
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>	0.17			0.08		0.08	0.09	0.26	0.08	0.17			0.26
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	0.18	0.03	0.25	0.35	0.31	0.10	0.39	0.50	0.42	0.36	0.28	0.07	0.21
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakoasasa</i>)	0.06		0.06										
ミヤコザサ属型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakoasasa</i>	0.02			0.04									
タケ亜科の比率 (%)														
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>	40			18		45	18	34	17	33			55
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	42	100	82	73	100	55	82	66	83	67	100	100	45
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakoasasa</i>)	13		18										
ミヤコザサ属型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakoasasa</i>	5			9									



① 総社閑泉明神北V遺跡B区北壁トレンチ東部における植物珪酸体分析結果

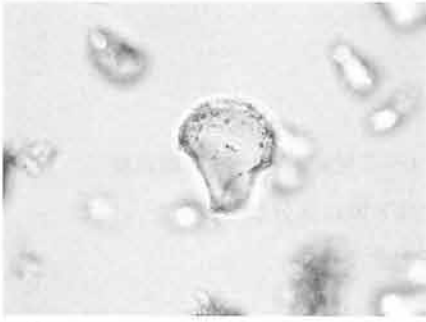


② 総社閑泉明神北V遺跡B区北壁セクション南における植物珪酸体分析結果

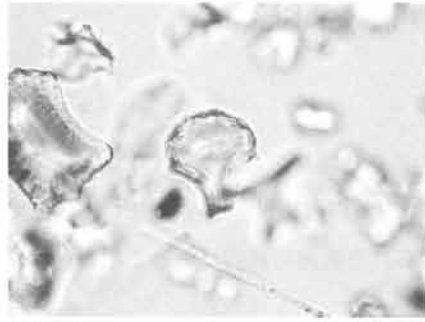


③ 総社閑泉明神北V遺跡B区北壁トレンチ西部における植物珪酸体分析結果

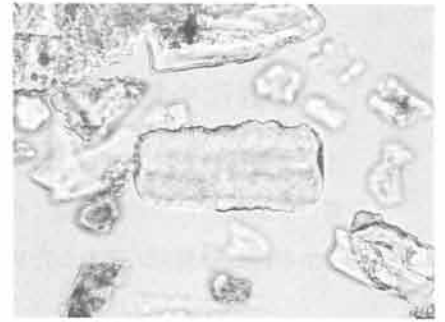
Fig.12 総社閑泉明神北V遺跡B区植物珪酸体分析結果



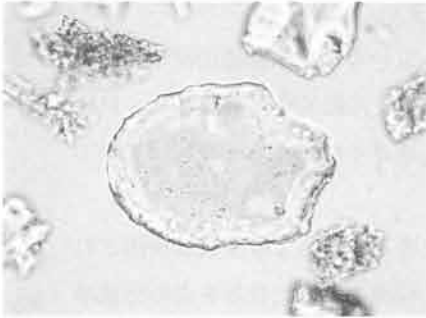
イネ
B区北壁トレンチ東部 3



イネ
B区北壁トレンチ西部 2



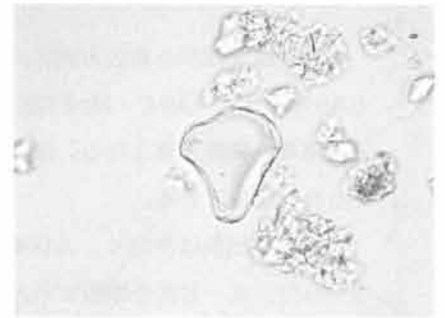
キビ族型
B区北壁セクション南 1



ヨシ属
B区北壁トレンチ東部 2



ヨシ属
B区北壁トレンチ西部 2



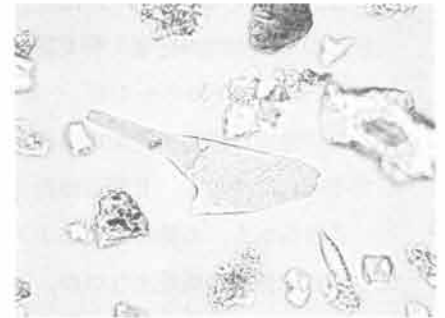
ススキ属型
B区北壁セクション南 5



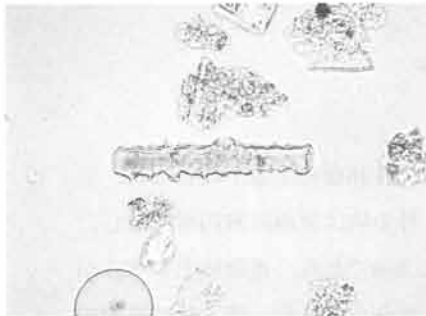
ウシクサ族B
B区北壁トレンチ東部 3



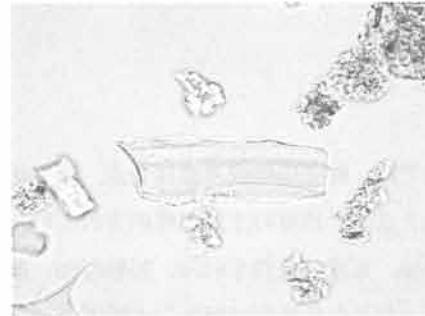
ネザサ節型
B区北壁セクション南 7



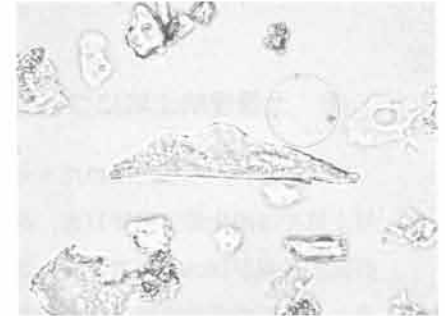
表皮毛起源
B区北壁トレンチ西部 3



棒状珪酸体
B区北壁トレンチ東部 2



イネ科の茎部起源
B区北壁トレンチ東部 2



イネ科の地下茎部起源
B区北壁セクション南 5

写真 植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

50 μm

VII まとめ

1 元総社小見内IX遺跡

ここで使われる時期区分は、元総社蒼海遺跡群での従来の分類に従い、Ⅰ期（～7世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（7世紀から10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半から：律令期以後）の3期に区分した。また、幅6～8mの細長い調査区であるため、限られた範囲の検討になることを付け加えておきたい。

(1) 集落の変遷について

本遺跡は北西から東西方向にA・B区、南北方向にB・C・D・E区と展開している。遺構確認面は現耕作土とAs-B混土下のAs-C・Hr-FS混土で、地山はA区西半分およびE区ではローム層、A区X80以東及びB～D区では黒褐色粘質土層となる。標高差はそれほどないが、旧地形はA区西部及びE区がやや高くB～D区は低地であったと想像できる。

住居の検出数は少なく、A区では7軒、B区は14軒、C・E区は1軒ずつの検出で、D区では住居は検出されなかった。A～E区を概観すると、A区では東部ほど住居が希薄となり、B区では南西部ほど住居を含めた遺構自体の検出が希薄になる傾向が窺える。また、各区を通し全体的に住居分布は散在的であり、重複もそれほど多くはない。時代的には8世紀代のものが4軒、10世紀～11世紀にかけてのものが13軒で多数を占める。(Fig.13) 住居の主軸方向は南竈1軒を除くと、8世紀代のものがN-65°-E～N-88°-E、10世紀～11世紀代のものがN-76°-E～N-116°-Eの間である。

この地点は推定上野国府の北西周辺部に位置すると考えられる。本遺跡で検出された住居跡はⅠ・Ⅱ期に該当するものは少なく、Ⅱ期の終わりからⅢ期が多い。

これらから、本遺跡周辺はⅠ・Ⅱ期には居住地ではなくⅢ期以降に居住地となったと推察される。その理由については推測の域を出ないが、国府機能時期での土地利用における何らかの規制の存在が想定できる。道路幅での調査のため、全容をつかむのは容易ではないが、国府域全域及び周辺部の解明には、今後の調査結果に期待したい。

(2) 土器埋納土坑について

本遺跡A区から検出された1号土坑では、酸化焙焼成須恵坏42点、高台椀14点、計56点の土器が埋納され、2号土坑では酸化須恵坏11点、高台椀2点、計13点の土器が埋納されていた。1号土坑は東西に双円形をなし、西部の長軸が76cm、短軸74cm、深さ12cm、東部の長軸が64cm、短軸53cm、深さ11.5cmである。遺物検出レベルが異なることや遺物検出数に差があることなどから当初は別々の土坑であったとも考えられるが、埋土及び遺物の時期が近接することから、ここでは一つの遺構として考える。2号土坑は長軸51cm、短軸46cm、深さ19cmである。

土器は数枚重なったり、交互に組合わさったりした状態で検出された。また、土器の配置に規則性は認められなかった。(Fig.14) 破損しているものもあったが完形のものも多く、故意に壊された形跡は窺えなかった。器形の特徴などから1号土坑は10世紀後半～11世紀初頭、2号土坑は10世紀後半～末の所産と考えられる。

1号土坑西部検出の酸化焙焼成須恵坏（いずれも底部は回転糸切り未調整）は、①口径と底径の差が大きく、外傾した体部から口縁部に至るもの ②口径と底径の差が小さく、底部内面中央が突出し、丸みを帯びた体下部

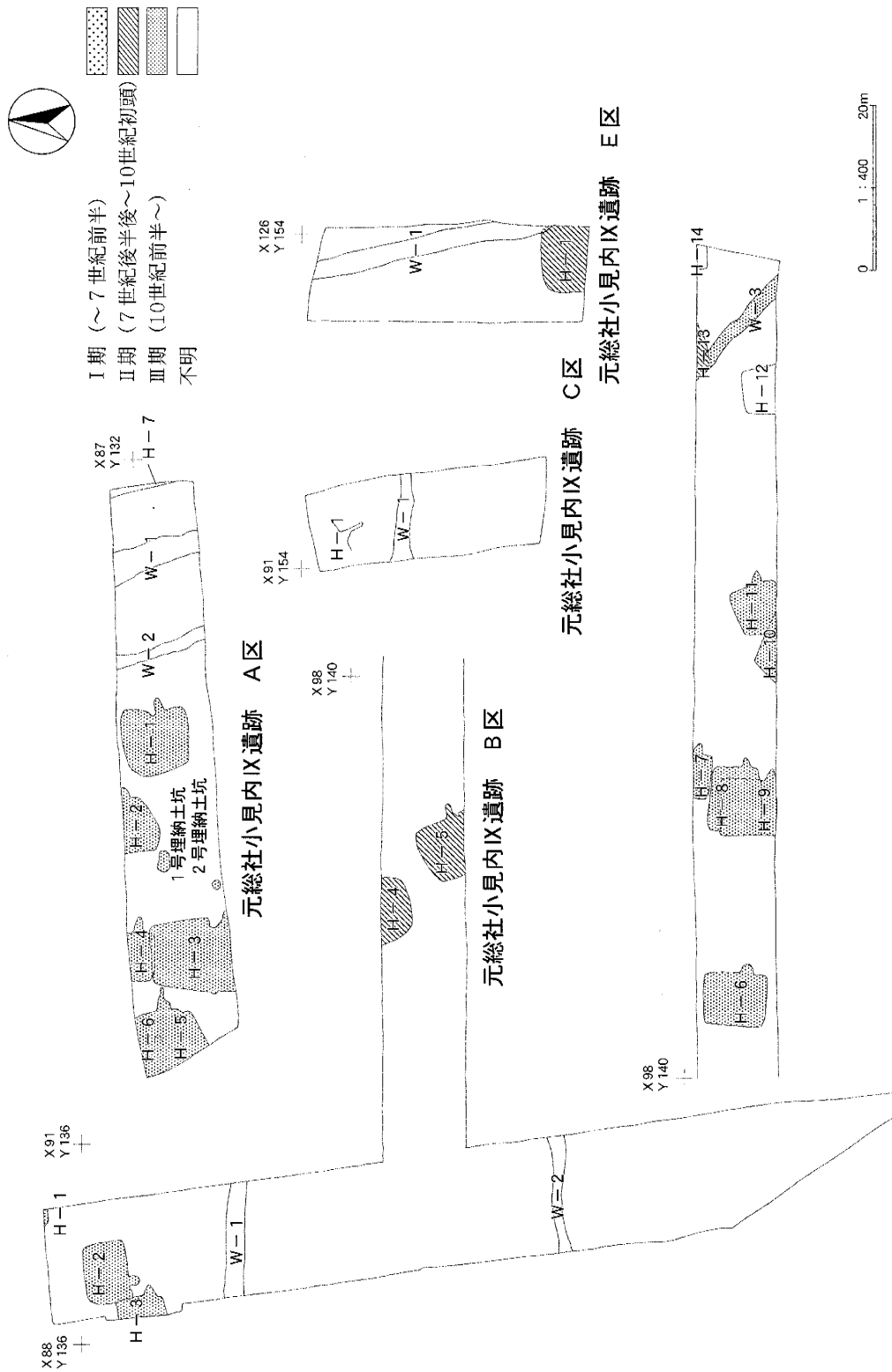


Fig.13 時期別の竪穴住居跡配置図

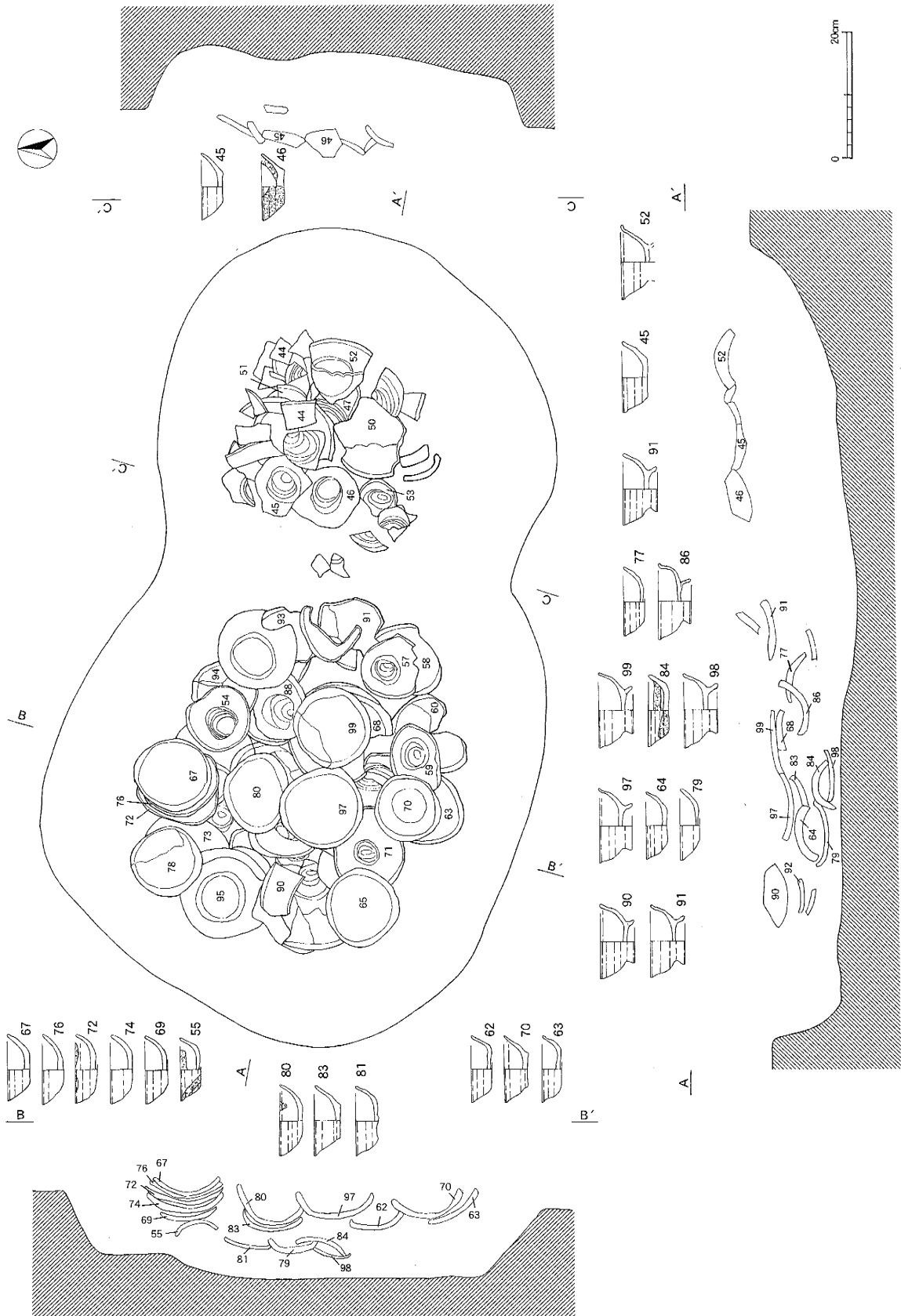


Fig.14 元総社小見内区遺跡A区 1号土器埋納土坑 遺物検出状況

から口縁に至り、口縁端部をやや外反するもの、③器全体が赤褐色で底部を厚くし外傾した体部から口縁部に至り口縁端部外反するものの3タイプに分類できる。

県内での類似遺構の検出例は、本遺跡の東南約1km、推定国府域の東辺にあたる前橋市元総社町屋敷Ⅱ遺跡D-9号土坑がある。この土坑からはカワラケ（底部糸切り）28個、高台椀11個が検出されている。遺物の年代は10世紀代で、カワラケの器形は2分類できるなど、本遺構と多くの共通点を見出せる。また、前橋市荒子町柳久保遺跡群平安水田址からは5枚重ねの土師器坏が検出されている。この遺跡からは墨画土器や獣骨などが出土し、平安時代の農耕祭祀遺構であるとされている。墨画土器について奈良大学の水野正好氏は、豊作祈願の鬼神騎馬の図であると述べている。さらに、佐波郡境町矢ノ原遺跡灌漑水路検出の祭祀遺構があり、こちらは破片を含めた須恵器坏が溝と溝の堰状遺構から検出されている。

県外の例としては兵庫県上石遺跡から検出されたSK01号土坑が挙げられる。この遺構からは底部糸切りの土師質坏の他、墨書のある底部篋切りの坏、そして礫が検出されている。この遺構は掘立柱建物跡の中央に位置し、9世紀後半の所産とされ、その性格は地鎮であるとされている。また、栃木県下野国府跡および国分寺跡からは範囲を区画する溝から多数の粗製土器が検出されている。さらに、長野県石川条里遺跡平安水田址からも10枚重ねの須恵器坏が検出されている。県外の3例については遠距離ではあるものの、多数の土器を埋納するという点は類似している。そしてこれらの遺構の性格については、いずれも祭祀遺構であるとされており、本遺跡の埋納土坑の性格を考える上で、貴重な例といえる。

これらの出土例を参考に本遺跡の1号・2号土坑について検討してみる。一カ所から多量に検出された出土土器がこのように数タイプに分けられ、胎土及び成形技法が共通するという事は、これらの土器が目的をもって焼成され、一括して埋納されたことを示すのではないかと考えられる。出土土器には墨書こそ確認できなかったが、底部に何らかの記号を篋書きするものも1点確認されている。(Tab.18A区土器観察表No.98)さらに、前述の通り使用痕を残すものも確認された。(Tab.18No.73・80・86・87・106)煤の付着状況は僅かで、継続して使用したというよりは、一時的な使用、すなわち使い捨てであったと考えられる。以上を総合すると、本遺構は祭祀遺構としての性格が濃厚と思われる。

本遺構周辺は地形的には低地に位置し、現在も水はけが悪く当時は湿地帯であったと考えられる。本遺構の東約12mの地点には南北方向に走行する2本の溝が検出されている。出土遺物が少なく溝の時期は特定できないが、6世紀半ばから12世紀初頭にかけて使用されたと考えられる。この溝が当時の流水路であったとすれば、近くに湧水源があったと考えられ、当時の人々が水の枯渇をおそれ、祭祀の場としたとも考えられる。類似例として挙げた屋敷Ⅱ遺跡からは溝は検出されていないが、地形的には傾斜地であり調査区外に溝のあった可能性も考えられる。しかし、旧地形は湿地帯であったとは思わず、水辺の祭祀としての性格付けにはさらなる検討が必要である。本遺構周辺には水田は検出されていないが前橋台地上という環境の中で水に対する祭祀が行われた可能性を指摘しておきたい。

土器の型式から1号よりも2号土坑の方が時期的に先行することは先述の通りであるが、このように極めて狭い範囲内で複数の土器埋納土坑が検出されるということは、周辺一帯がある程度継続した期間、祭祀的空間として機能していたことを示すのではないだろうか。本遺跡A区の西に隣接する平成14年度調査の元総社小見内Ⅳ遺跡からは南に渡りを有し周溝に獣骨を埋め、台部に柱穴18個を検出した周溝状遺構や多数のカワラケを埋納した土坑など祭祀的遺構が検出されている。時期的には11世紀中葉以降と本遺跡より後のものとなるが、これらの事例もその根拠になりうると思われる。

屋上屋を架す状態で本遺構の性格について様々な可能性を検討したが、何らかの祭祀遺構であること以外にその真の用途を明らかにすることは難しい。しかし、今回の調査で検出された遺構分布を通して、僅かではあるが国府衰退後のこの地域における土地利用の特性をつかむ端緒が得られた意義は大きい。

2 総社閑泉明神北V遺跡

(1) B区の水田跡等について

総社閑泉明神北V遺跡B区の西部から中央部では、谷地部を埋めるテフラ層などを手がかりに合計4面から水田跡やその他の遺構を検出した。ここでは水田跡を中心に、古墳時代に該当する第2～4面の各遺構についてまとめる。調査時の安全対策などの理由により、各面ともごく限られた範囲での遺構検出となったため、牛池川沿いの近隣遺跡の事例を手がかりとして考えることにする。なお、自然科学分析（テフラ分析・植物珪酸体分析）の結果については、VI章を参照されたい。

まず、最下面である第4面の窪み状地形は、4世紀前半～中葉に降下したAs-Cに被覆されていた。近隣の遺跡で同じくAs-C直下から検出された遺構としては総社閑泉明神北遺跡の畠跡、元総社寺田遺跡や元総社明神遺跡の水田跡等がある。しかしこの窪み状地形の形状は水田・畠区画とは判断しがたいものであり、さらに遺構直上に自然木が多数堆積していることやAs-C上位に約80cmの層厚で複数の洪水層が互層堆積していること（第IV章VI層、fig.7）により自然地形と判断した。また植物珪酸体分析の結果からも水田耕作は否定された。

しかし、同じくテフラ分析や植物珪酸体分析により、As-Cより約10cm上位、上記の複数の洪水層内からは5世紀に降下したHr-AA（榛名有馬火山灰）が検出され、その直上層、直下層では稲作が行われていたことが判明した。

これらのことから、本調査区の谷地部ではAs-Cが堆積した4世紀初頭～中葉からHr-AAが堆積した5世紀の範囲内で水田化されたことになる。これは、前出の三つの遺跡内の耕作地化よりも遅れた時期となる。崖線部付近であるために水田の造成や経営が困難であるなどの理由があるのだろうか。なお、本遺跡の北約500mに位置する総社北川遺跡では、耕土にAs-Cを含むもの、即ちAs-C降下後に耕作が行われたものが最も古い水田跡となっている。同遺跡ではAs-C直下層からの水田跡等の検出がないため、水田化の時期は4世紀初頭～中葉以降と考えられている。牛池川の周辺が水田化された時期については今後の検討課題となろう。

一方、As-CやHr-AAより上位の第3面で検出された1号溝についても、本調査区内が水田化された5世紀以降のものとなる。この溝は東西方向の高さでは最上位にあたる崖線部直下に南北走していることも加味し、水田に伴う用水路であった可能性も考えられる。

そして1号溝廃絶後にHr-FA下水田（第2面）が造成される訳である。この水田跡は小区画水田の形態であるが、

- ①東西・南北方向に区画されている。
- ②1～3号区画の畦畔は特に不明瞭で、2号区画を中心に多くの足跡が残存する。
- ③東側の谷地の斜面付近約70cm幅の部分には畦畔が設けられていない。

という特徴が観察できた。

このうち①については、地形の傾斜に合わせたものと考えてよい。近接する総社閑泉明神北遺跡や元総社明神遺跡Ⅷ（Yトレンチ一部）のHr-FA下水田にも同様な方向性を持つ小区画が見られることから、これらの水田跡との連続性が考えられる。

また②について、畦畔が不明瞭な理由としては、まずは榛名山の噴火で被災したことが考えられる。また一方で県内のHr-FA下水田の事例には、畦畔が風化しているような部分や未完成の部分、またヒトの足跡が残存する部分などが同時に確認されることも少なくないことを念頭に置く必要もあろう。これらは、収穫を終えしばらく放置されていた水田に田起しやアゼづくりなどを行い新たなる耕作の準備をしている途中の状態であり、季節でいえば初夏の時期のものとして推定されている。総社北川遺跡のHr-FA下水田でもこの状態が観察されているこ

とからも、本遺跡のHr-FA下水田も同様な状態にあった可能性も否定はできない。

③については、水田の東端の崖線部であることから、小区画を設けることのできない「余り」の部分と思われる。雨水や土砂が斜面づたいに流れ込んでくるために区画を設けなかったことも想像に難くない。また一方では、用水の配水や水量調整のために利用された可能性にも触れたい。小区画水田には、用水の配水や水量調節のために、小区画とより大きな区画を区切る大型畦畔（オオアゼ）との間に浅い水路や水路状の区画などを設けたものが見られる。本遺跡の場合はオオアゼを設けるまでもなく、自然の斜面を利用した区画を配水や水量調節に用いていたことも考えられる。さらには前述した1号溝がこの部分直下に位置することからも、崖線部直下が用水の関係に利用され続けたことも想像できよう。

なお、上記②、③についての考察は検出範囲が極めて狭いことから、あくまでも推測の域を出ないものである。そこで、各部分で植物珪酸体分析を行なった。②の部分から採取した試料は「B区北壁トレンチ東部・試料1」、

③の部分からの試料は「同・試料3」、両者の中間部で畦畔が比較的良好な部分からの試料は「同・試料2」の名称である（採取地点はFig.27参照）。分析の結果は上記の考察を裏付けるものではなかったが、Hr-AA直上・直下の時期も含め、湿地的な環境を利用して水田が営まれてきたことを示している。

このことから、水田での作業時の足跡は残存しやすいこと、また用水の配水や水量調整にも何らかの工夫がなされていたことは十分に考えられる。

そしてこの水田は、6世紀前半のHr-FAの降下や時間を置かずに流れ込んできた層厚150cmにも達する火砕流Hr-FPF1により被災、廃絶してしまうのである。

なお、Hr-FA下水田廃絶後のものとして確認できたのは近現代まで流水があったと思われる第1面の1号河川跡である。自然科学分析の結果も含め、Hr-FA下水田の廃絶後に本遺跡内に水田が復旧され耕作が継続したか否かについては確認できなかった。なお北川遺跡では6世紀中葉の榛名山Hr-FPの噴火に伴う火砕流Hr-FPF2で埋没した水田跡が検出されており、本遺跡内でも水田が継続していった可能性も否定できない。

以上、本調査区内では、4世紀から5世紀にかけて水田化され、湿地的な環境の中で複数回の洪水や火山災害に見舞われながらも耕作が営まれ続けてきたことがわかった。

牛池川周辺では、今後も古墳時代の水田・畠跡が検出される可能性が高い。上野国府が置かれた元総社蒼海地区の律令期以前の土地利用の様子、特に生産域を考える上で重要な資料となっており今後も検討が必要となろう。

〈引用参考文献〉

- 栃木県教育委員会編『下野国府跡Ⅰ』栃木県教育委員会 1979年
- 前橋市教育委員会編『元総社明神遺跡Ⅰ』前橋市教育委員会 1982年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域 3』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988～91年
- 前原豊・井上敏夫編『元総社明神遺跡Ⅷ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1990年
- 長野市立博物館編『第31回特別展 水・稲・祭り -発掘された古代の水田-』長野市立博物館 1992年
- 戸所慎策・吉田聖二編『屋敷Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1996年
- 坂爪久純「群馬県境町矢ノ原遺跡の灌漑用水における祭祀遺構」『情報 祭祀考古』第9号 1997年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998年
- 山武考古学研究所編『総社閑泉明神北遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999年
- 寺村光晴・早川泉・駒見和夫編『幻の国府を掘る-東国の歩みから-』雄山閣 1999年
- 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所編『上石遺跡』兵庫県教育委員会 2000年
- 麻生尚子「律令祭儀における粗製土器の祭具性について -下野を中心とした遺物の観察と予察-」
『祭祀考古学』第2号 2000年
- 山武考古学研究所編『元総社小見内Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 齊木一敏・高坂麻子編『元総社小見内Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編『元総社小見Ⅲ遺跡 元総社草作Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「現地説明会資料・元総社北川遺跡～火山災害に立ち向かった人々～」
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003年
- 近藤雅順・稲垣慎太郎編『元総社小見内Ⅵ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 近藤雅順・稲垣慎太郎編『元総社小見内Ⅶ遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
2003年
- 『季刊考古学 第87号』雄山閣 2004年
- 奈良県立柏原考古学研究所附属博物館編『水と祭祀の考古学』学生社 2005年

* 総社北川遺跡の水田跡に関しては、前掲の現場説明会資料の他にも、発掘調査担当の坂口一氏より直接ご教示をいただいた。ここに感謝の意を表します。

元総社小見内区遺跡A区

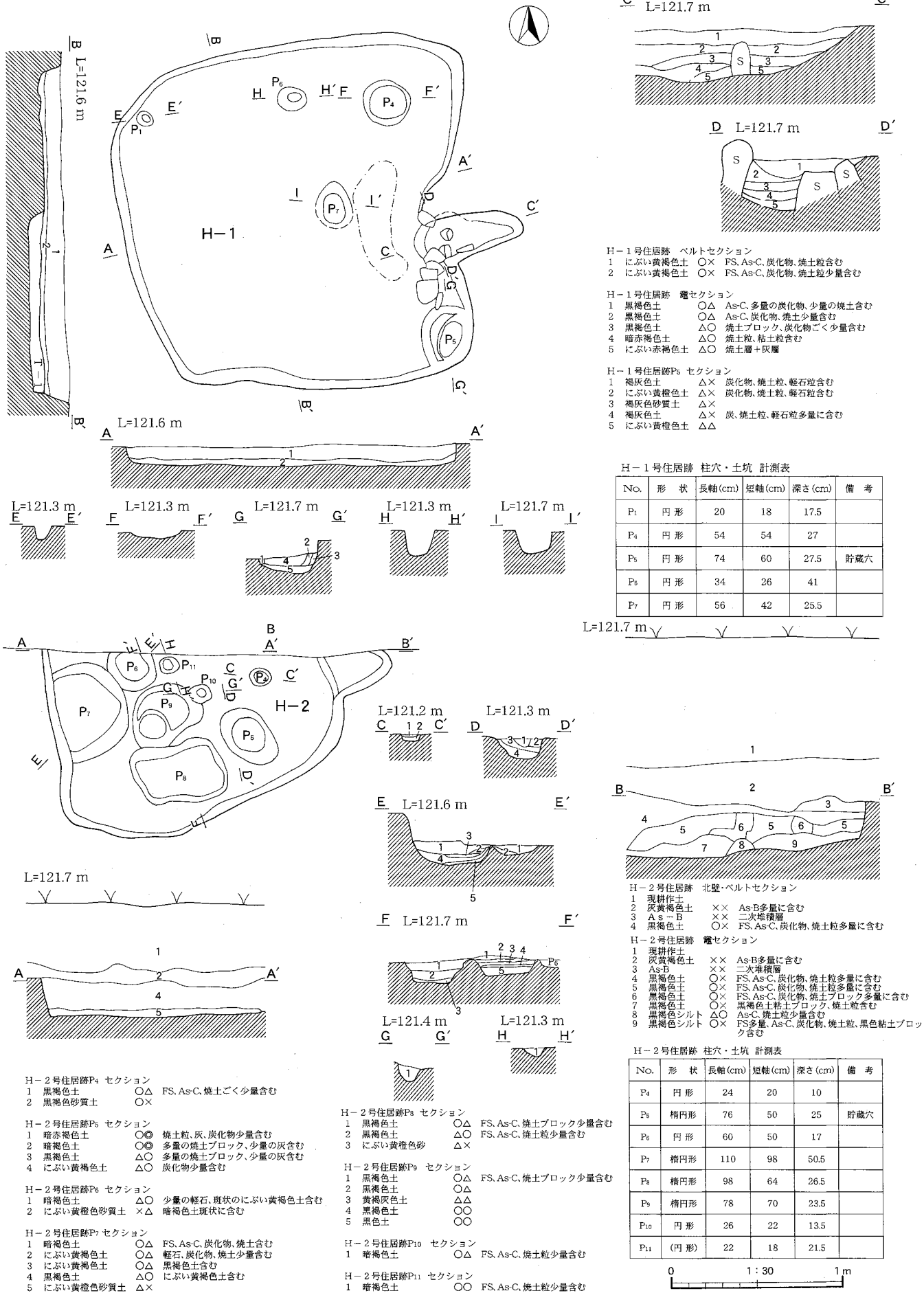


Fig.15 元総社小見内区遺跡A区H-1・2号住居跡

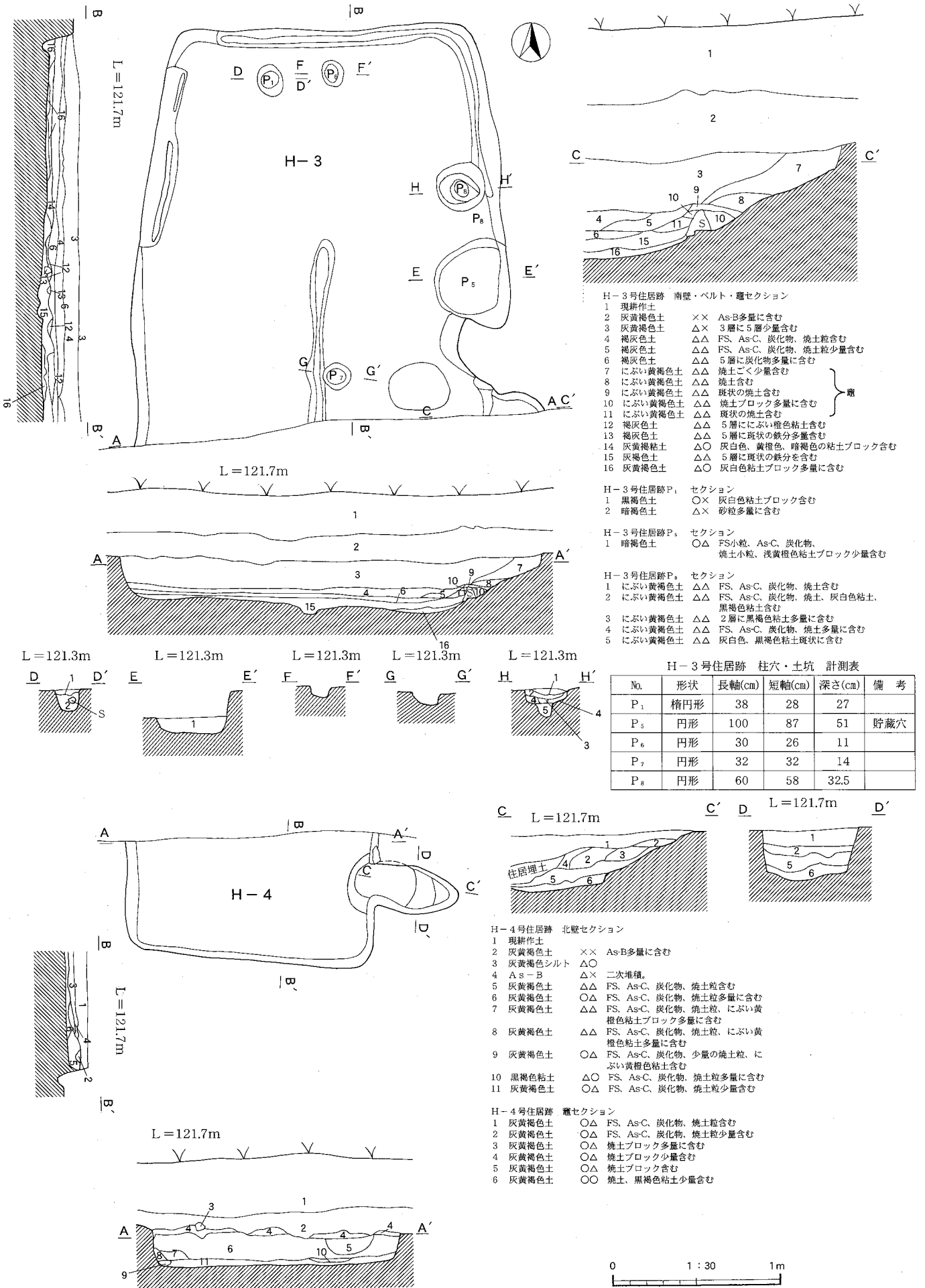


Fig.16 元総社小見内区遺跡A区H-3・4号住居跡

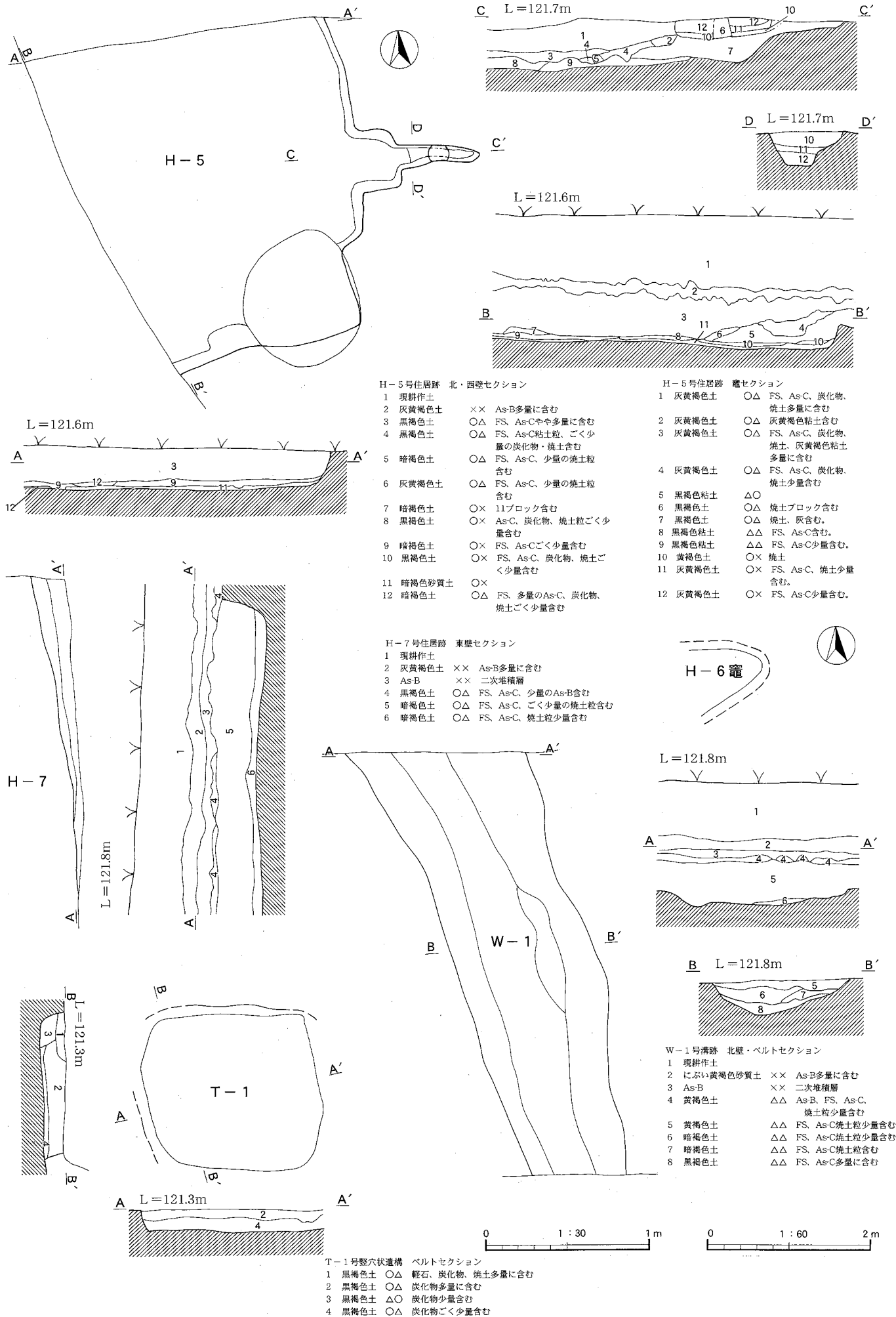
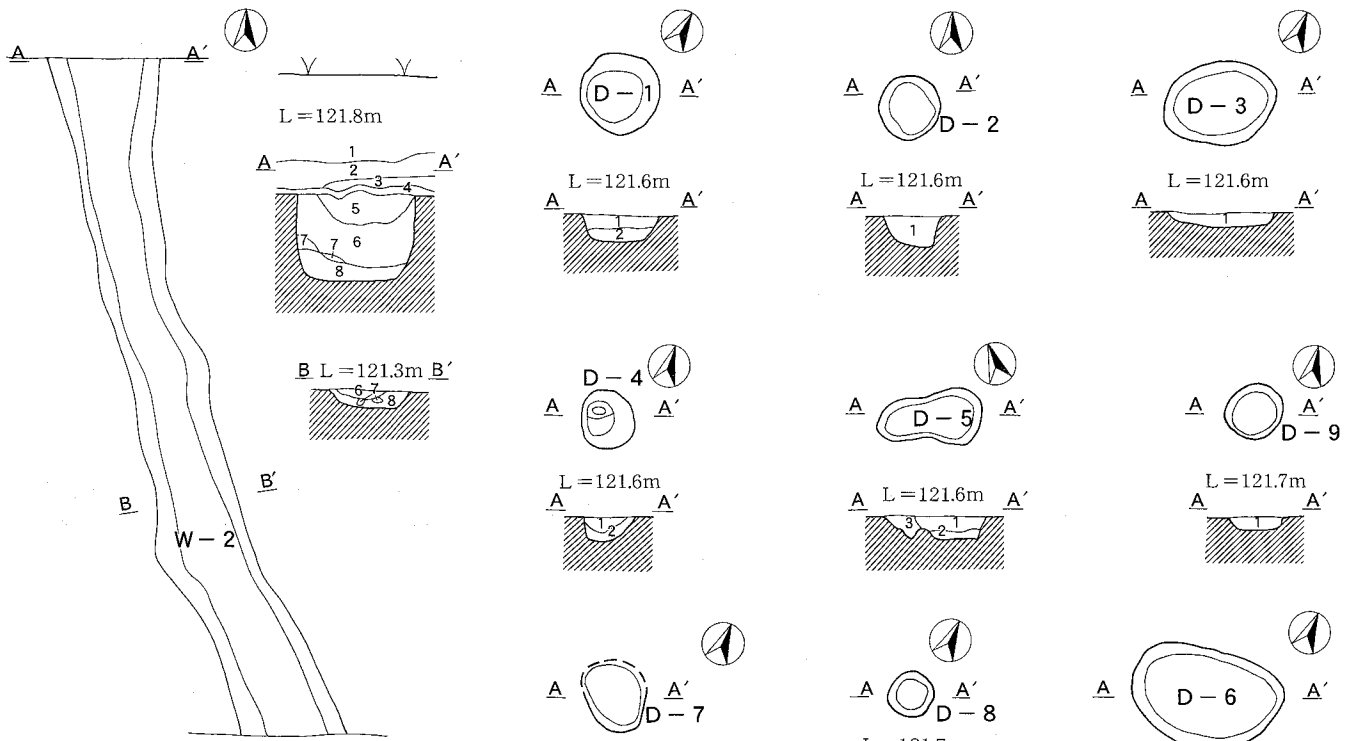
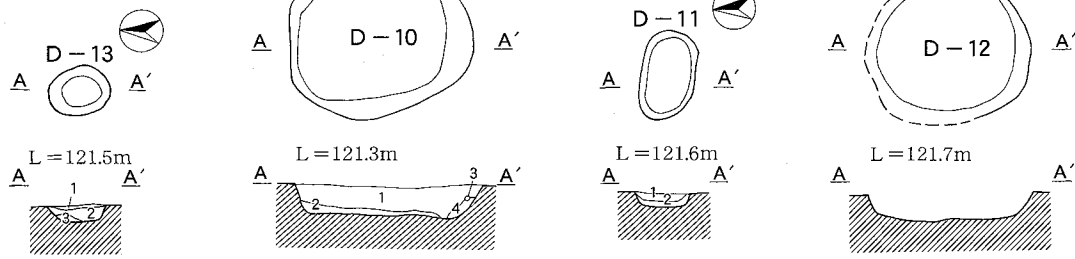


Fig.17 元総社小見内区遺跡A区H-5~7号住居跡、T-1号竪穴状遺構、W-1溝跡

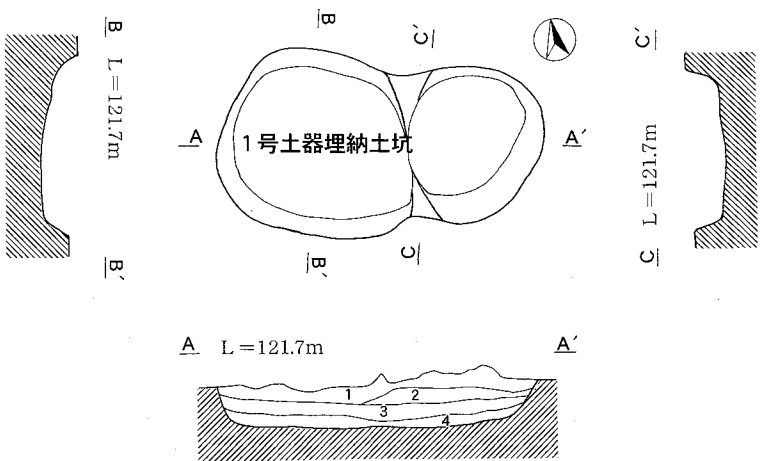


W-2号溝跡 北壁・ベルトセクション

- 1 現耕作土
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ×× As-B多量に含む
- 3 As-B ×× 二次堆積層
- 4 にぶい黄褐色土 △△ As-B, FS, As-C含む
- 5 にぶい黄褐色土 △△ FS, As-C含む
- 6 にぶい黄褐色土 △△ FS, As-C多量に含む
- 7 にぶい黄褐色土 △○ 6層に黒褐色土ブロック含む
- 8 にぶい黄褐色土 △○ 6層ににぶい黄褐色粘土ブロック含む



- D-1号土坑 セクション
- 1 暗褐色土 ○△ As-C多量に含む
 - 2 黒褐色土 ○○ 炭化物ごく少量含む
- D-2号土坑 セクション
- 1 暗褐色土 ○△ As-C, 少量の砂層含む
- D-3号土坑 セクション
- 1 黒褐色土 ○△ As-C, 灰白色粘土多量に含む
- D-4号土坑 セクション
- 1 黒褐色土 ○△ As-C, 炭化物多量に含む
 - 2 黒褐色土 ○○
- D-5号土坑 セクション
- 1 黒褐色土 ○△ 多量のAs-C, ごく少量の焼土粒含む
 - 2 黒褐色土 ○○ As-Cごく少量含む
 - 3 黒褐色土 ○△ As-C少量含む
- D-6号土坑 セクション
- 1 暗褐色土 ○△ FS, As-C, 炭化物, 焼土含む
 - 2 黒褐色土 ○× As-C含む
 - 3 黒褐色土 ○△ 焼土ごく少量含む
- D-7号土坑 セクション
- 1 暗褐色土 ○× As-Cごく少量含む
- D-8号土坑 セクション
- 1 黒褐色土 ○△ 炭化物, ごく少量のFS, As-C含む
- D-9号土坑 セクション
- 1 黒褐色土 ○△ As-C, FS含む
- D-10号土坑 セクション
- 1 灰黄褐色土 ○△ FS, As-C, 炭化物, 焼土多量に含む
 - 2 灰黄褐色土 ○△ FS, As-C, 炭化物, 焼土ごく少量含む
 - 3 暗褐色土 ○○
 - 4 黒褐色土 △○ FS, As-C少量含む
- D-11号土坑 セクション
- 1 黒褐色土 ○△FS, As-C多量に含む
 - 2 黒褐色土 ○△FS, As-C少量含む
- D-13号土坑 セクション
- 1 暗褐色土 ○△ 少量のFS, As-C, 多量の炭化物含む
 - 2 黒褐色土 △△ FS, As-C含む
 - 3 黒褐色土 ○○

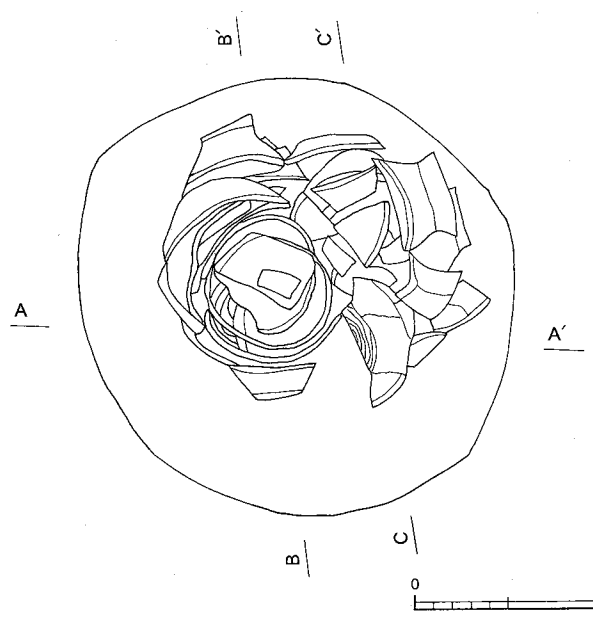
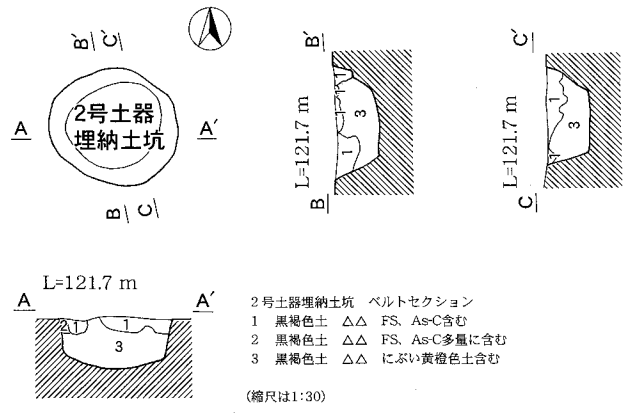


- 1号土器埋納土坑 ベルトセクション
- 1 黒褐色土 ×△ As-B多量に含む
 - 2 暗褐色土 ○○ FS, As-C含む
 - 3 黒褐色土 ○○ FS, As-Cごく少量含む
 - 4 暗褐色土 ○○ As-C多量に含む

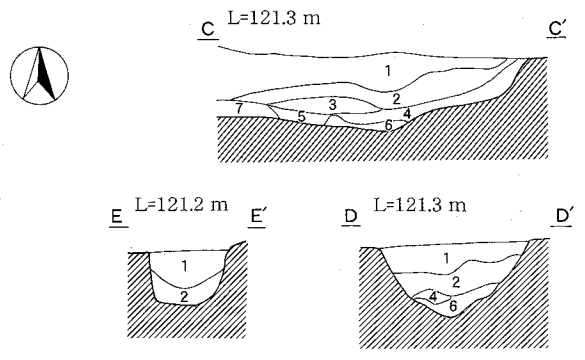
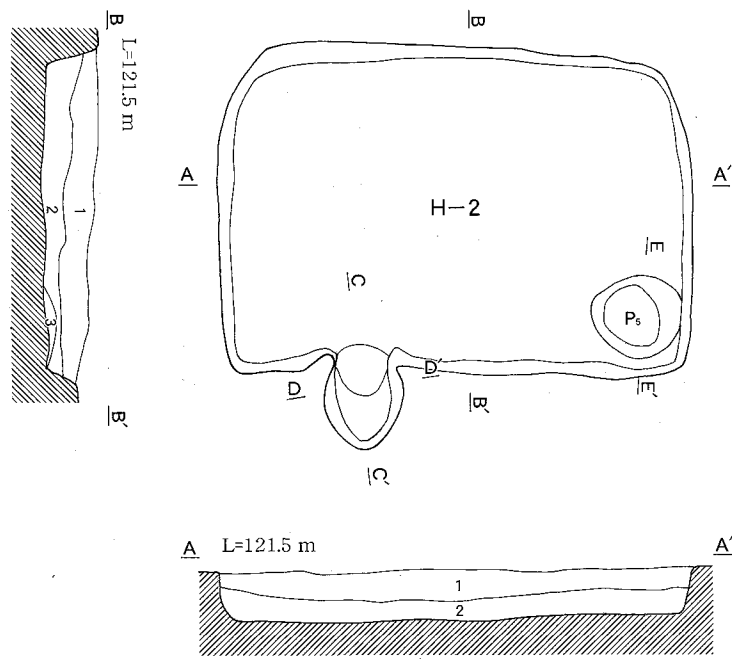
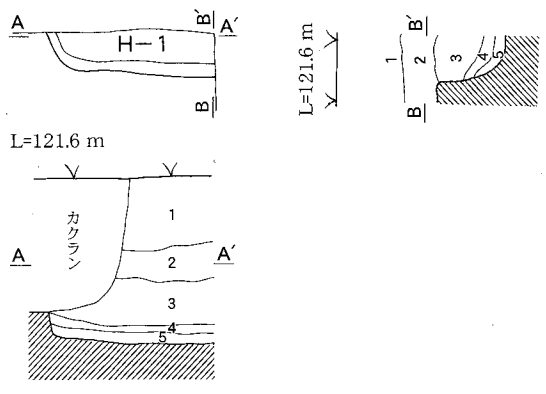


(縮尺は 1 : 30)

Fig.18 元総社小見内IX遺跡A区W-2溝跡、D-1~13号土坑、1号土器埋納土坑



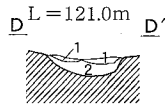
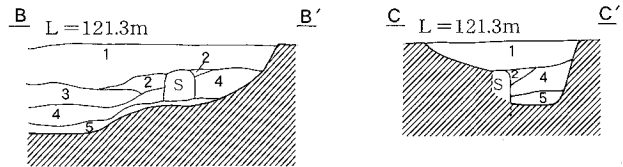
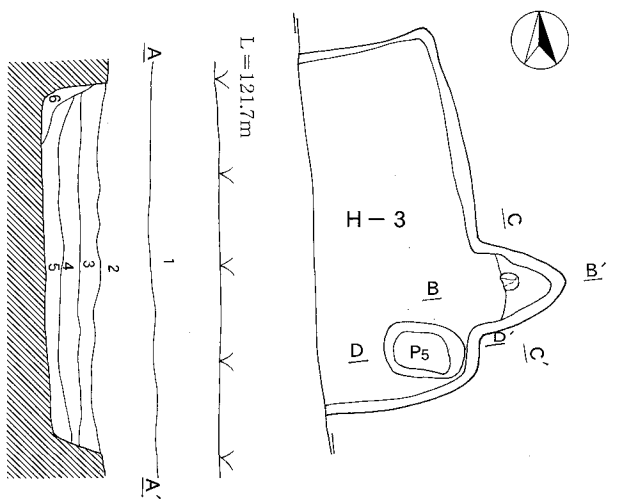
元総社小見内区遺跡B区



H-2号住居跡 柱穴・土坑 計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P5	円形	74	66	54.5	貯蔵穴

Fig.19 元総社小見内区遺跡A区2号土器埋納土坑、B区H-1・2号住居跡



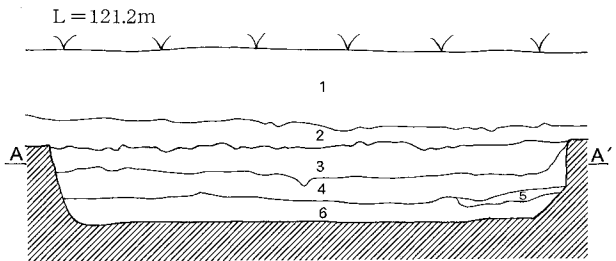
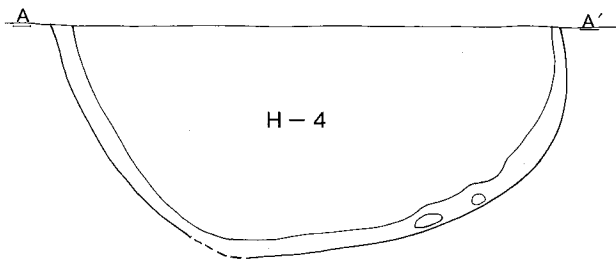
- H-3号住居跡 西壁セクション
- 1 現耕作土 ○× As-B多量に含む
 - 2 黒褐色土 ○△ FS、As-C含む
 - 3 黒褐色土 ○○ FS、As-C多量に含む
 - 4 黒褐色土 ○○ FS、As-C、少量の炭化物含む
 - 5 黒褐色土 ○○ FS、As-C、少量の炭化物含む
 - 6 黒褐色土 ○○ As-C含む

- H-3号住居跡 南壁セクション
- 1 暗褐色土 ○△ FS、As-C、少量の焼土粒・炭化物含む
 - 2 黒褐色土 ○○ FS、As-C、焼土粒ごく少量含む
 - 3 黒褐色土 ○○ 焼土、灰少量含む
 - 4 黒褐色土 △○ 焼土、灰多量に含む
 - 5 黒色土 △○ 焼土、4層より多量の灰含む

- H-3号住居跡 P5セクション
- 1 暗褐色土 ●△ 焼土粒多量に含む
 - 2 黒褐色土 △○ 灰多量、焼土ごく少量含む

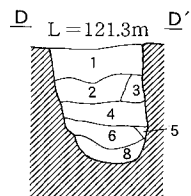
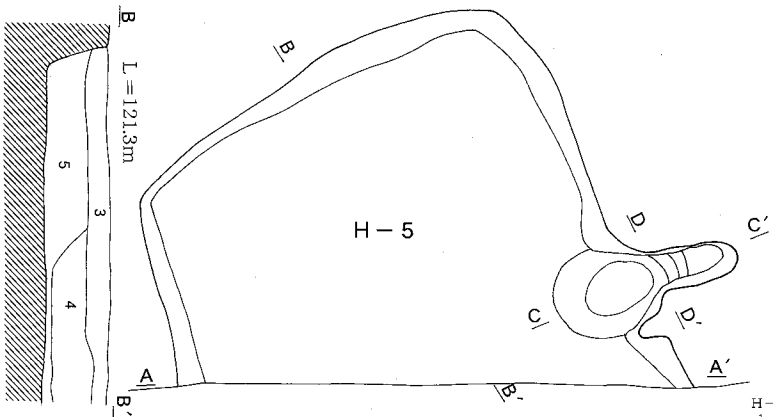
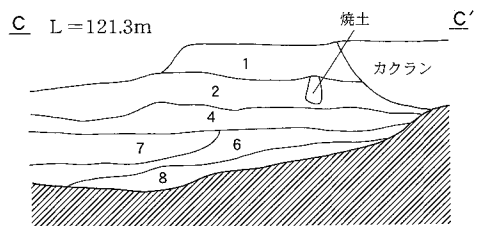
H-3号住居跡 柱穴・土坑 計測表

No.	形状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
P5	楕円形	64	43	31.5	貯蔵穴



H-4号住居跡 北壁セクション

- 1 現耕作土 ○× As-B多量に含む
- 2 黒褐色土 ○△ FS、As-C多量に含む
- 3 黒褐色土 ○○ FS、As-C、多量の灰白色粘土ブロック含む
- 4 黒褐色土 ○○ FS、As-C、多量の炭化物含む
- 5 暗褐色土 △○ 多量の焼土、炭化物含む
- 6 暗褐色シルト ○● 炭化物含む



H-5号住居跡 南壁・ベルトセクション

- 1 現耕作土 ○× As-B多量に含む
- 2 黒褐色土 ○△ FS、多量のAs-C、炭化物、焼土ごく少量含む
- 3 暗褐色土 ○○ FS、少量のAs-C・焼土、多量の灰白色粘土ブロック含む
- 4 黒褐色土 ○○ FS、少量のAs-C、焼土、多量の灰白色粘土ブロック含む
- 5 暗褐色土 ○○ FS、少量のAs-C、灰白色粘土ブロック含む

H-5号住居跡 南壁セクション

- 1 暗褐色土 ○○ 灰白色粘土ブロック、焼土粒少量含む
- 2 黒褐色土 △○ 粘土粒含む
- 3 褐色土 △○ 焼土層
- 4 黒褐色土 ○○ 焼土粒少量含む
- 5 灰褐色土 △● 粘土、灰少量含む
- 6 灰褐色土 ×○ 焼土、灰多量に含む
- 7 灰黄褐色土 ×○ 灰黄褐色粘土多量に含む
- 8 暗褐色土 ○● 灰、焼土多量に含む

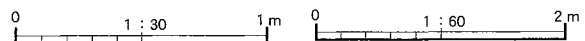


Fig.20 元総社小見内区遺跡B区H-3~5号住居跡

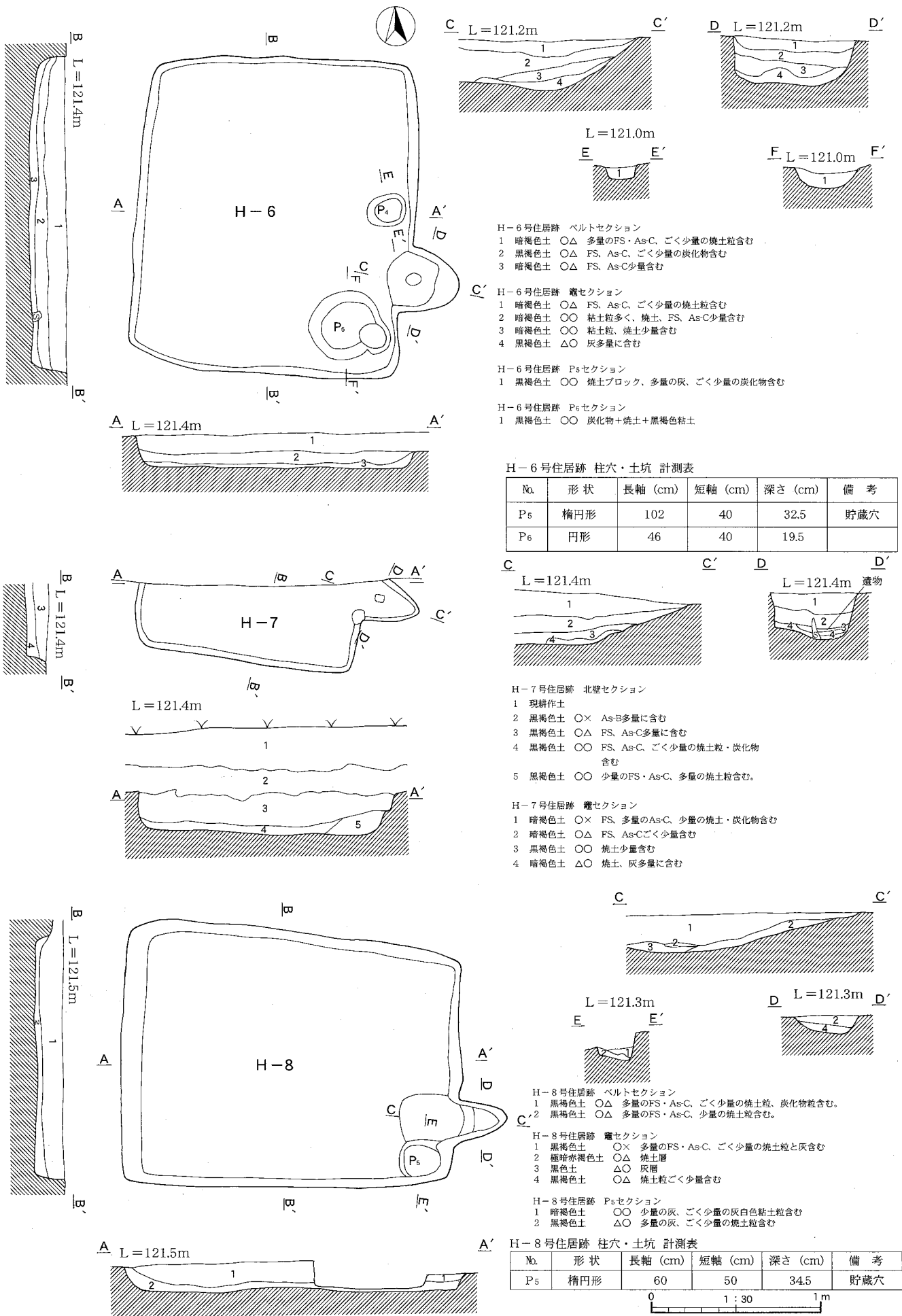


Fig.21 元総社小見内区遺跡B区H-6～8号住居跡

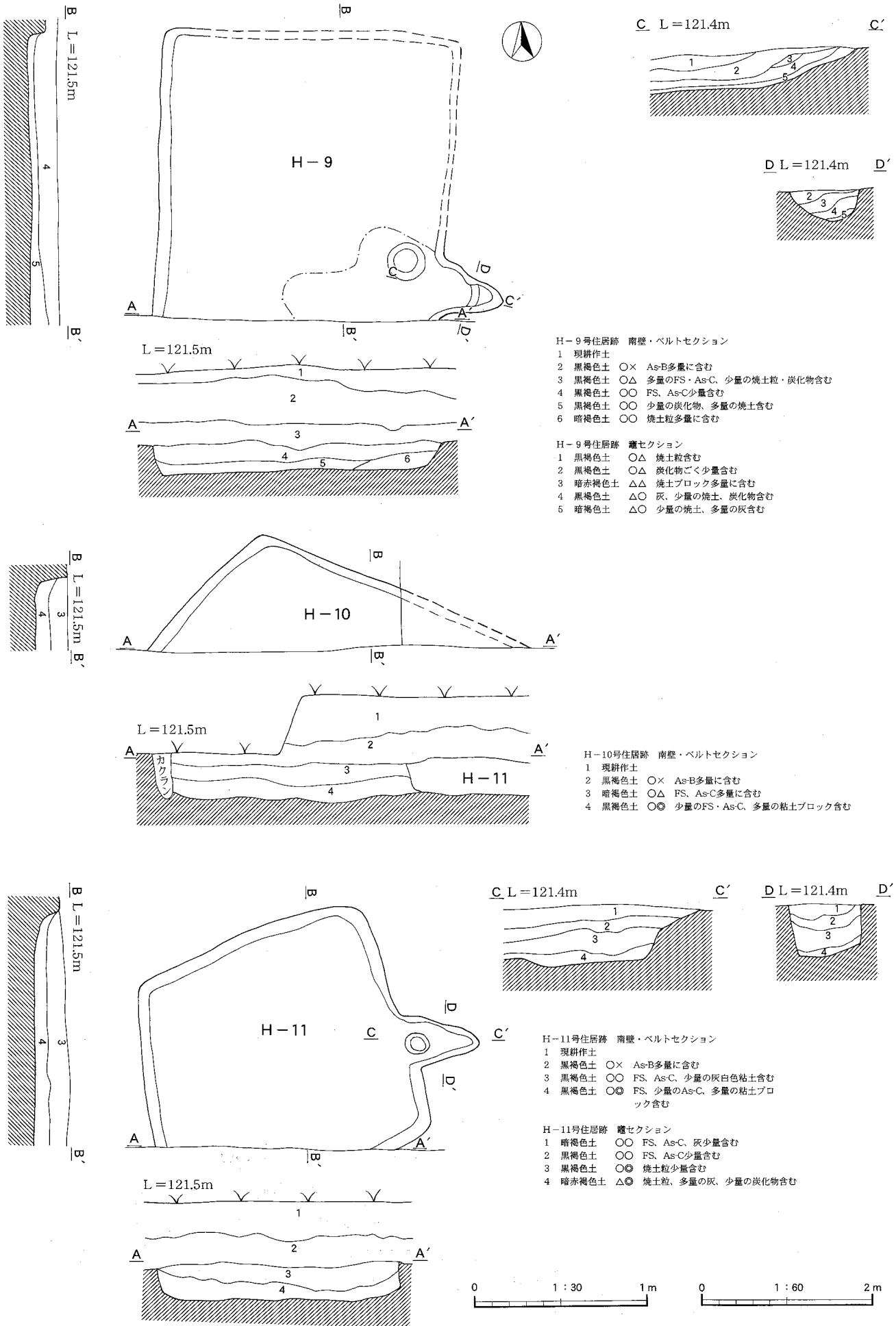


Fig.22 元総社小見内IX遺跡B区H-9~11号住居跡

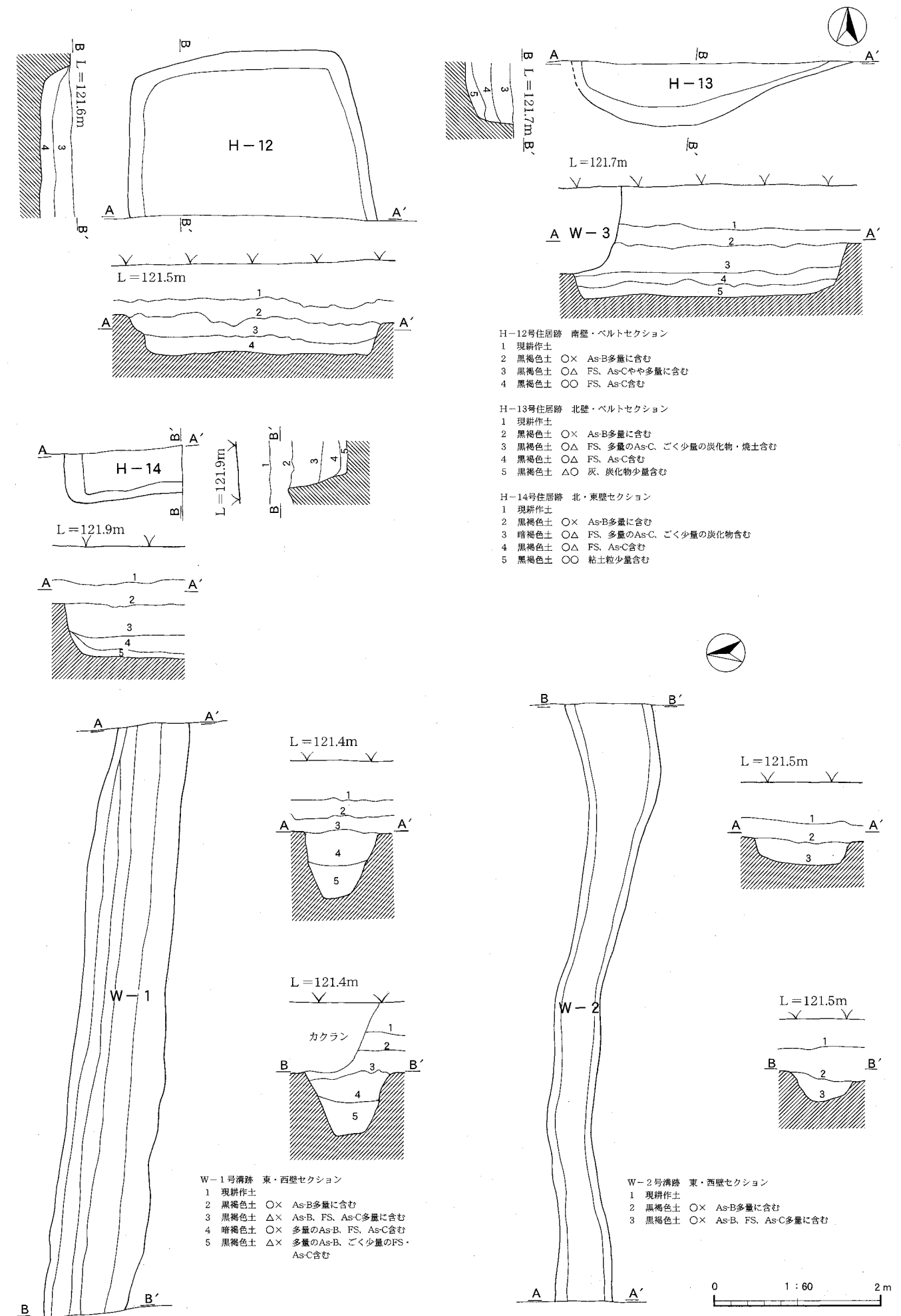


Fig.23 元総社小見内区遺跡B区H-12~14号住居跡、W-1・2号溝跡

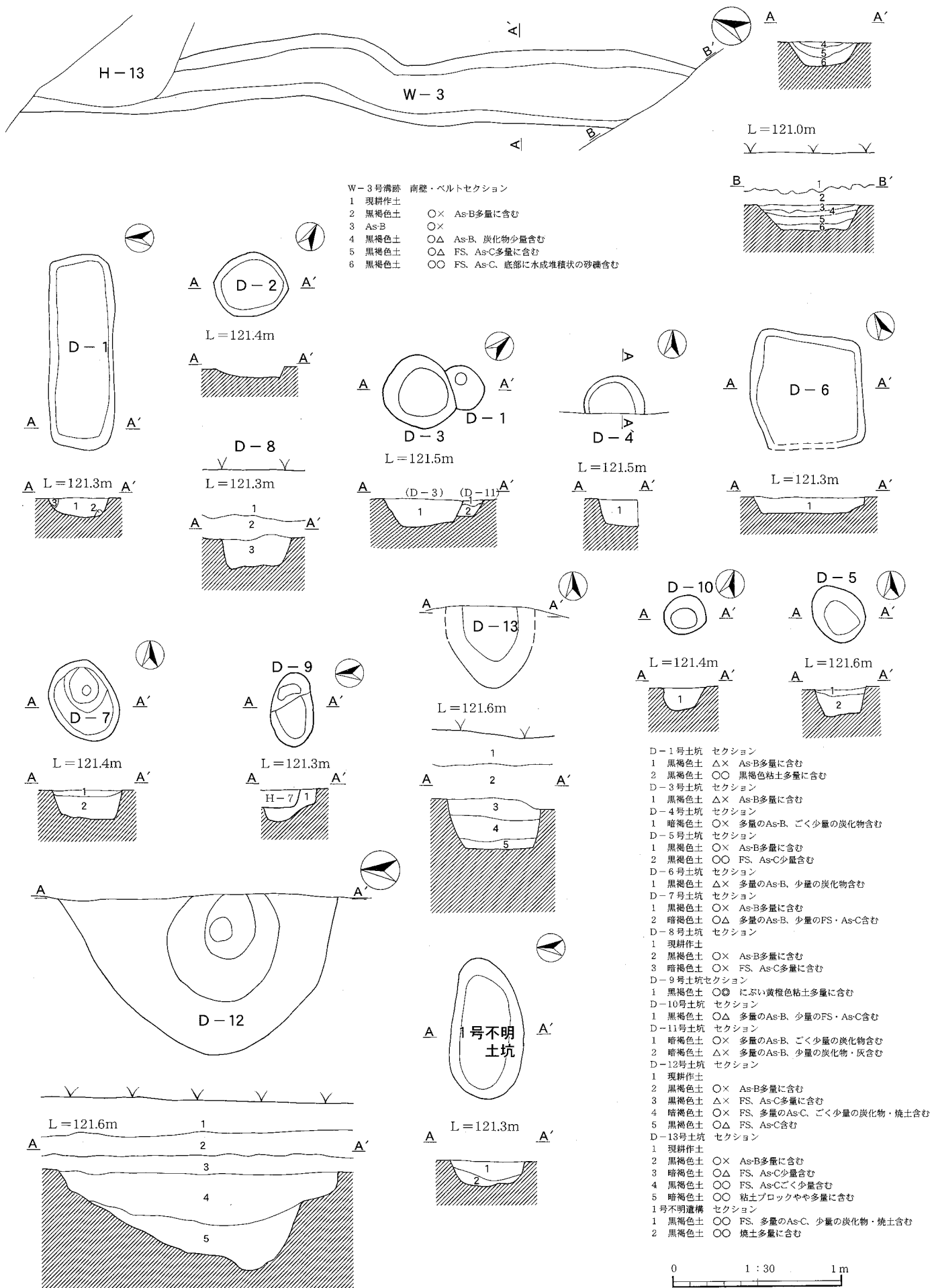
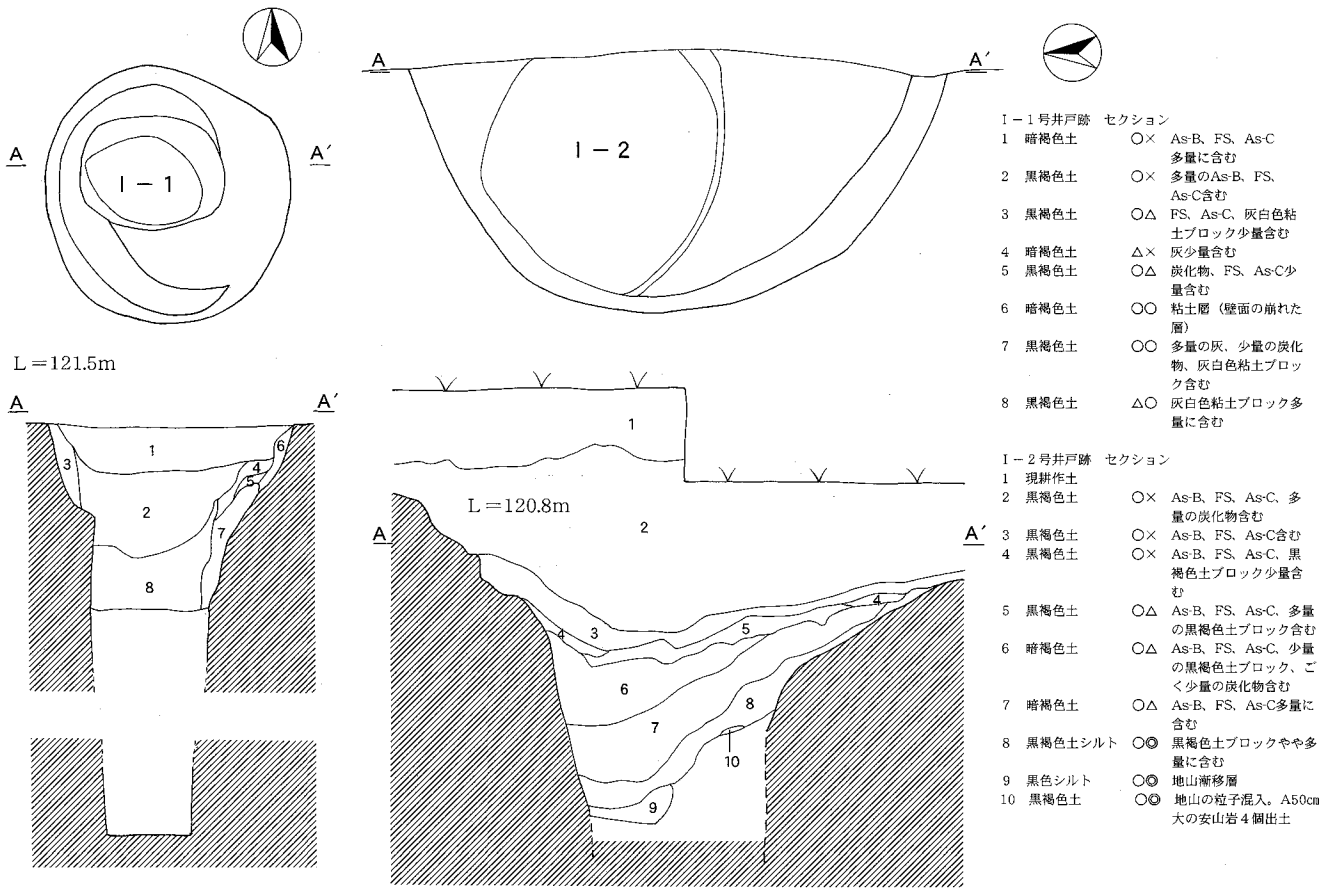


Fig.24 元総社小見内区遺跡B区W-3号溝跡、D-1~13号土坑、1号不明遺構



元総社小見内区遺跡 C区

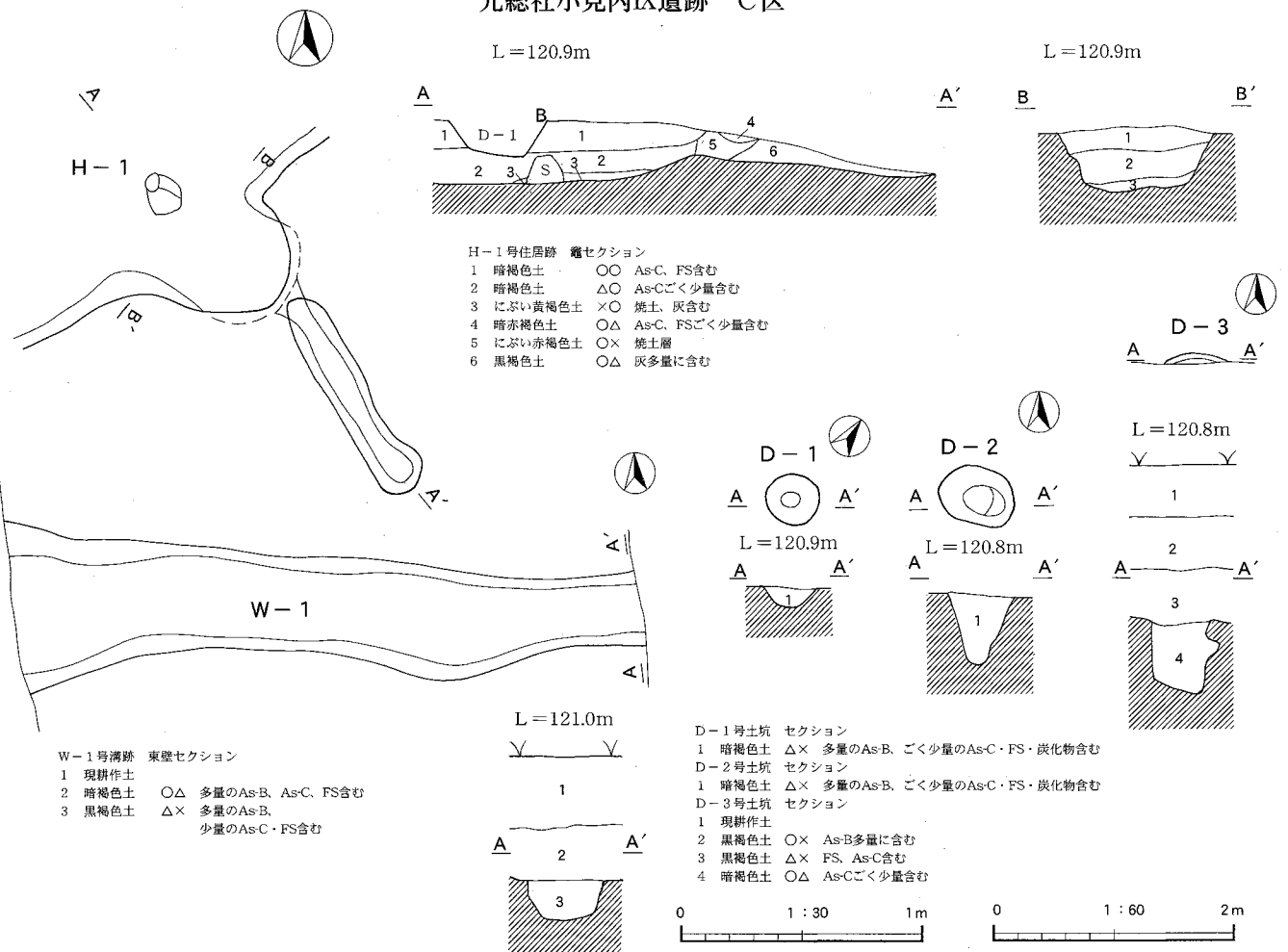


Fig.25 元総社小見内区遺跡B区I-1・2号井戸跡、C区H-1号住居跡、W-1溝跡、D-1~3号土坑

元総社小見内区遺跡 D区

元総社小見内区遺跡 E区

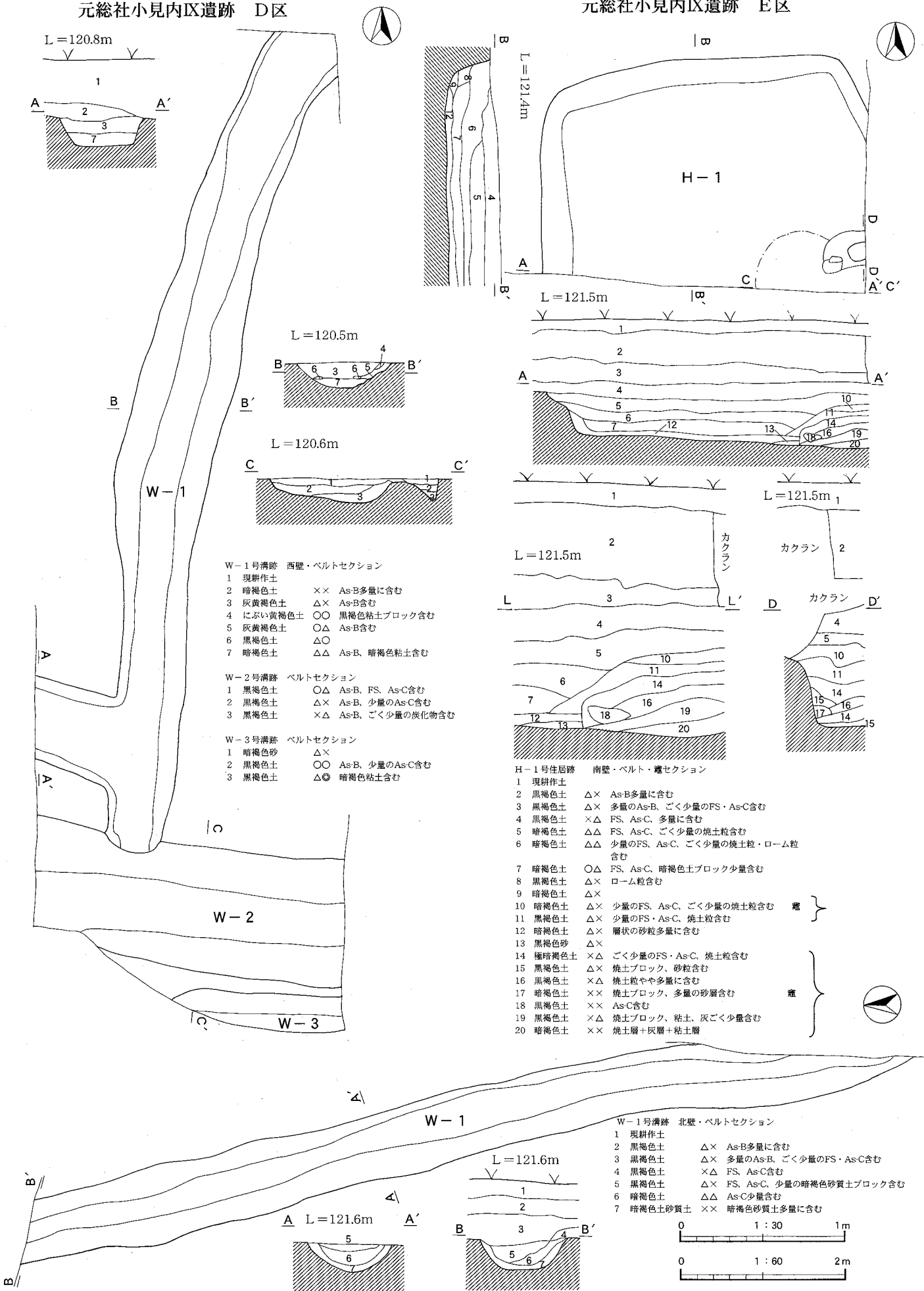
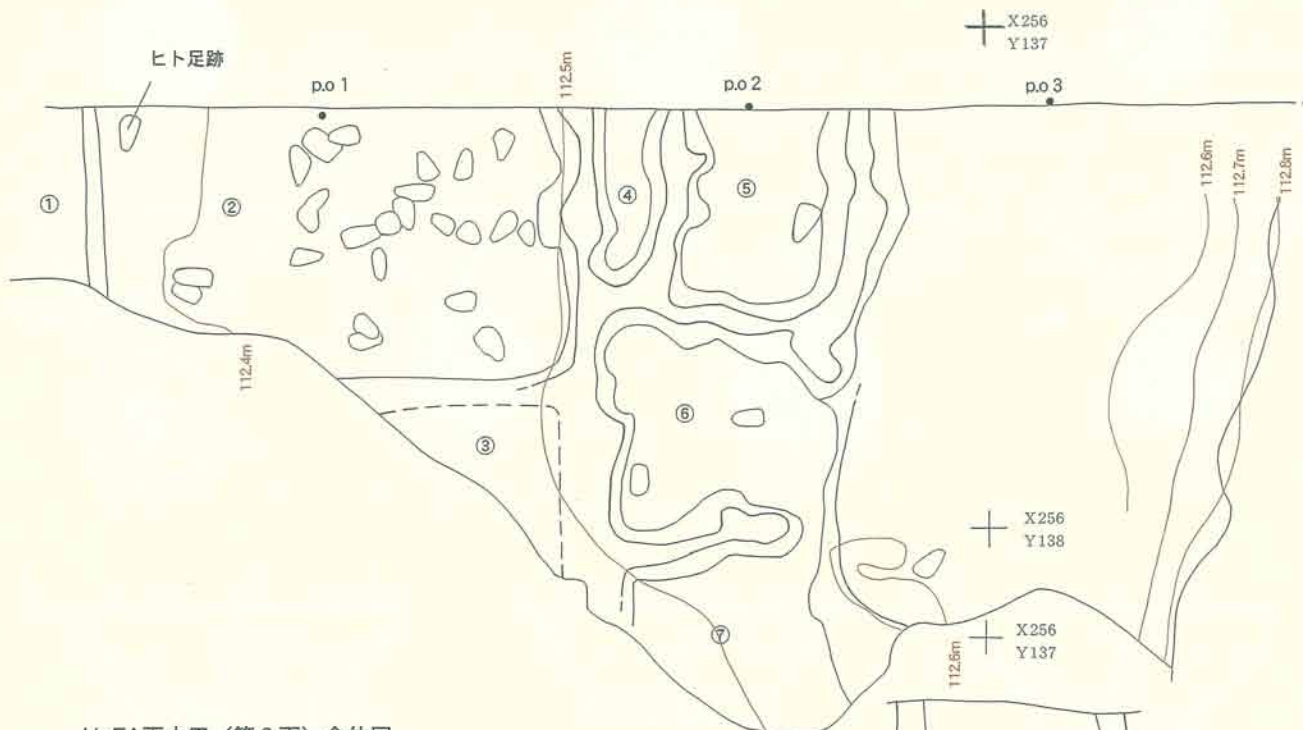
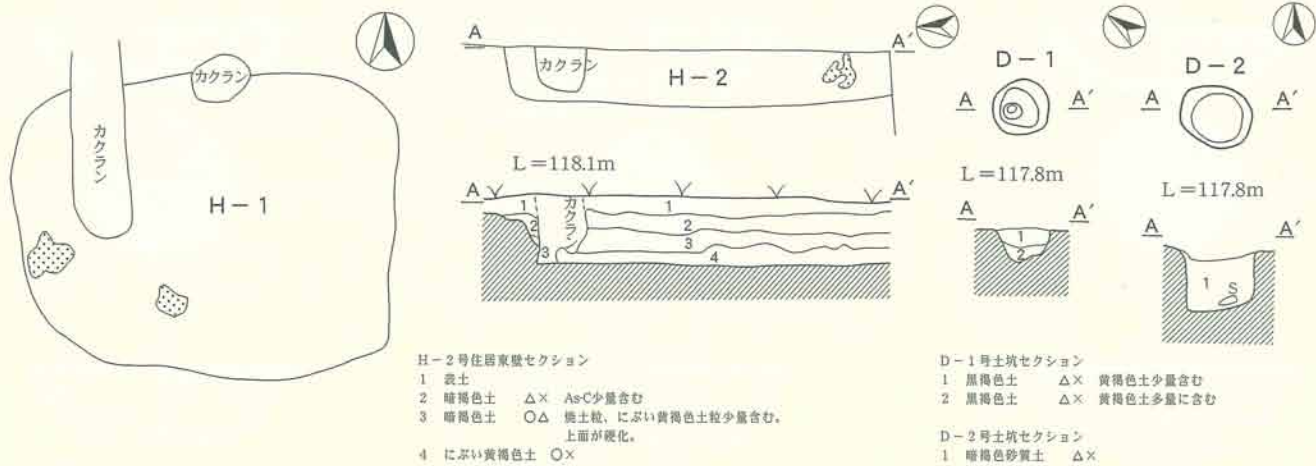


Fig.26 元総社小見内区遺跡D区W-1~3号溝、E区H-1号住居跡、W-1溝跡

総社関泉明神北V遺跡 A区・B区



Hr-FA下水田（第2面）全体図
 * ○付き数字は区画名（1～7号区画）を表す。
 * 植物珪酸体分析 資料採取地点（第VI章参照）

試料採取地点	試料名
・p.o1	・・・ B区北壁トレンチ東部 試料1
・p.o2	・・・ B区北壁トレンチ東部 試料2
・p.o3	・・・ B区北壁トレンチ東部 試料3

* Hr-FA下水田の全体図とX軸座標（X=256）をそろえて示している。
 * 断面図は第IV章Fig.7に示した。

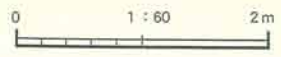


Fig.27 総社関泉明神北V遺跡A区H-1、2号住居跡、D-1、2号土坑
 B区 Hr-FA下水田、W-1溝跡

元総社小見内区遺跡 A区

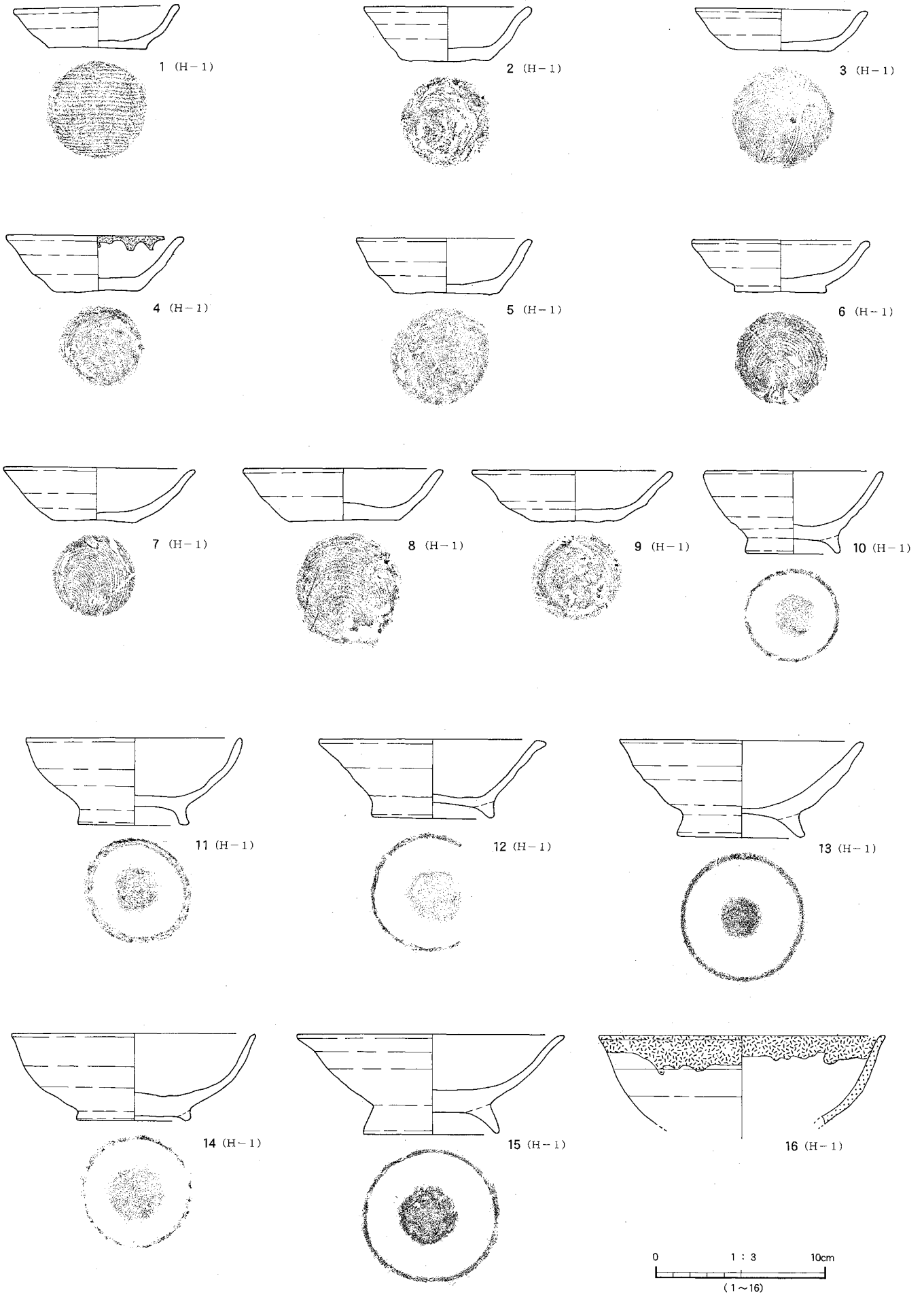


Fig.28 元総社小見内区遺跡A区出土土器 (1)

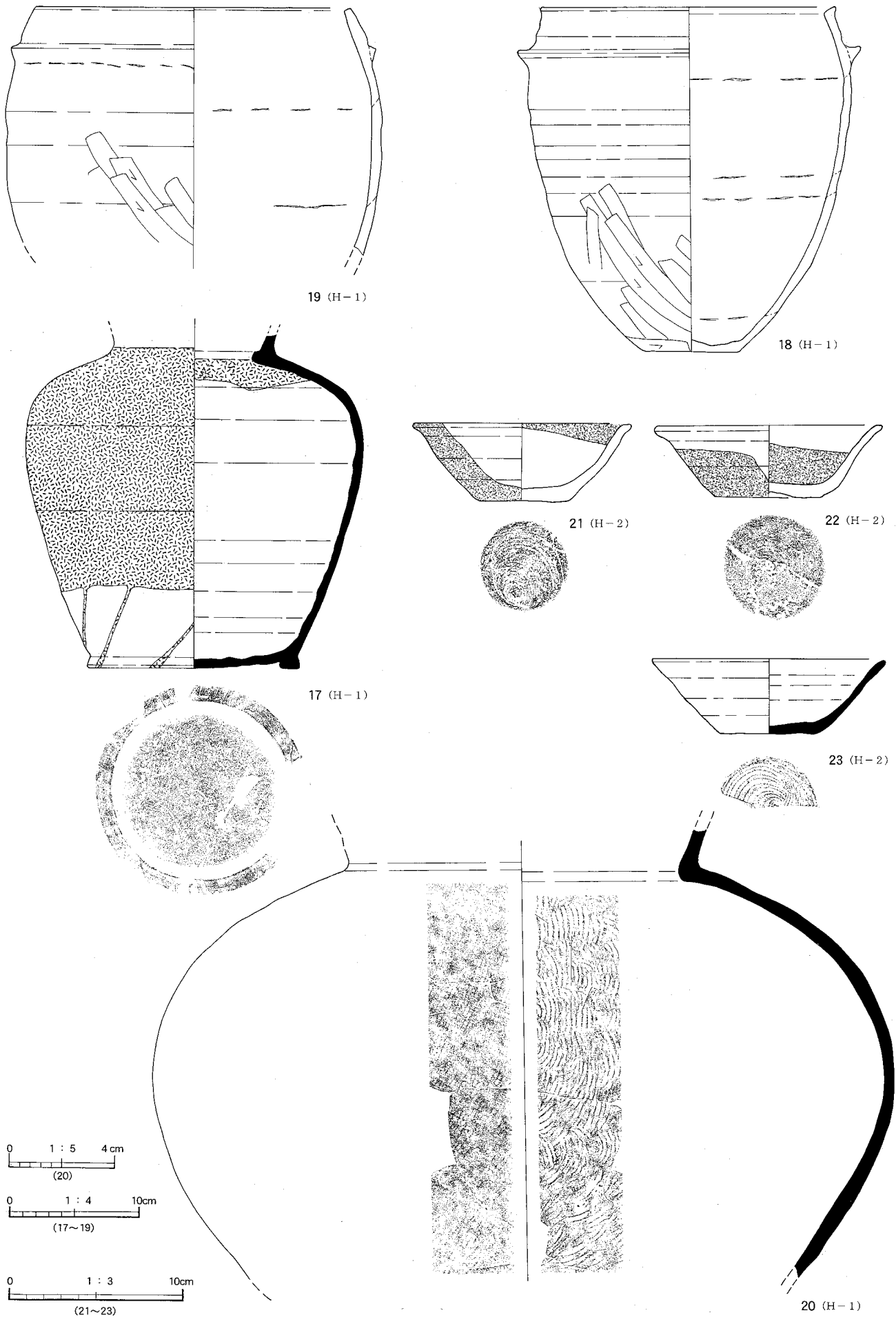


Fig.29 元総社小見内Ⅸ遺跡A区出土土器 (2)

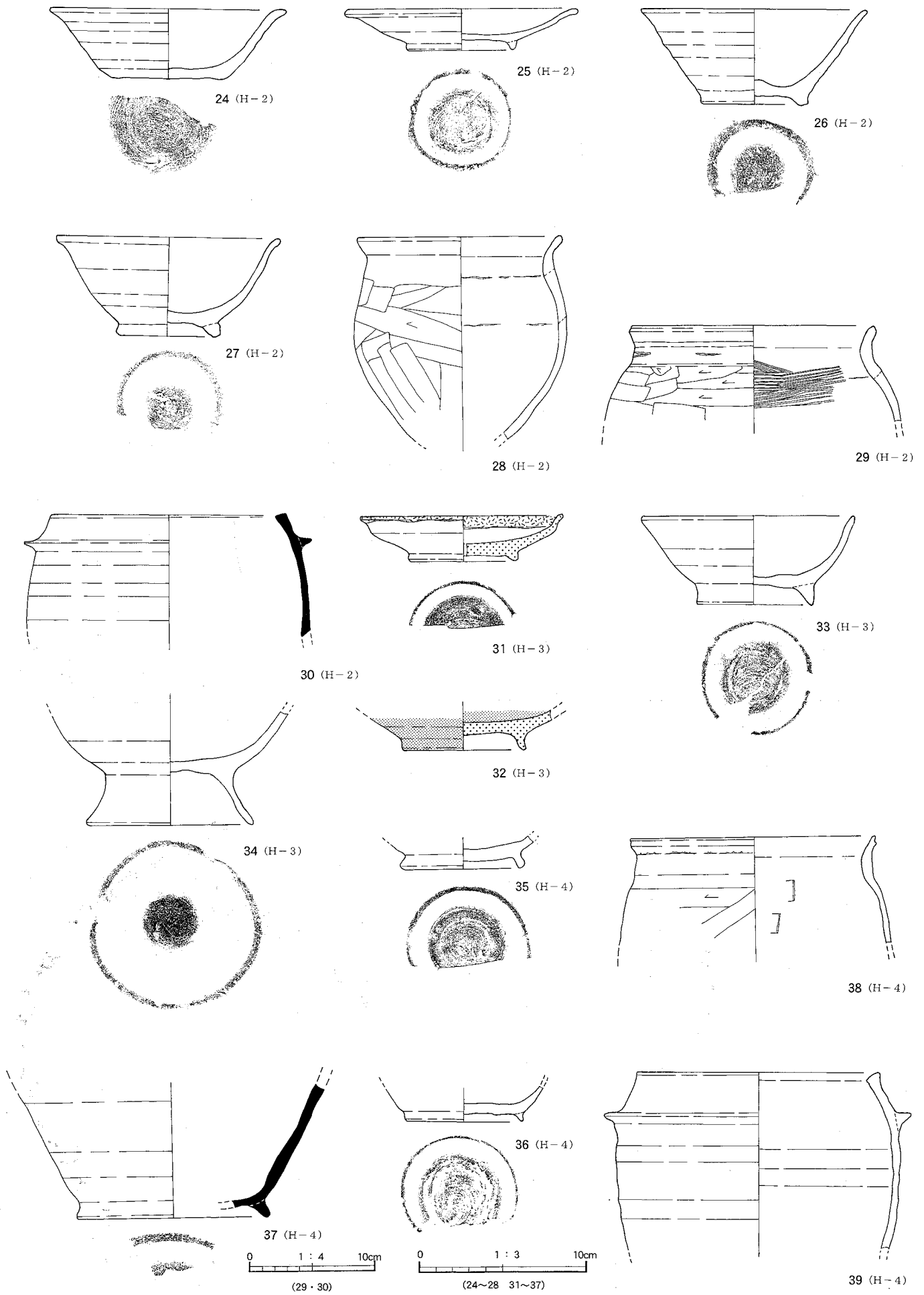


Fig.30 元総社小見内Ⅸ遺跡A区出土土器 (3)

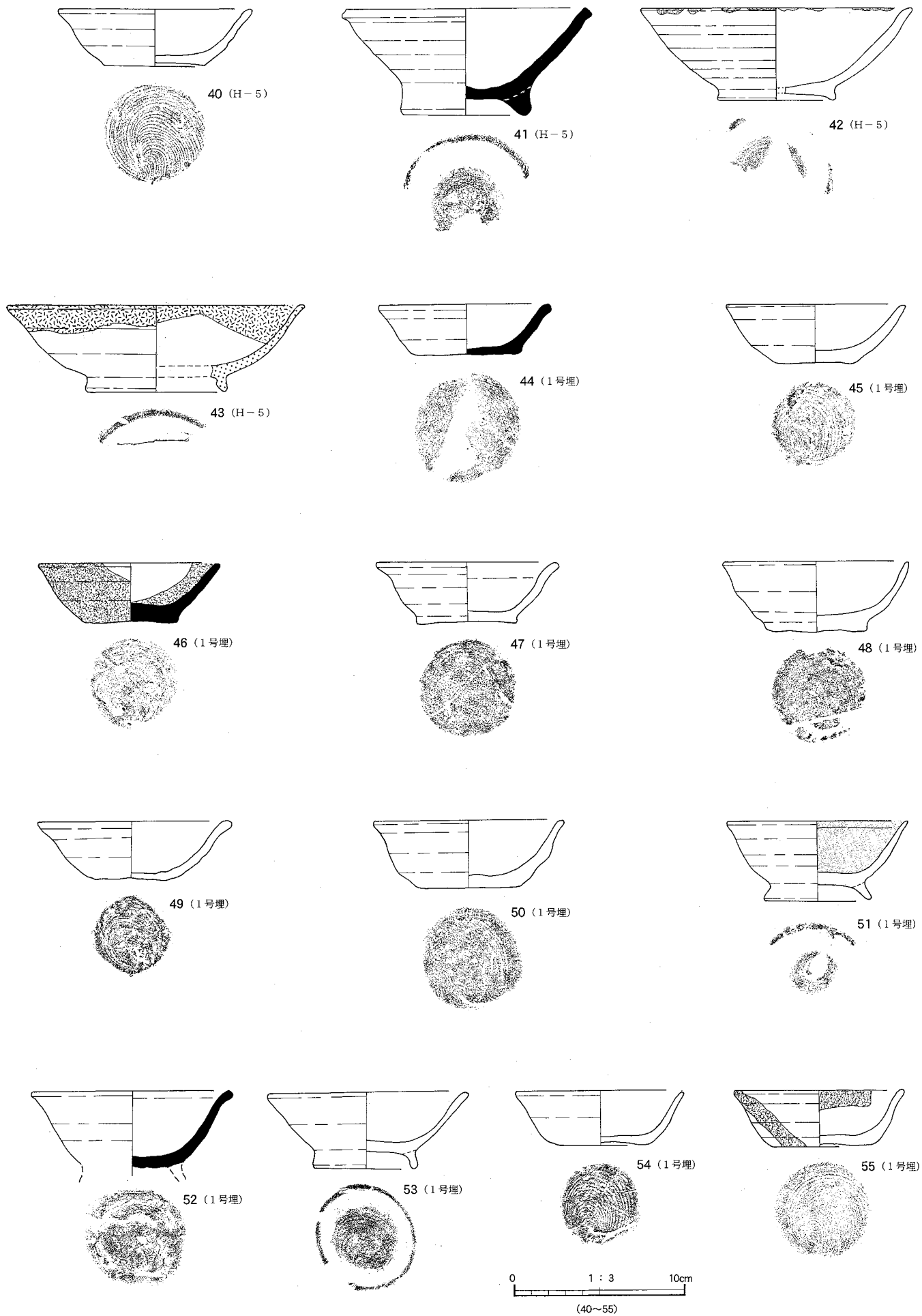


Fig.31 元総社小見内区遺跡A区出土土器 (4)

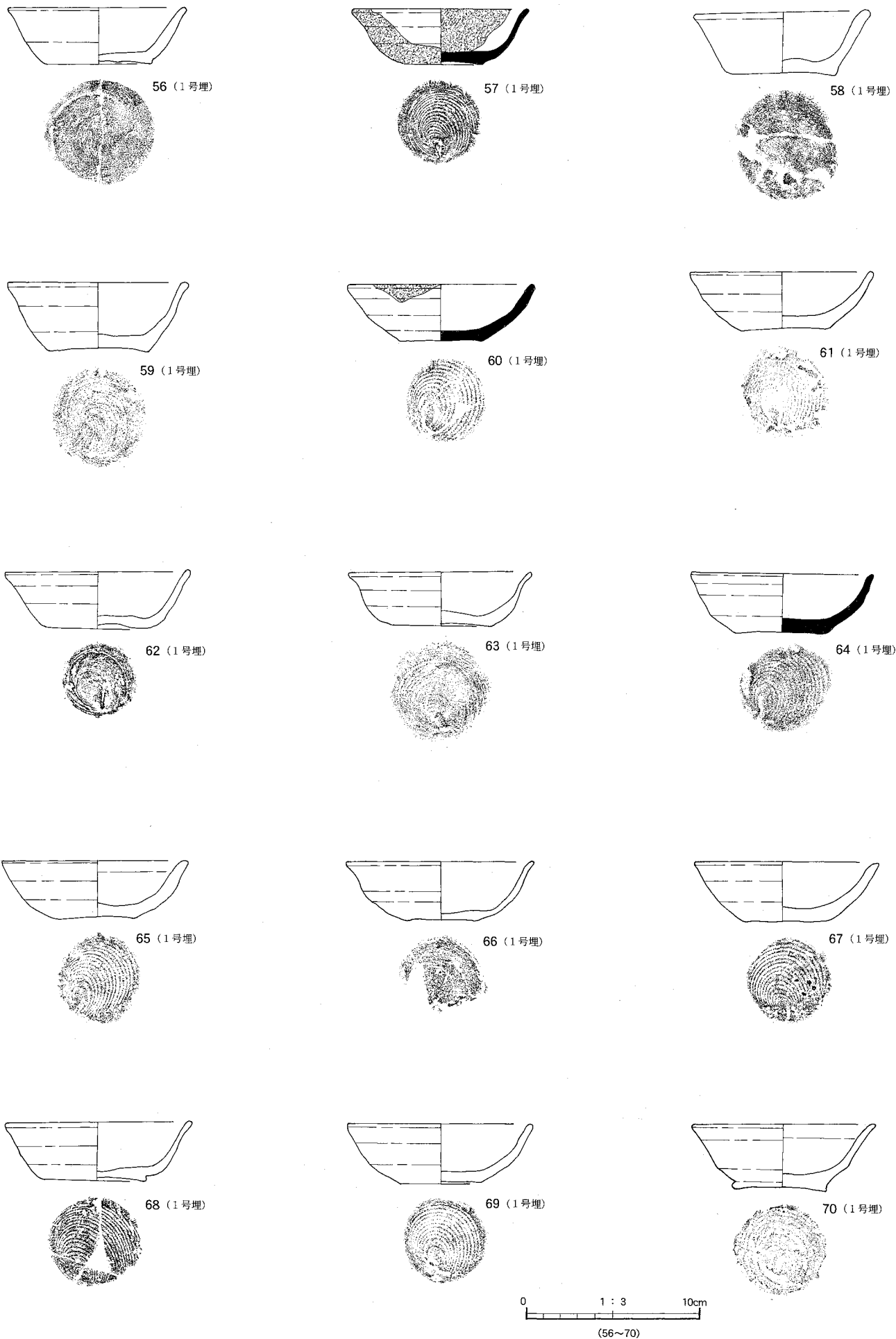


Fig.32 元総社小見内区遺跡A区出土土器 (5)

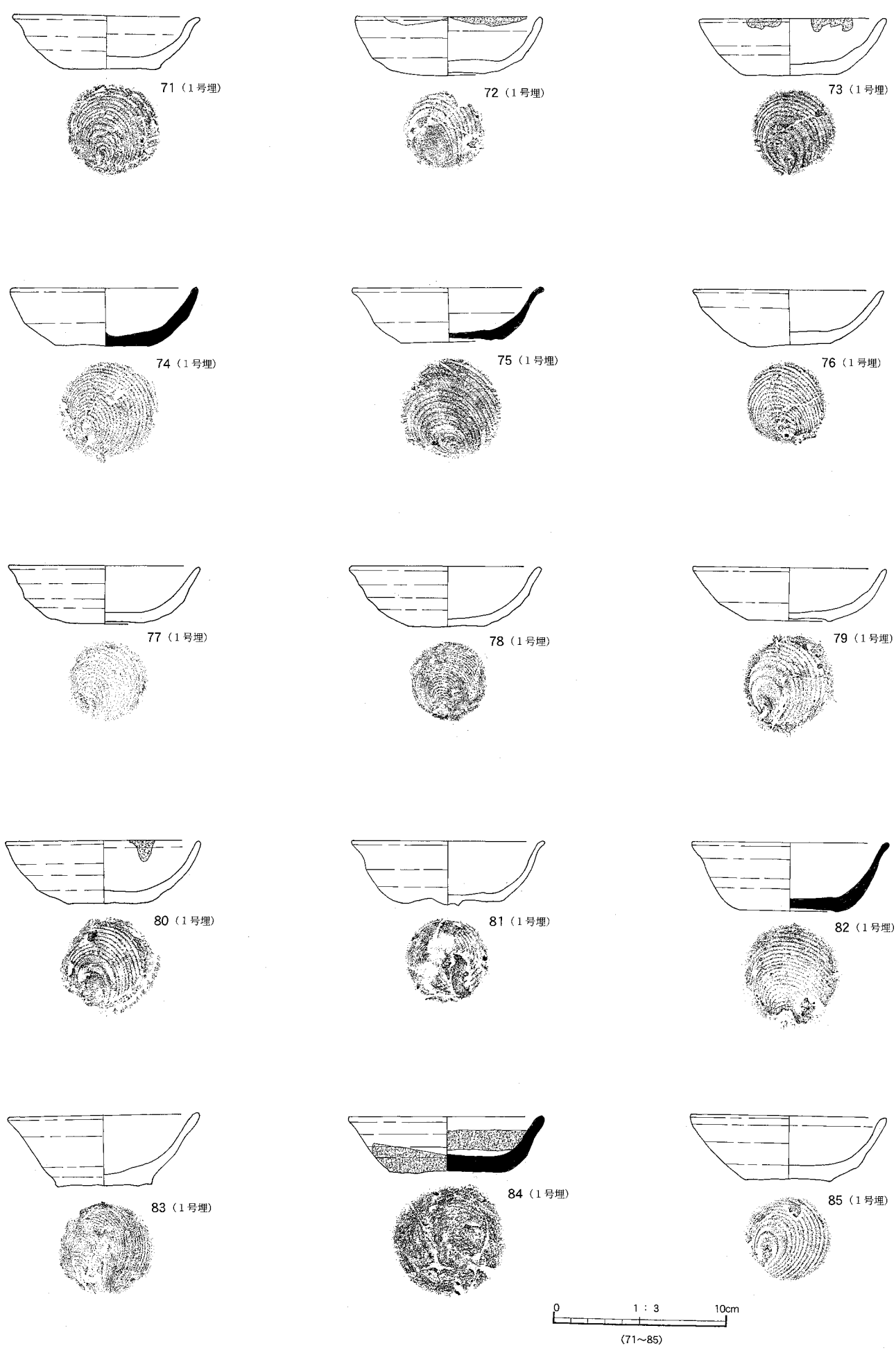


Fig.33 元総社小見内区遺跡A区出土土器 (6)

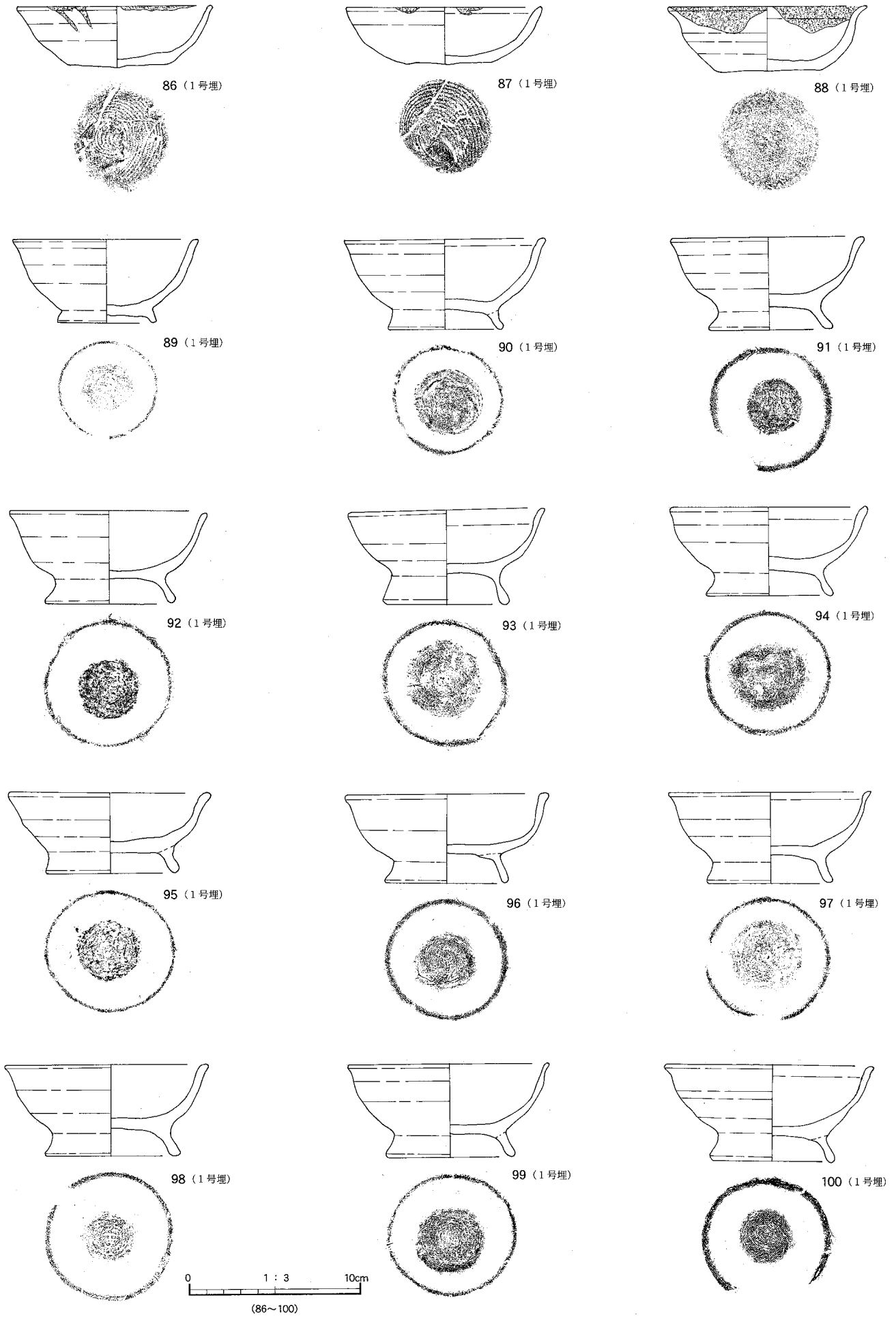


Fig.34 元総社小見内区遺跡A区出土土器 (7)

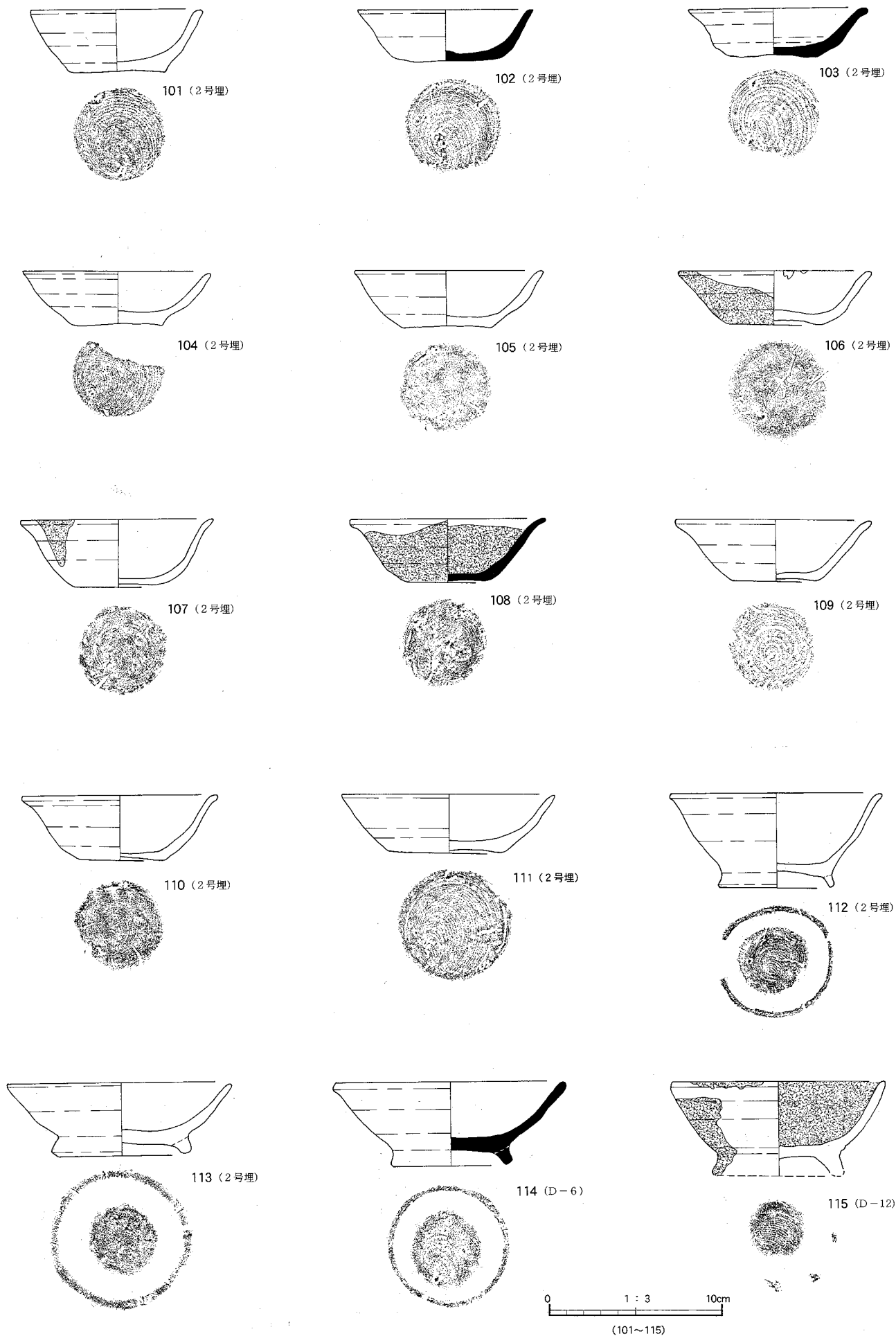
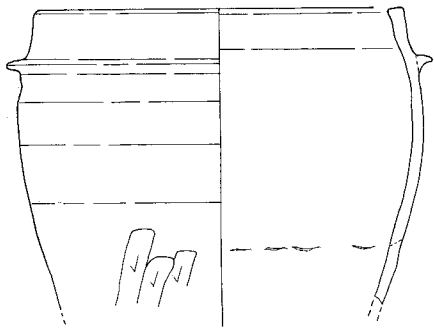
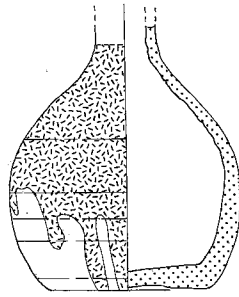


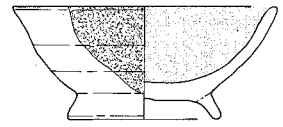
Fig.35 元総社小見内IX遺跡A区出土土器 (8)



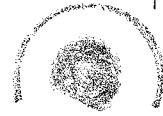
116 (P-3)



117 (X80Y132)



118 (X81Y132)



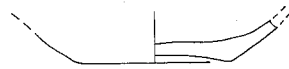
119 (表採)



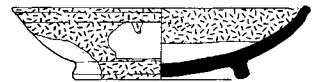
元総社小見内区遺跡 B区



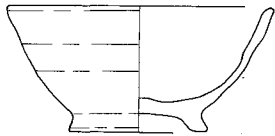
1 (H-1)



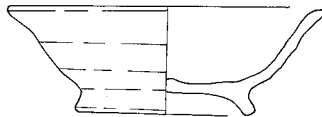
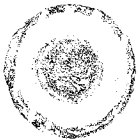
2 (H-2)



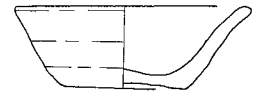
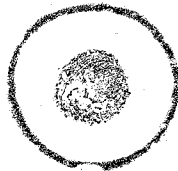
3 (H-2)



4 (H-2)



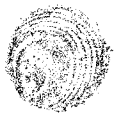
5 (H-2)



6 (H-3)



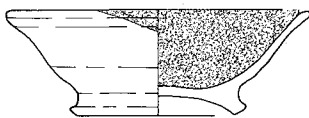
7 (H-3)



8 (H-3)



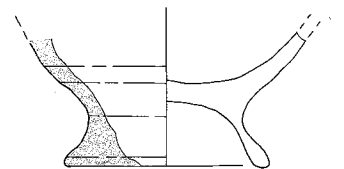
9 (H-3)



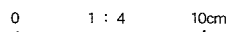
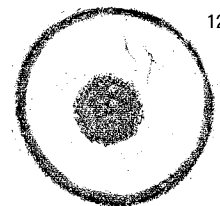
10 (H-3)



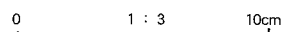
11 (H-3)



12 (H-3)



(116)



(117・118・119・1~12)

Fig.36 元総社小見内区遺跡A区出土土器(9)、B区出土土器(1)

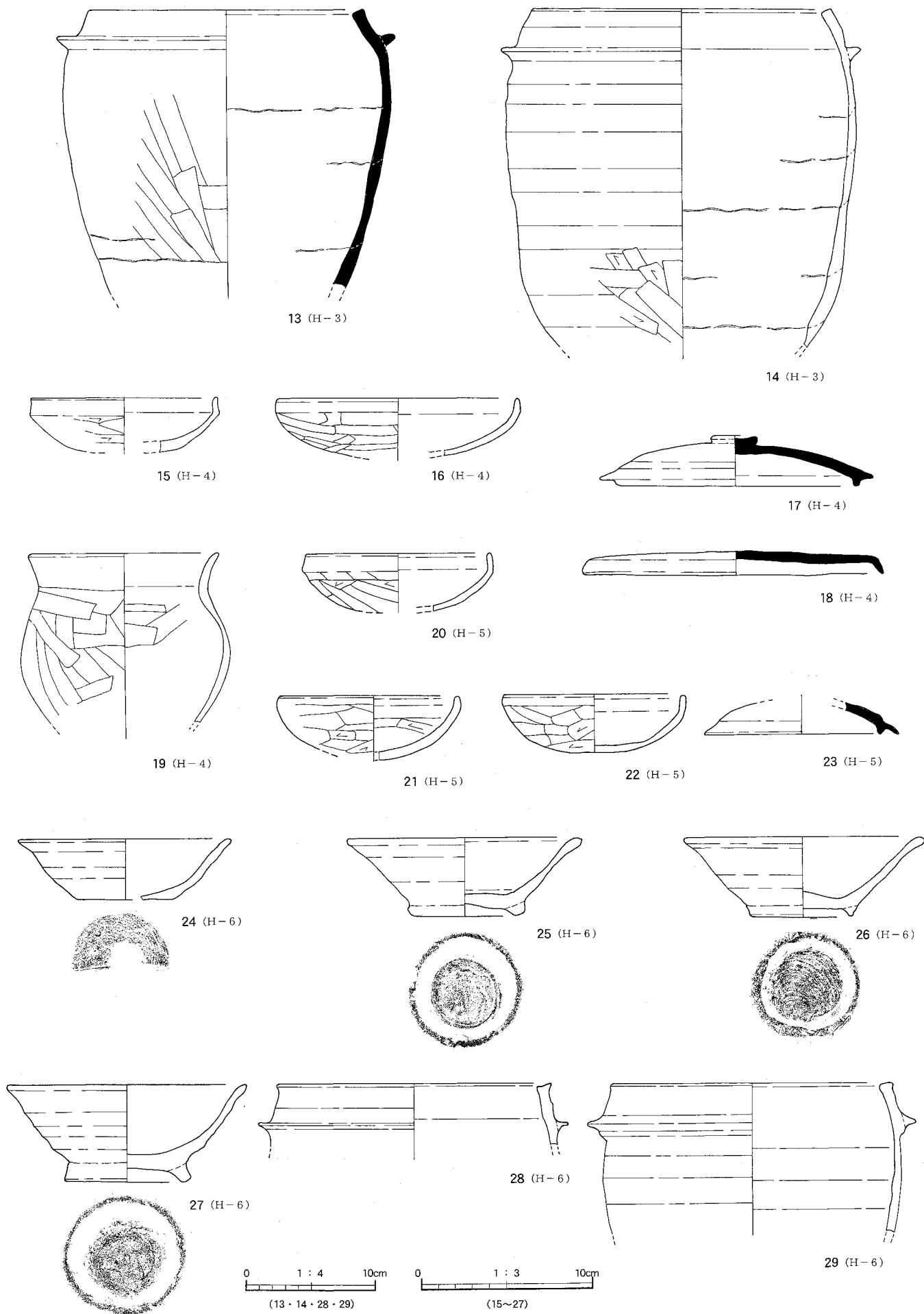


Fig.37 元総社小見内区遺跡B区出土土器(2)

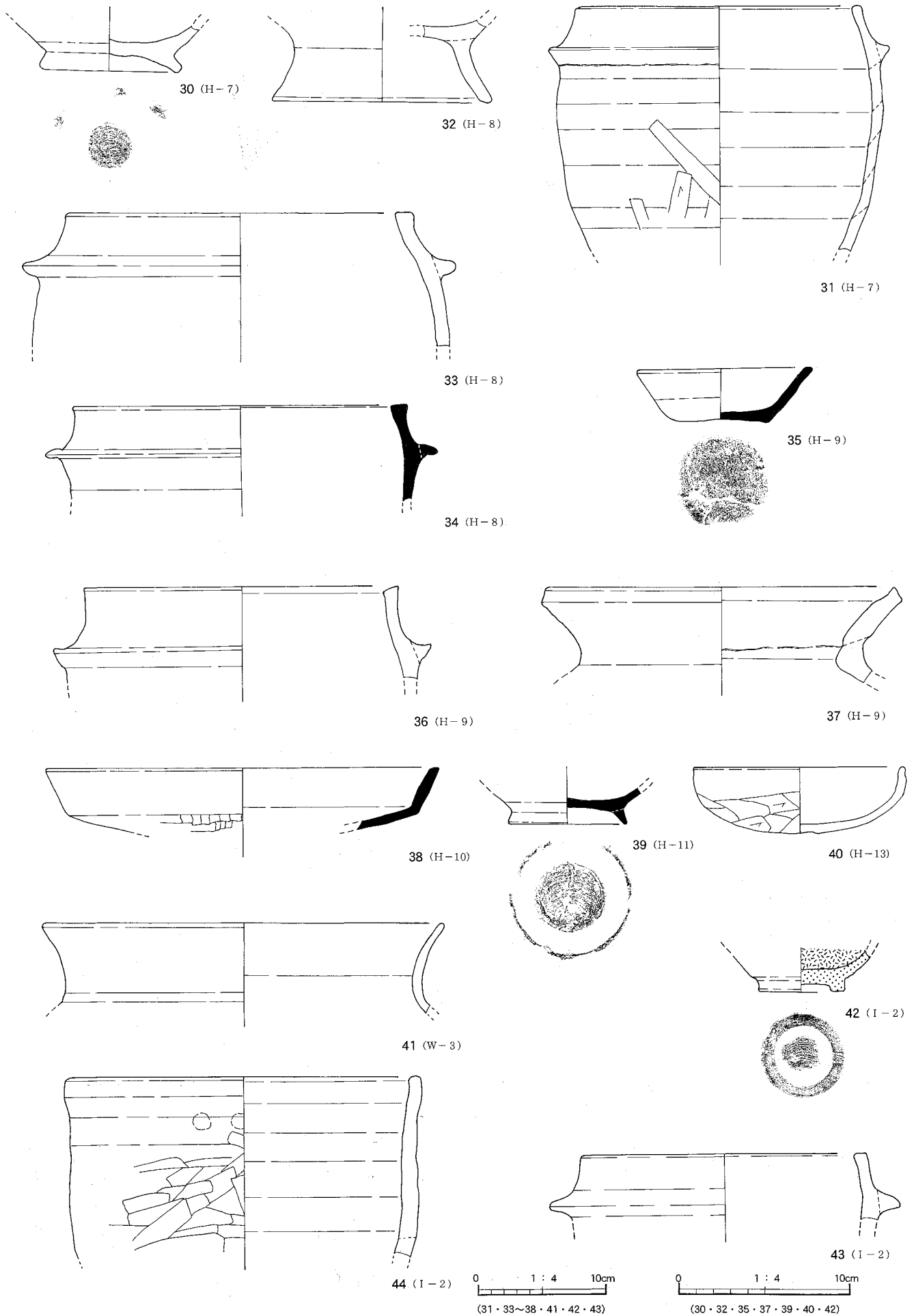
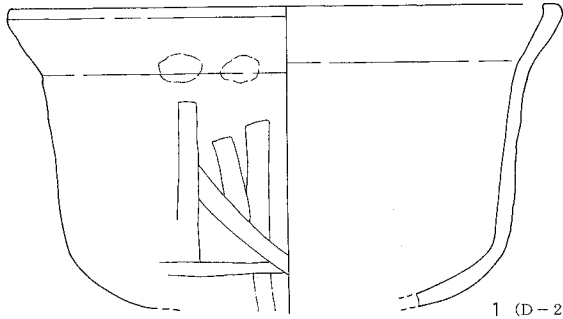
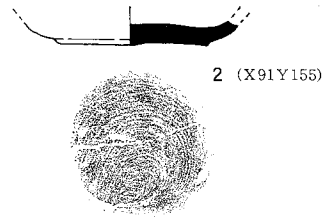


Fig.38 元総社小見内Ⅸ遺跡B区出土土器 (3)

元総社小見内区遺跡 C区

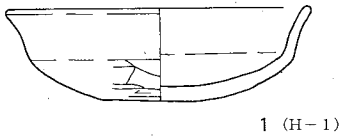


1 (D-2)

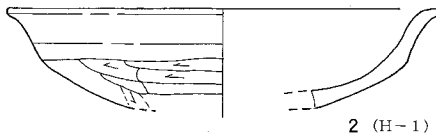


2 (X91Y155)

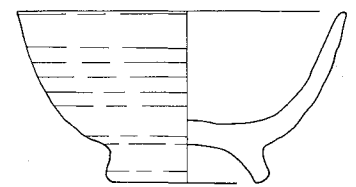
元総社小見内区遺跡 E区



1 (H-1)



2 (H-1)

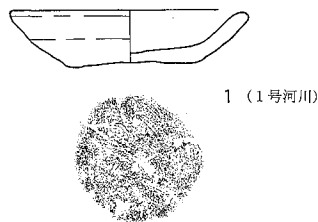


3 (X128Y157)

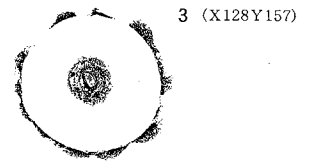
元総社閑泉明神北V遺跡



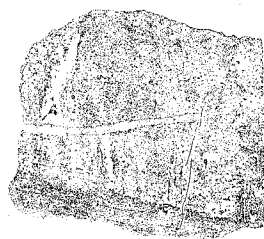
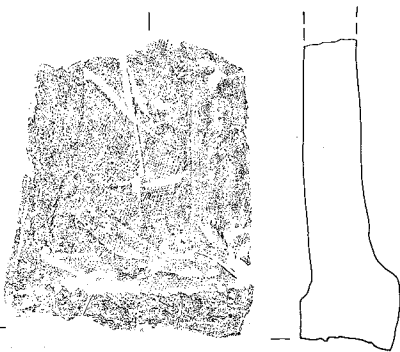
1 (X265Y137)



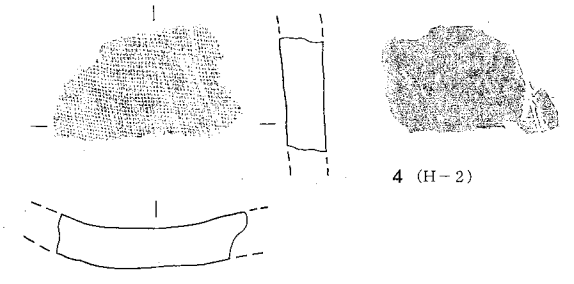
1 (1号河川)



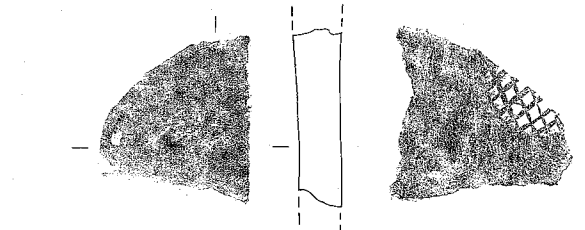
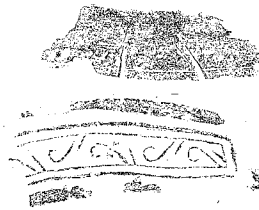
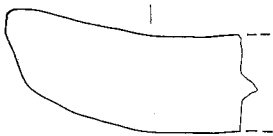
元総社小見内区遺跡 A区



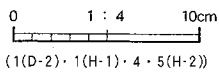
1 (H-1)



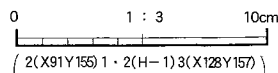
4 (H-2)



5 (H-2)



(1(D-2)・1(H-1)・4・5(H-2))



(2(X91Y155) 1・2(H-1) 3(X128Y157) 1(X265Y137) 1(1号河川))

Fig.39 元総社小見内区遺跡 C区・E区、総社閑泉明神北V遺跡出土土器、元総社小見内区遺跡A区出土瓦(1)

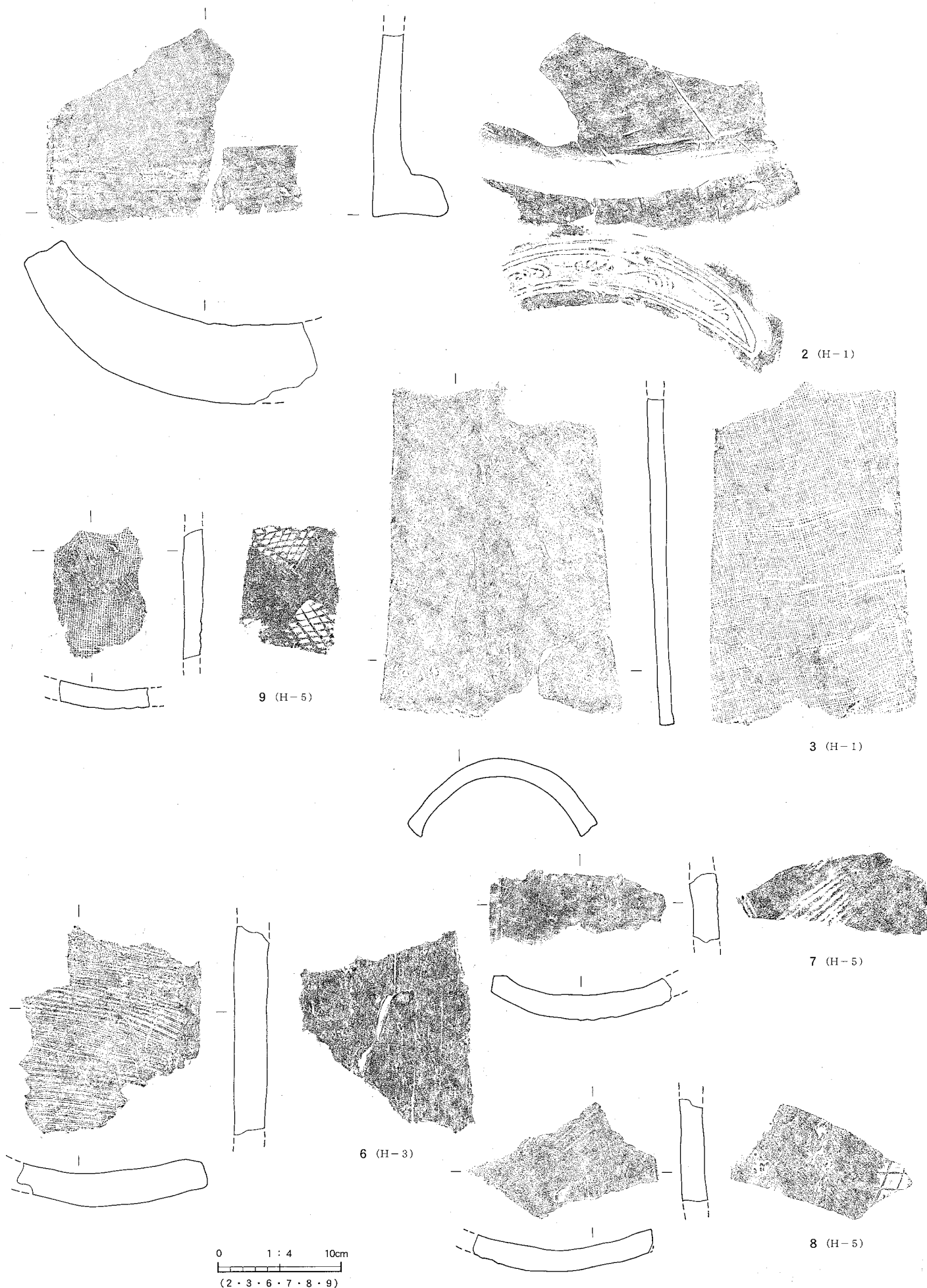
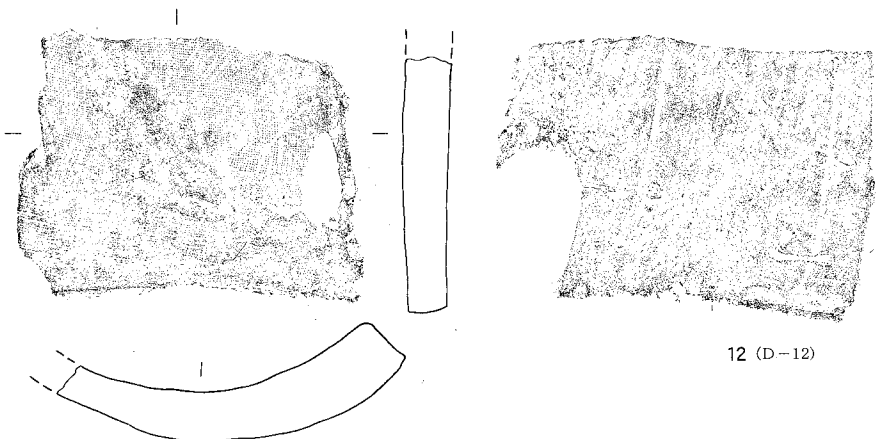
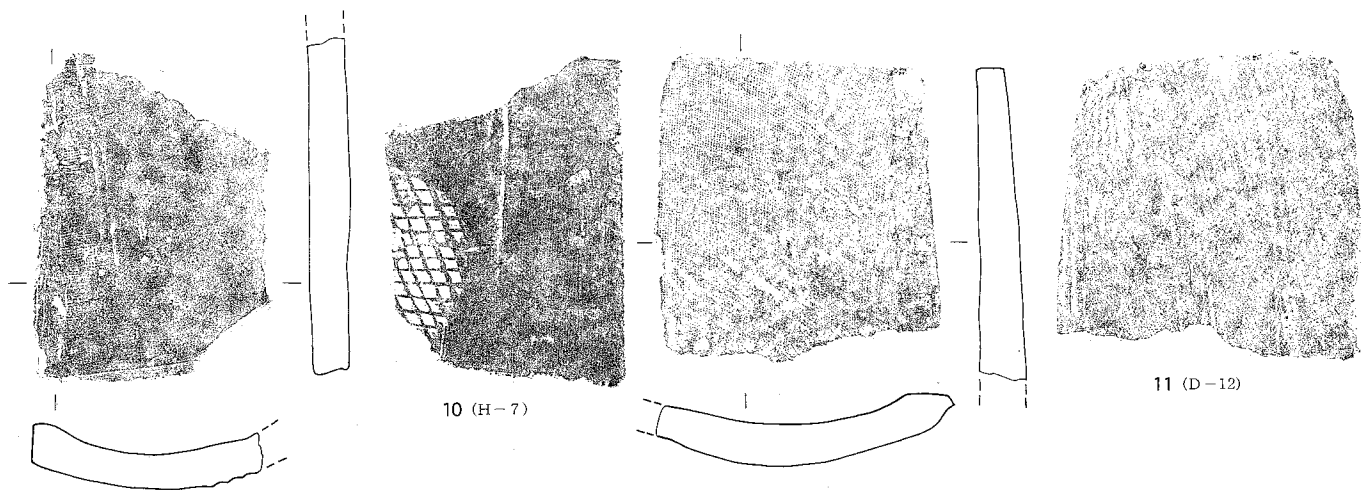
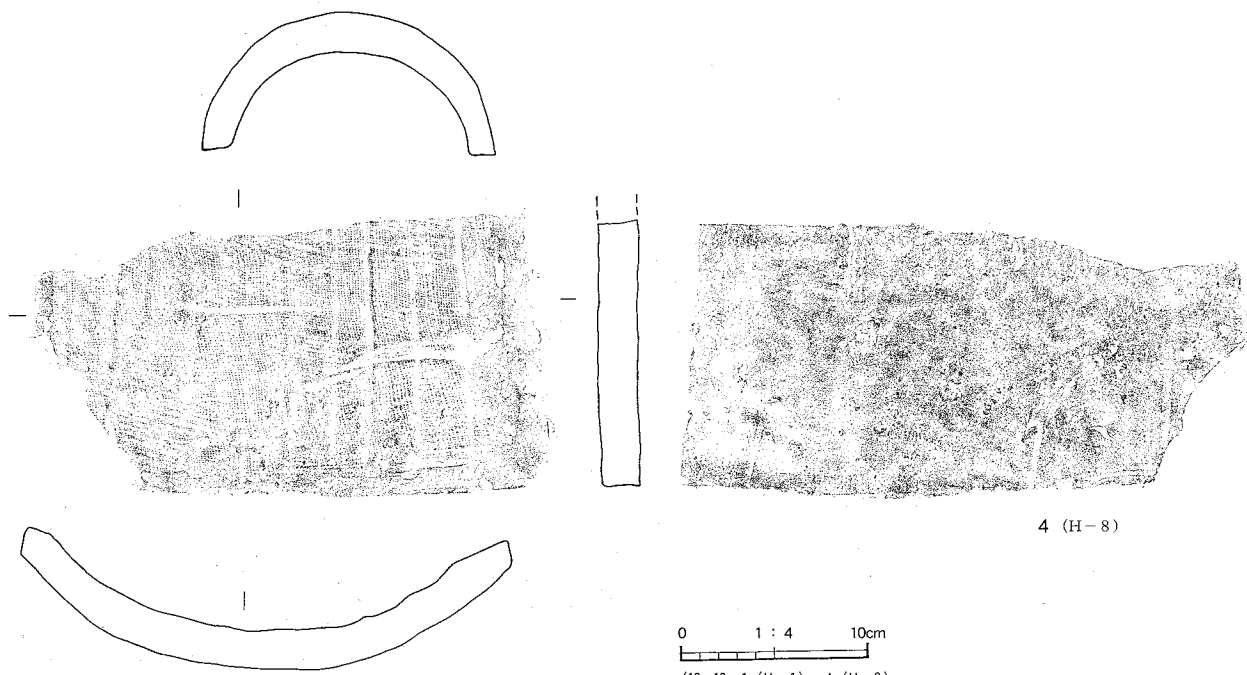
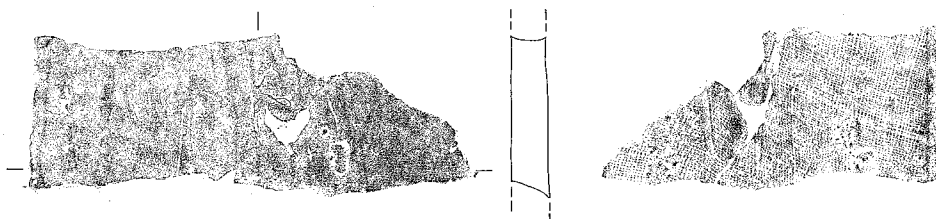


Fig.40 元総社小見内区遺跡A区出土瓦 (2)

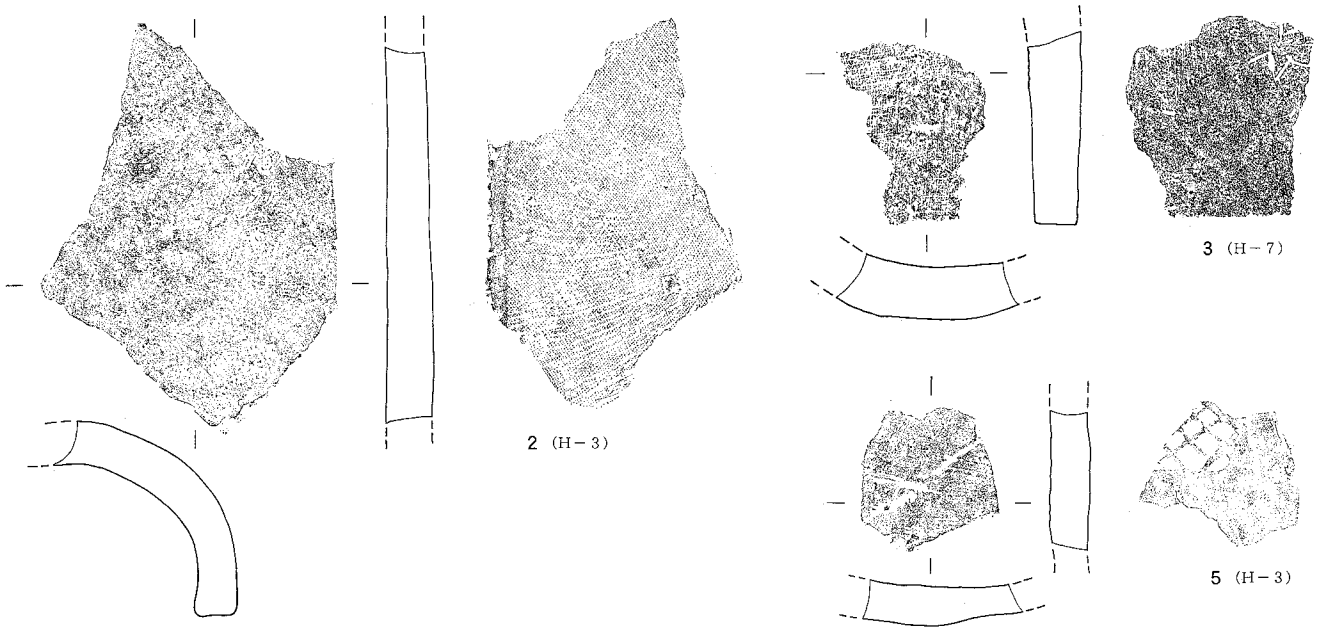


元総社小見内区遺跡 B区

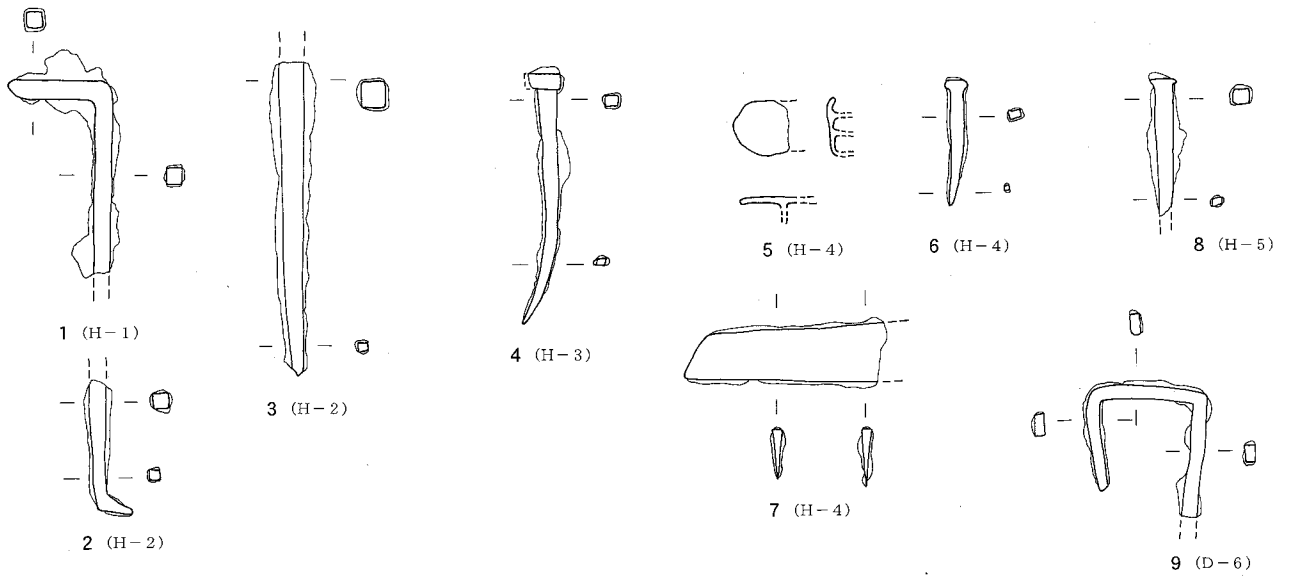


0 1 : 4 10cm
 (10~12・1 (H-1) ・4 (H-8))

Fig.41 元総社小見内区遺跡A区出土瓦 (3)、B区出土瓦 (1)



元総社小見内区遺跡 A区



元総社小見内区遺跡 B区

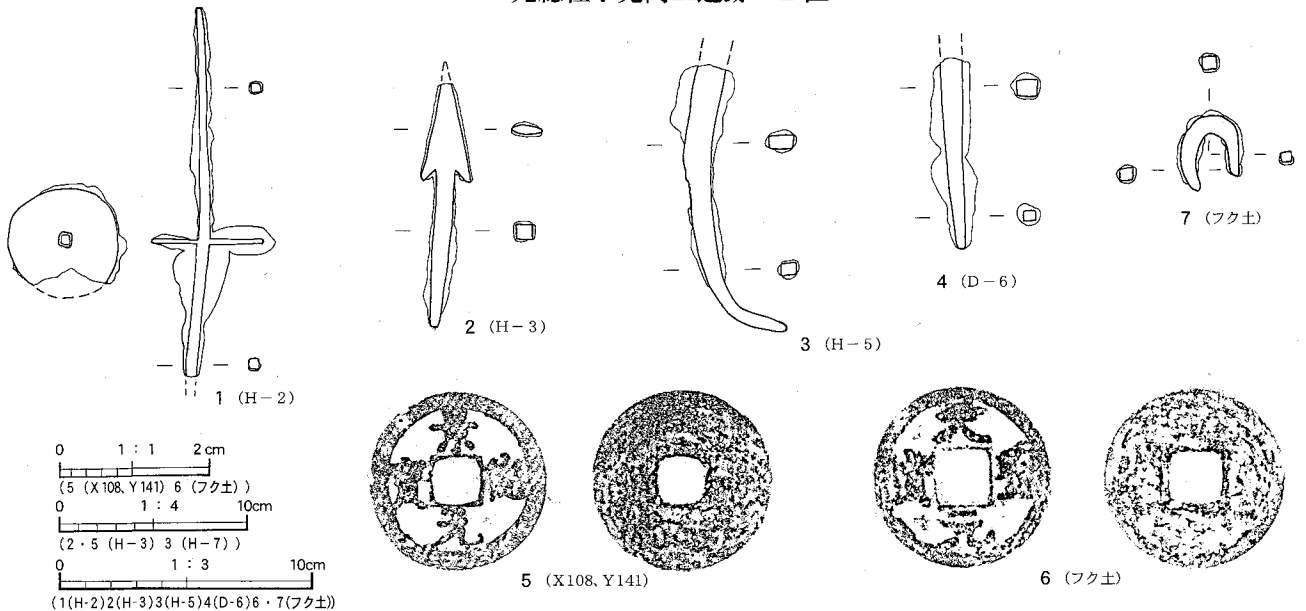
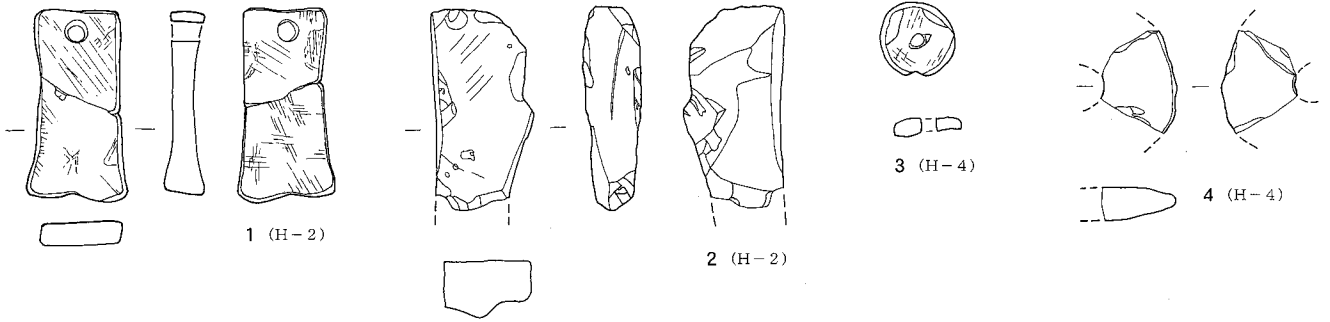
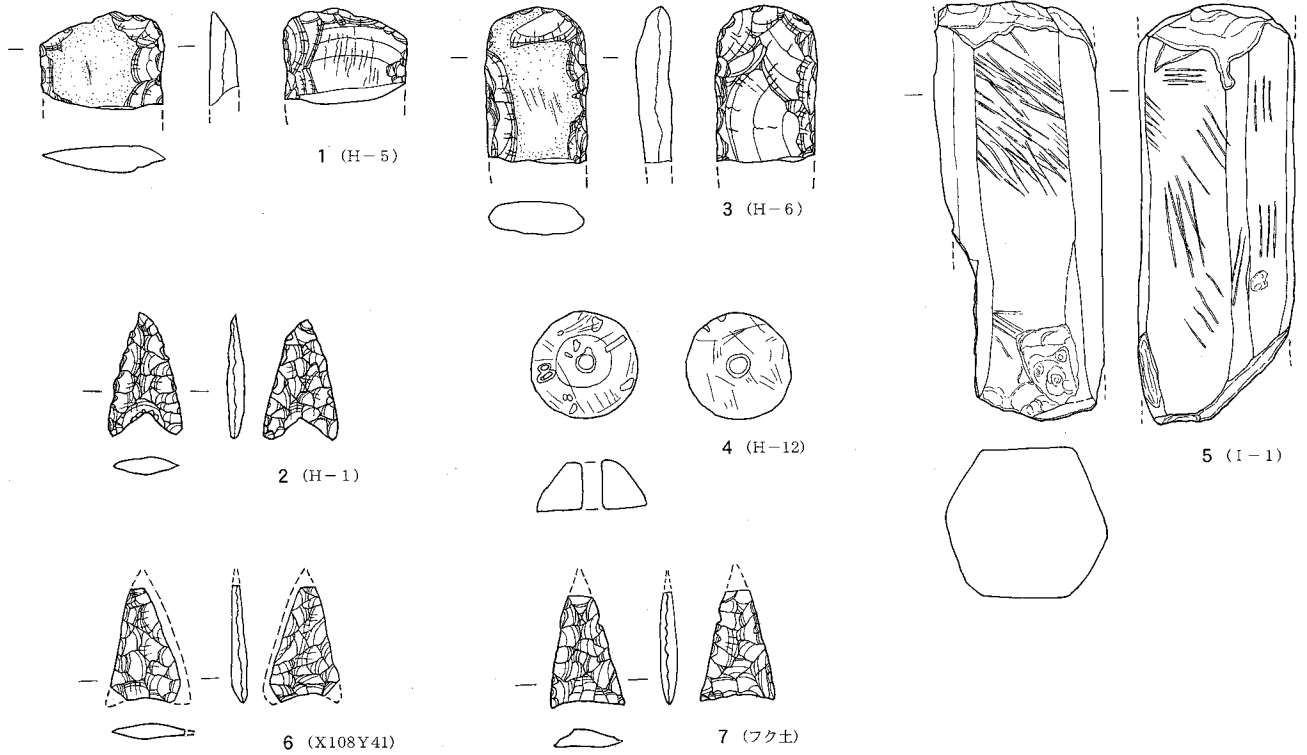


Fig.42 元総社小見内区遺跡B区出土瓦(2)、A・B区出土鉄器・鉄製品・古銭

元総社小見内区遺跡 A区



元総社小見内区遺跡 B区



総社閑泉明神北V遺跡 B区

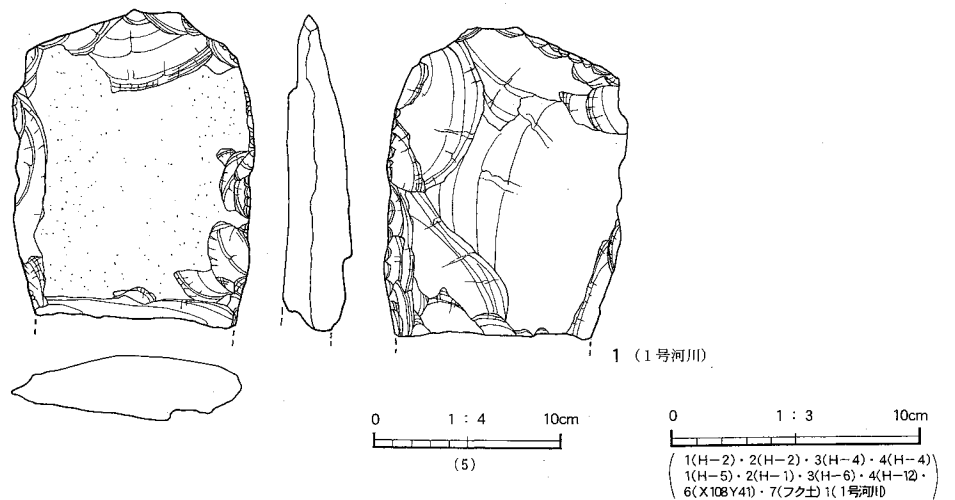
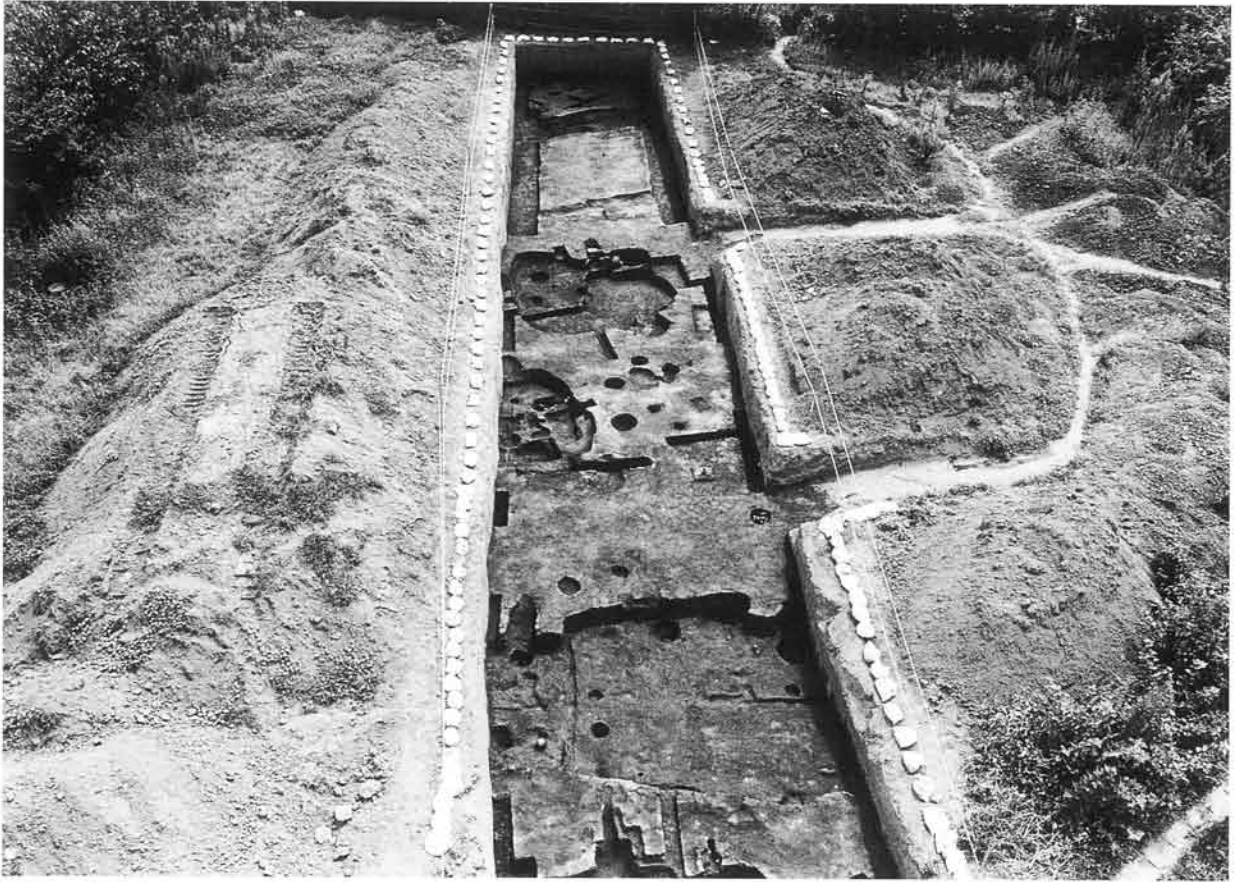


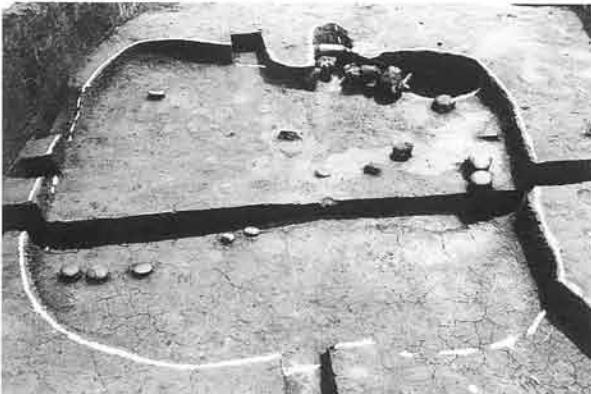
Fig.43 元総社小見内区遺跡A・B区、総社閑泉明神北V遺跡B区出土石器・石製品



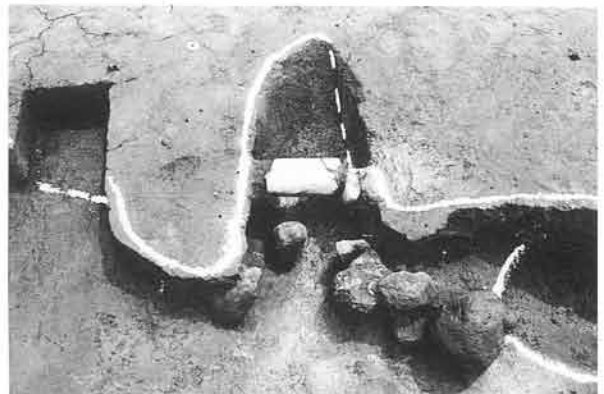
Fig.44 総社閑泉明神北V遺跡B区出土木製品



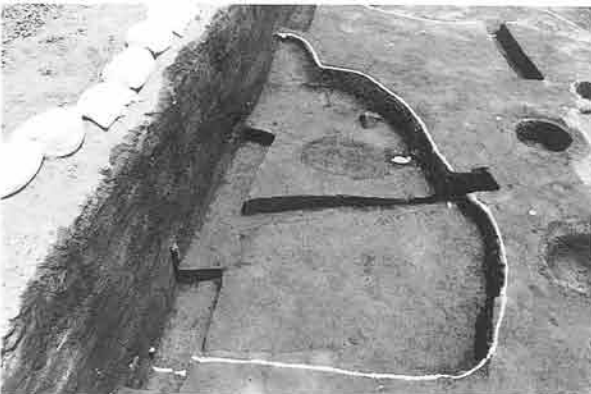
A区 全景 (西から)



A区 H-1号住居跡全景 (西から)



A区 H-1号住居跡電全景 (西から)



A区 H-2号住居跡全景 (西から)



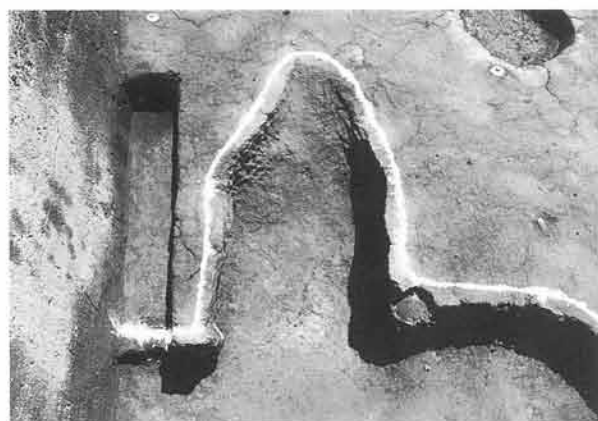
A区 H-2号住居跡電全景 (西から)



A区 H-3・4号住居跡重複全景（西から）



A区 H-3号住居跡竈全景（西から）



A区 H-4号住居跡竈全景（西から）



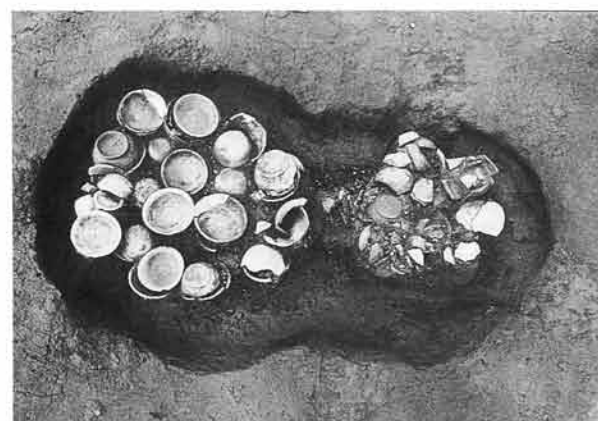
A区 H-5号住居跡全景（西から）



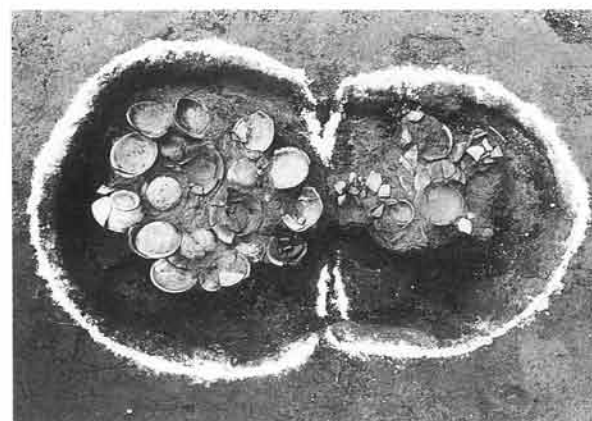
A区 W-1.2号溝跡全景（南から）



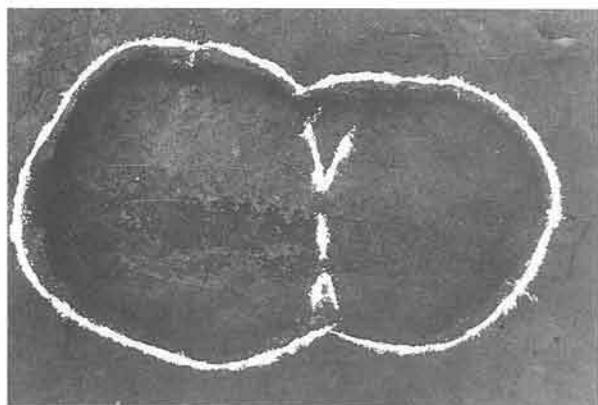
A区 H-5号住居跡竈全景（西から）



A区 1号土器埋納土坑1面目全景（南から）



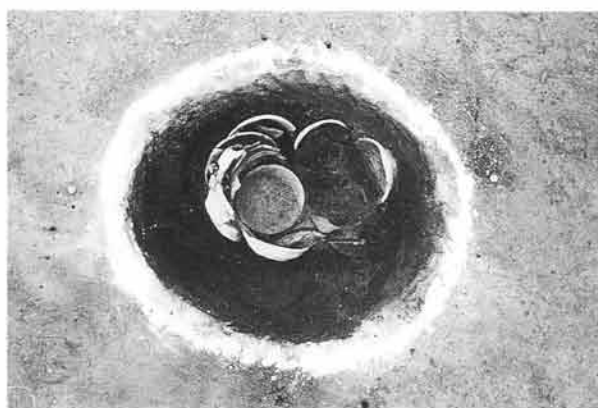
A区 1号土器埋納土坑2面目全景（南から）



1号土器埋納土坑完掘全景（南から）



2号土器埋納土坑1面目全景（南から）



2号土器埋納土坑2面目全景（南から）



2号土器埋納土坑完掘全景（南から）



B区 全景（南から）



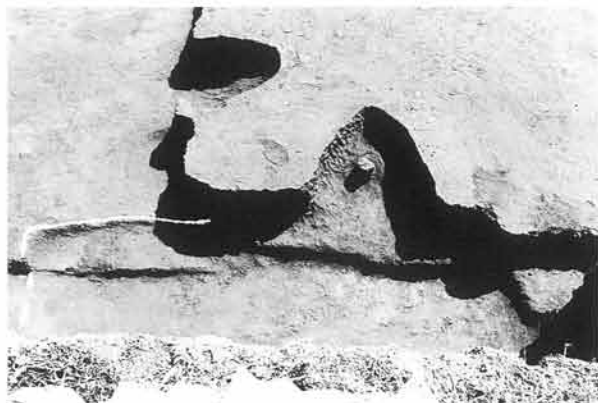
B区 H-3号住居跡遺物出土状況（西から）



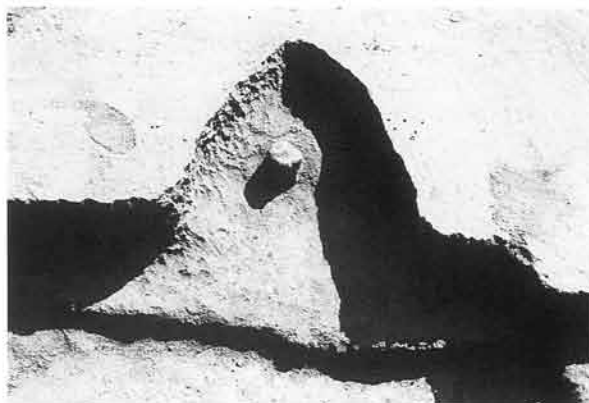
B区 H-2号住居跡全景（北から）



B区 H-2号住居跡竈全景（北から）



B区 H-3号住居跡全景 (西から)



B区 H-3号住居跡竈全景 (西から)



B区 H-5号住居跡全景 (西から)



B区 H-5号住居跡竈全景 (西から)



B区 H-6号住居跡全景 (西から)



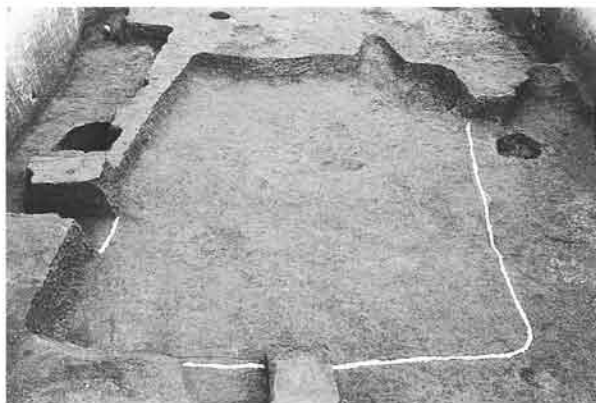
B区 H-6号住居跡竈全景 (西から)



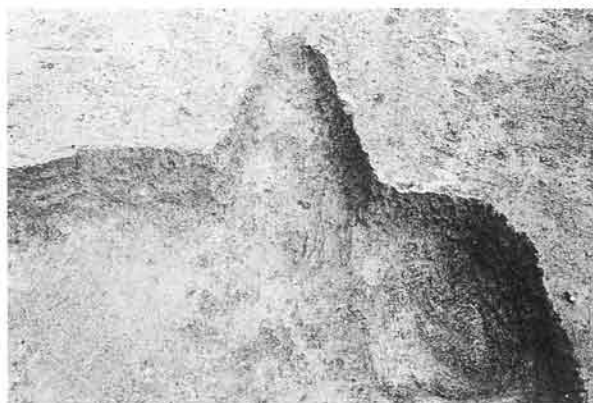
B区 H-7号住居跡全景 (西から)



B区 H-7号住居跡竈全景 (西から)



B区 H-8号住居跡全景（西から）



B区 H-8号住居跡竈全景（西から）



B区 H-9号住居跡全景（西から）



B区 H-9号住居跡竈全景（西から）



B区 H-11号跡全景（西から）



B区 H-11号住居跡竈全景（西から）



B区 I-1号井戸跡全景（南から）



C区 全景（北から）

PL.6



D区 全景 (南から)



E区 全景 (南から)



E区 H-1号住居跡全景 (西から)

総社閑泉明神北V遺跡



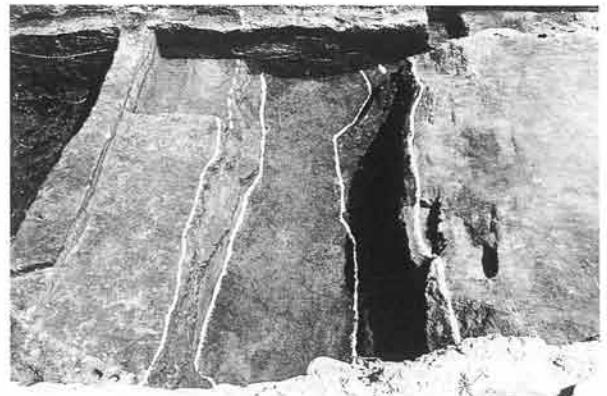
B区 第1面自然河川全景 (西から)



B区 第2面Hr-FA水田跡畦 (南から)



B区 第2面Hr-FA水田跡足跡 (南から)



B区 第3面1号溝跡全景 (南)



1 (H-1)



2 (H-1)



4 (H-1)



5 (H-1)



8 (H-1)



10 (H-1)



11 (H-1)



17 (H-1)



18 (H-1)



13 (H-1)



22 (H-2)



20 (H-2)



24 (H-2)



25 (H-2)



27 (H-2)



28 (H-2)

PL.8



31 (H-3)



33 (H-3)



34 (H-3)



40 (H-5)



42 (H-5)



43 (H-5)



44 (1号埋)



52 (1号埋)



53 (1号埋)



55 (1号埋)



65 (1号埋)



67 (1号埋)



95 (1号埋)



97 (1号埋)



103 (1号埋)



105 (2号埋)



108 (2号埋)



112 (2号埋)



113 (2号埋)



114 (D-6)



115 (D-12)



116 (P-3)



117 (X80,Y132)



118 (X81,Y132)



瓦3 (H-1)



瓦3 (H-1)



119 (表採)



瓦4 (H-2)



瓦1 (H-1)



瓦1 (H-1)



瓦10 (H-2)



瓦1 (H-1)



瓦2 (H-1)



瓦2 (H-1)



石1 (H-2)



瓦2 (H-1)

元総社小見内区遺跡B区▼



鉄5 (H-4)

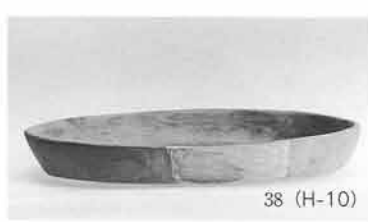


鉄5 (H-4)



5 (H-2)

PL.10





40 (H-13)



鉄2 (H-3)



鉄3 (H-7)



鉄5 (X108,Y141)



鉄6 (フク土)



石4 (H-12)



石2 (H-6)



石5 (I-1)



石4 (H-12)

元総社小見内IX遺跡C区▼



1 (D-2)

元総社小見内IX遺跡E区▼



2 (H-1)

総社閑泉明神北V遺跡A区▼



1 (X265,Y137)

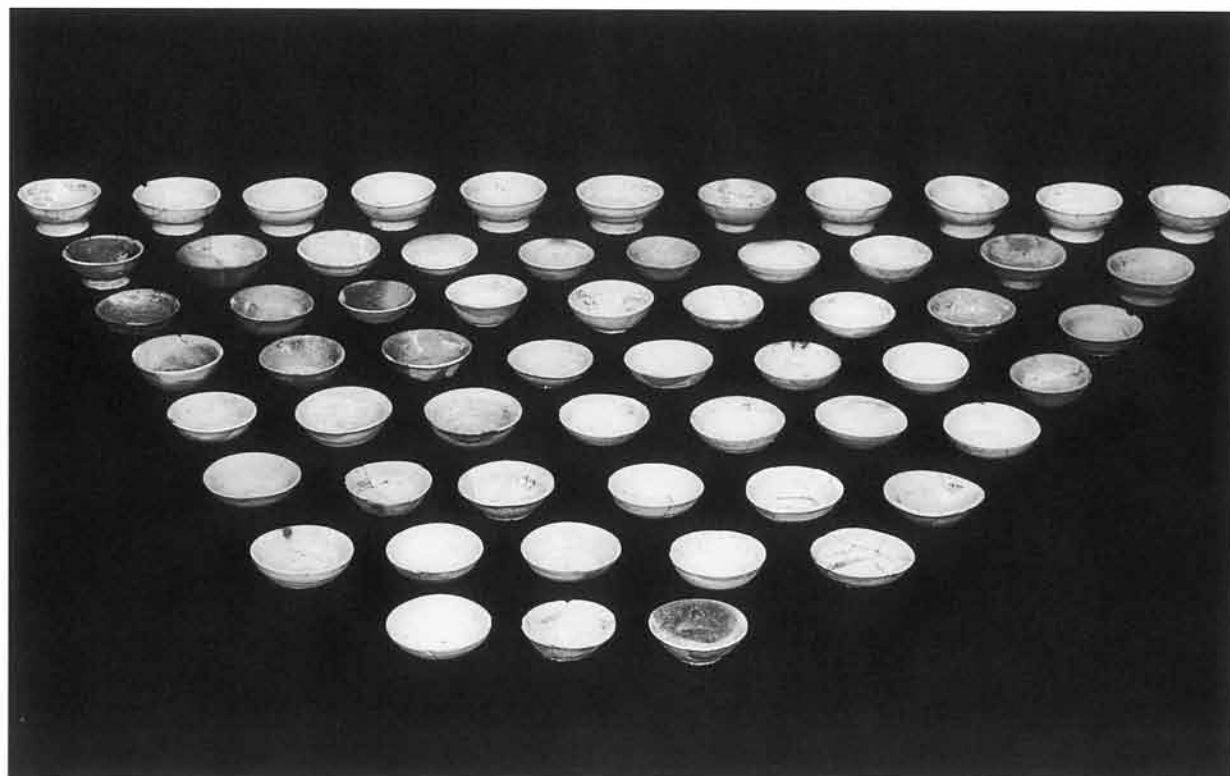


3 (X128,Y157)

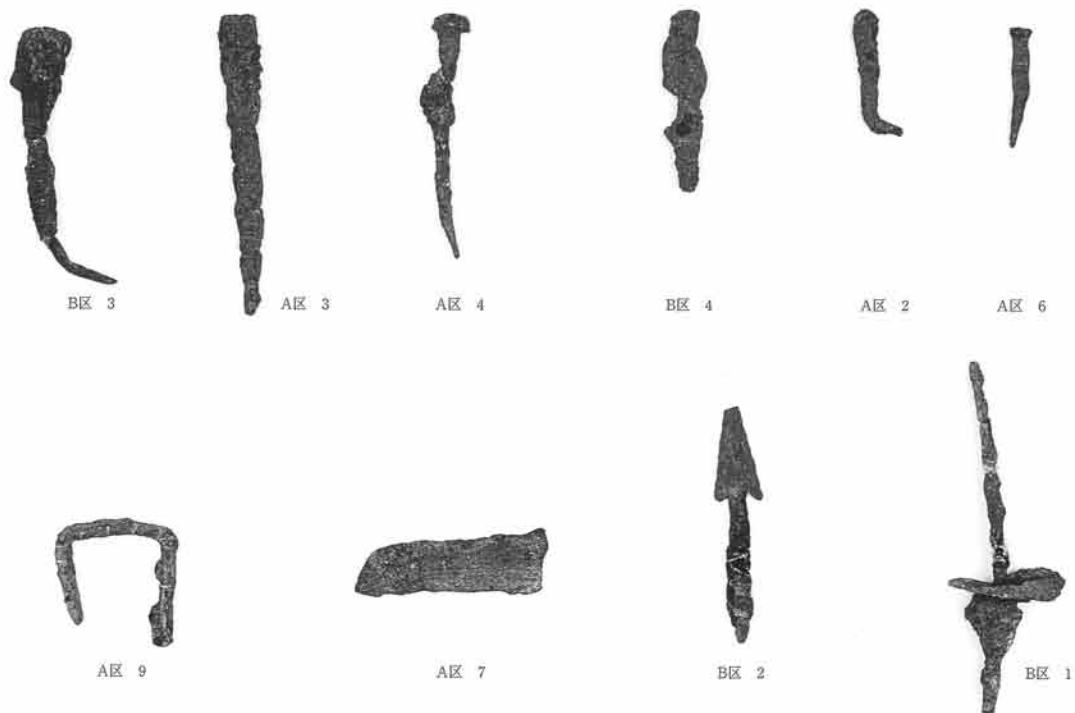
総社閑泉明神北V遺跡B区▶



木1
(窪み状地形)



元総社小見内IX遺跡A区1号土器埋納土坑出土土器



元総社小見内IX遺跡出土鉄器、鉄製品

抄 録

フリガナ	モトウジヤオミヒケキョウ モトウジヤオミチキョウヒケキョウカネシヨウジツキョウヒケ
書名	元総社蒼海遺跡群 元総社小見内区遺跡・総社閑泉明神北V遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	前橋市埋蔵文化財発掘調査団発掘調査報告書
シリーズ番号	
編著書名	岩崎 琢郎 ・ 高坂 麻子
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団発掘調査報告書
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2005年3月24日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトウジヤ オミチキョウヒケ 元総社 小見内区遺跡	マエハシモトウジヤ マチ 前橋市元総社 町	10201	16A114	36° 23' 30"	139° 01' 46"	20040615 20041102	約1,475m ²	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業
ウジヤ カネシヨウジツキョウヒケ 総社 閑泉明神北V遺跡	マエハシウジヤマチ ウジヤ 前橋市総社町 総社	10201	16A106	36° 23' 31"	139° 02' 12"	20040525 20040622	約293m ²	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社 小見内区遺跡	集落跡	奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡23軒 他 溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、瓦 他	なし
総社 閑泉明神北V遺跡	集落跡 水田跡	平安時代 古墳時代	竪穴住居跡2軒 「小区画水田」跡1面、溝1条他	土師器、須恵器 土師器、須恵器、加工材	なし

元総社蒼海遺跡群
元総社小見内区遺跡
元総社閑泉明神北V遺跡

2005年3月15日 印刷
2005年3月22日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所 上毎印刷工業株式会社
